

青木怜奈さんのお母様

【入塾まで】

2歳上の姉が通っていたこともあり、3年の2月から入り、Bクラスでお世になりました。

【苦労したこと】

小さい頃か可愛さのあまり、つい甘やかして接してしまったので、自分の要求に素直な子になってしまいました。算数の白板の直しを少しするぐらいで、予習は答えを丸写しにしたりして、全く勉強をしませんでした。

少し大変になると、すぐに辞めようかなと言うので扱いに困りました。

もう知らないと思いたいと、こんな性格なので高校受験は厳しいはずなので頑張っ
て欲しい思いとの葛藤でした。

【志望校・模試について】

書ききれませんが、たくさん心惹かれる学校がありました。

低学年のうち、あまりこだわりが無いようでしたので、ピックアップしておきました。

- ・ 明るい綺麗な校舎と元気なイメージ、一番近い学校の富士見。
- ・ のびのびとした校風で、広々とした敷地、大学附属なのも魅力的な日本大学第二。
- ・ 品がありイングリッシュアイランドが気になる山脇学園。
- ・ 誠のほかに道なしが校訓で、生徒たちがとても親切な三輪田学園。
- ・ 姉の通っている優しい穏やかな校風の跡見学園。

最終的には、成績と過去問の相性次第とっていました。肝心の成績ですが、予想していたことですが悲惨でした。四谷大塚の合不合格判定テストは2回受けましたが、どちらも偏差値35前後で判定は上の全ての学校で20%でした(本人の許可をえて書いています)。3回目からは首都圏模試に変えましたが、立ち位置は変わることもなく、上に挙げた学校を受験できるような状況ではありませんでした。首都圏模試でも、どんどん成績が下がっていき、最後の合格可能性は、全ての学校で30%未満でした。

社会にいたっては、いつもほとんどビリでした。

秋には4教科での受験が難しいかもと思ったので、2教科でも受験できる学校から娘が一番気に入った三輪田学園を第一志望にしました。

制服にネクタイがあるのと、イギリス語学研修でハリーポッターの聖地巡り(希望者ですが、厳しい応募資格があることは受験後に知りました)に惹かれたみたいです。

第二志望は、村上先生に薦めていただいた実践女子学園にしました。

【1月受験】

土曜日の入試演習を受講していなかったのが経験を活かすために、星野学園を3回受験しました。複数回受けても受験料が変わらないこと、三輪田学園と偏差値も近かったのですが、3回とも不合格でした。2日目は、行きたくないと言っていたのですが、2月で不合格が続くかもしれないことも考え、頑張っ
て行ってもらいました。

過去問を良く確認しないで、安易に受験校を決めてしまった母のミスです。可哀想なことをしてしまっ
たと反省しました。

やはり合格が欲しくなり、合格の可能性が高い学校を探して受験することにしました。宮崎日本大学中はアントレでは受験する方は過去にいらっしやらなかったと思いますが、得点開示をしてくださるので、合格をお守りにしたい方には、お勧めです。

【過去問】

三輪田学園 13回分

実践女子学園 8回分

日本大学第二中・跡見学園・十文字も2、3回ほど取り組みました。受ける可能性のある学校で、相性を見たい時に四谷大塚の過去問データベースを活用しました。

【2週間前】

最後は本当に良く頑張りました。漢字・計算・頻出単元の白板練習・過去問。やることも決まっていたので取り組みやすかったようです。

過去問は3日前ぐらいまで新しいもの入試本番のように取り組みました。辛かったと思いますが、緊張感を待って取り組むことで、ミスも減り、すごく伸びたと思います。

三輪田学園も実践女子学園、どちらの過去問も、ミスの多いタイプのため、良い時と悪い時の差が激しく、毎日ジェットコースターに乗っている気分で生きた心地がしなかったです。三輪田学園の出願者も去年に比べ増えていましたし、過去問を見る限り安心はできなかったもので、他の学校を最初に受けることも考えましたが、娘はチャンスを逃したくない、落ちることなんて考えたらダメだよと言い、どんな時でも自分の合格を信じ、本当に遅しかったです。

ただ1日が不合格なら、何日もかかる可能性もあるかもと思っていたので、6日ぐらいまで受けるプランを、こっそり考えていました。

【試験当日】

長い長い一日でした。受験後、普段と変わらず笑顔で出てきたのでほっとしたのですが、必ずできたと言う子なのに、できてないということはないのだけど...という歯切れの悪い言葉だったので心配になりました。あまり期待しないようにしようと何度も自分に言い聞かせ、発表も怖くて娘に見てもらいました。

見事合格！泣いて喜んでいたので、娘も不安だったのだと思います。良く頑張ったと思います。本当に嬉しくて、こんなに娘のことを誇らしく感謝の思いでいっぱいになることなんて、今後あるのかなって思うほどです。

れなちゃん、ありがとう。

【最後に】

アントレの先生方、長い間ありがとうございました。

一緒に勉強してくれたお友達、一緒に帰ってくれたお友達、仲良くしてくれてありがとうございました。

受験は親子の二人三脚といわれますが、全く伴走することができず、不甲斐ない母でした。面談で村上先生に開ロ一番に扱いづらそうな子ですなと言われてました。そのお言葉で、救われたような気がいたしました。

本当に扱いづらくて、先生方にもご迷惑をお掛けしたことと思います。

ムーミン先生には漢字への声かけ、モモタロウ先生、ラッキョ先生には社会の補習をしていただいたのに、なかなか身にならず申し訳ない気持ちでいっぱいです。先生方にいただいた、たくさんのアドバイスは、これから時間をかけて娘の中で育っていくと思います。

またアントレは、入塾テストがないので、勉強したいと思う子なら誰でも受け入れてくださいました。我が家は、アントレに出会わなかったら、中学受験はできなかったと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

これからもアントレの益々のご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

安部希くんのお母様

受験を終えて、まずはアントレの先生方には心より感謝を申し上げます。

結果こそ悔しいものとなりましたが、中学受験を通して精神的に大きな成長をしたと感じております。

母親視点からの受験記なので偏りもあるかと思いますが、よろしければおつき合ください。

【入塾のきっかけ・入塾時期】

算数が好きで「小学校の授業よりも、もっと難しい問題をしたい」という息子の希望を受け、入塾を検討。

全統小テストを受けたことのある大手塾も視野に入れましたが、アントレの方が学校みたいな雰囲気でも楽しいということで小3の秋ごろに入塾しました。習い事との両立が可能そうだというのも決め手でした。

【習い事との両立】

スイミング → 年少～4年生春まで(4泳法泳げるようになったタイミングで辞めました)

ヴァイオリン → 年少～5年生まで(受験に集中する為、中断)

バスケット → 1年～5年生まで(受験に集中する為、一つ上の代と同じタイミングで退団)

5年の2学期、試合中に脚を痛めたあたりから体調のバランスを崩しはじめました。勉強も集中力が続かないようでした。ストレスフルになっているのが目に見えてわかったので、『自分にとって、今、何が重要なのか、また、何が自分にとって悔しいか。』を問いかけはじめ、少し考えてもらうことにしました。親としては何が大事かの答えによっては受験断念も視野に入れていました。年が明けて1月、息子からの答えは『習い事を休む』ことでした。勉強で結果を出したい。という気持ちを聞き、区切りの良いところで習い事から離れる決断をしました。最後まで両立できるお子さんもいますが、息子の場合は器用な方ではなく、どっちつかずになっていた為の決断です。

結果、すっきりしたようで6年カリキュラムが始まると取り組む姿勢や集中力の向上が見られるようになったのでホッとしたのを覚えています。

【小学校】

5・6年時より学校でも受験組は男女関係なく休み時間や放課後に問題を解き合ったりしていたようです。クラス担任が算数の得意な先生だったこともあり、質問があったら持って来てね。というほど寛容だったからというのがありますが、受験することへの抵抗感がない雰囲気でしたし、また、受験するクラスメイトとも切磋琢磨できる環境だったことが幸運でした。きっと心強かったのではないかと思います。

【冬休み明けの過ごし方】

冬休みが明けるとすぐに埼玉受験が始まります。

息子は『社会科見学(1/12)には参加したい』という強い意志があり、1校目を10日に設定。11・12日は登校、13日から2/3まで学校を欠席しました。(塾は出席)

学校欠席に合わせて仕事を休みたいところですが、そうもいかないのが現実。課題と目標を息子と決め、留守番をさせていました。静かだったから集中できたと言ってノートを見せる我が子に成長を感じました。

やっと受験生らしくなってきたなと実感できたのはこの時です。

1時半からはZOOM自習室を利用しました。

気をつけたことはしっかり休ませて、疲れを溜めないようにしたことです。

【志望校・受験校について】

息子の志望校の基準 ①男子校 ②緑があること ③バスケ部があること でした。

受験スケジュール

1/10 城北埼玉中学 4教科試験 → 特待合格

埼玉合同説明会でお話しを伺ったのみでしたが、面倒見の良さそうな学校だと感じました。初戦は好スタートをきりたかった為、受験を決めました。実際に受けて、受験の雰囲気を知って、しかも自信がついたようで受験後の勉強意欲が増しました。

1/25 立教新座中学（第2志望①） → 合格 → 入学予定

自宅からの距離が近く、グローバルな環境、自律を促す校風、設備の充実ぶりに魅力を感じました。タケノコ先生から個人面談でAクラスからは毎年でも1名くらいしか合格できていない学校です、第一志望校と並行して過去問対策を万全にと言われていました。過去問を解くと理科でポケモンが出てきたり、社会では旅行に出る設定で総合的な問題が組まれていたり、算数の問題が難しかったりと楽しかったようで意欲的に解き直しをしていました。試験を受けた後はすっきりした顔をしていましたが、まさか受かるとは思っていなかったようで、3回も合格発表サイトを確かさせられました。

今年度は直前のアントレの授業で教わった内容が出題されたそうです(算数・社会)

2/1 桐朋中学（第1志望） → 不合格

数学に力を入れられそうな環境、部活動との両立、みや林、雰囲気が魅力的で本人が行きたいとずっと希望していました。過去問は8月末から直前まで何度も解き直し、合格点も取れていました。試験当日、これまでの試験では冗談を言いながら登校できていたのに、この日は会話が少なく緊張しているようでした。算数の見直しをする余裕がなかった、時間配分をミスしたとのこと。

いつもの力を発揮できなかったようです。

2/2 桐朋中学 2回目 → 不合格

国立駅に着くやいなや、腹痛を訴えはじめました。やはり緊張していたようです。温かい飲み物を飲ませながら学校に向かいました。学校に着く頃には落ち着き、大きく深呼吸をして入って行きました。試験は自分の中ではうまくいった！見直しもできた！と自信いっぱいでしたが、結果は残念。

2/3 海城中学（超チャレンジ校） → 不合格

清々しいほどに自律した雰囲気の学校。理科棟と部活動の充実ぶりに心惹かれていたようです。チャレンジ校であることを本人も認識した上で、自分を試したいとのことから受験。算数と社会はかなり点数が取れた！とこれまでやってきたことへの自信がついたようです。

このほかに、2/3・5の成城中学（第2志望②）の受験も視野に入れていましたが立教新座が合格だった為、出願しませんでした。

【受験校の決定まで】

学校説明会は、5年春よりオンラインでの参加からはじめました。入場制限が緩和されてくると事前予約での入場参加が可能になりましたが、予約枠の争奪戦の日々でした。(直前キャンセルが必ずあるので諦めず、予約ページを確認すると〇でした) 実際に訪問した学校は男子校9校(うち2校は親のみ)です。タケノコ先生よりいただいた『説明会に行ったら学生の姿を見て、通っている我が子の姿が想像できるかは大事ですよ』というアドバイスを心に留め、本人が志望校を決めて頑張っていました。実際に受験校を決定したのは12月に入ってからです。我が家の場合は揺るがない第一志望校がありましたので、併願校はその学校と同じような校風の学校を選びました。

【さいごに】

アントレに通った約3年間はできるだけ、送迎をしていました。送迎の車内はときには報告会、ときには勉強部屋、そしてときには寝台車でした。我が家には2歳差の下の子がいます。常にふたりでじゃれあい、さながら動物園状態な毎日ですが送迎の20分間は息子(長男)とふたりきりで過ごす貴重な静かな時間でした。色々な話しをしました。会話の内容はくだらないことが多かったですが、コミュニケーションをとる中で垣間見える息子の状態を感じとりたいと思って接していました。中学受験は家庭学習はもちろんですが、メンタル面のサポートがとても重要だと感じました。できるだけ、会話をしてみてください。そして、とても忙しい毎日だと思いますがときには冗談を言ったりして、笑いあう時間を大切に。皆さんの受験がよりよいものとなりますように。

荒結翔くんのお母様

アントレと出会わなかったら、息子の中学受験は途中でリタイアしていたと思います。すぎる思いで体験授業を申し込んだとき親子ともども中学受験に疲弊しきっていました。アントレに通う事で息子は「勉強って楽しい」「もっとがんばりたい」「僕だってできるんだ」と笑顔が増え自信をつけていく事ができました。5年生の5月という中途半端な時期にも拘わらず温かく迎え入れて下さりご指導いただいた事素敵な仲間に恵まれた事心から感謝申し上げます。以下、長くなってしまいましたを受験体験記を記載いたします。少しでもこれから受験に臨むご家庭の参考になれば幸いです。

◆塾選び

3月生まれの第1子でおっとりさんの為、集団塾で揉まれる事が難しそう、かつ共働きで送迎が厳しい事もあり家で勉強できるように通信教育で中学受験対策を始めました。自宅学習ができるタイプだったので大丈夫かなと思っていたのですが5年のカリキュラムになると算数が全く歯が立たず。何時間も解けなくて固まっている事がふえモチベーションの低下と下がり続ける成績に中学受験を諦める事も考えました。

それでも中学受験は続けたい！という息子の気持ちを汲みあちこちの塾説明会に参加した中で

「アントレという塾は算数を教えるのが上手で今からでも受け入れてくれる可能性がありますよ」

と聞いて体験授業の申し込みをしました。

体験授業から戻ってきた息子にドキドキしながら様子を聞いたところ

「めっちゃ楽しい！」「ここに通いたい」

と満面の笑顔で応えてくれました。

その笑顔を見て私も精一杯サポートしようと思ったこと覚えています。

◆入塾～5年終わり

授業の予習・復習・まとめテスト対策のペースづくりに苦戦するものの授業が楽しい、白版で○をもらいたいという気持ちで日々学習を進める事ができました。志望校も城北中学にきまりそのためにAクラスに上がりたいと意欲をもって進められました。孤独な通信教育時代と違い仲間がいて先生が自分をみて教えてくれて成果も出てきてそのすべてが嬉しくてニコニコとアントレに通っていました。親としても毎日頑張ってる楽しそうにしているので安心して見ていられた時期です。

◆6年前半

念願のAクラスに上がって意気揚々と授業に向かうもまったく算数の白版で○が取れなくなりました。

前以上に頑張っているはずなのに成績が落ちていくばかりで苦しい時期でした。

5年の時は、お迎え後楽しそうにアントレの様子を話してくれていたのに、言葉少なに「できなかった。。」とうつぶす事が増えました。

清水先生に面談をお願いし様子を相談したところ「まだAクラスの勉強の質・仕方に慣れていないのでは？」

との事だったので今までより質を高める試行錯誤をくりかえしました。

苦手の算数は

①帰ってきたらすぐ復習する

②理解できたら解き直し

③解き直しが終わったら父母どちらかに解き方の説明をするを繰り返しました。

②or③で躓いたらアントレで質問をする準備をしていつ誰に聞くかまで段取りをつけました。ただ、この「質問をする」が彼にはハードルが高かったようで中々質問の付箋がはがれない状況が続きました。

「助けて清水先生！」と面談を申し込みががんばっているのに成績が伸びず自己肯定感も下がり始めている事を相談したところ個別授業の提案を頂きました。我が家における転換期がこの個別授業でした。

・アントレのやり方で説明してくれる（父母だとどうしてもやり方の違いで衝突することがあるので）

・聞くのが恥ずかしくてできなかった質問したいところをじっくり聞ける
・どの先生もほめ上手でできない所ばかりで落ち込んでいた息子に「できる」「わかる」と思えるよう導いてくださる。（よく「一緒に解いたらできた！」と言っていたので適切なアドバイスで自分で解けたと思えるように導いてくださっていたのだと思います）

本当にお願ひしてよかったです。

これでようやく下がる一方だった成績とモチベーションがやや上向きに反転することができました。

◆夏休み

苦手の算数と社会を中心に取り組みました。

このころには「迷ったら清水先生に相談する！」が我が家の基本方針でした。

両親共に地方出身で中学受験の経験が無い為色々調べても余計にわからなくなる事が多くだったらプロに相談しよう！と

夏休みの学習方針について相談したところ

- ・まずは算数に注力
 - ・あと社会も取り組む。社会は量が多く秋以降に取り組んでも間に合わない可能性があるの
で夏で取りこぼしを拾う
 - ・国語は後回しでOK（息子は読書が趣味で国語は得意科目でした）
 - ・理科はコアプラ中心に授業をメインで取り組む
- と伺いよし！夏で社会を得意にするぞ！と息子と意気込みました。

算数は、6年前半でやり方は固まってきたので、とにかく解けなくてもめげずに頑張る。苦手は5年夏の白版に戻ってやり直すことを続けました。

ずっと後回しになり手を付けられなかった社会に取り組んだところ

…夏の間よく息子が泣いていました。

思った以上に解けなくて、わからなくて悲しいのとこんな状態では城北に届かないのではという怖さによく涙していました。

ふと静かだな。どうしたのかな？と気になり覗き込んでみると

はらはらと涙を流しながら地図やコアプラを眺めている事もよくありました。

泣きながら頭にいれて、問題を解いてみて思ったように解けずまた泣いて。

これほど息子の涙を見たことはなかったと思います。

夏休みの思い出は家庭学習で隙間ができたらひたすら社会です。
全然地理が頭に入っておらず都道府県と県庁所在地・主要な河川・山地・工業地帯
学習するベースになる知識の取得からやり直しました。

ここまでしたから社会は得意になりました！と言えたらよかったです
「絶望的」→「普通。。と言えなくもないかも」というレベルアップでした。
苦手科目の克服の難しさを痛感しました。

◆6年後半

それでも、夏の成果が表れ模試の結果も上向きになりこれからもっと頑張るぞ！

ひょっとしたら城北に手が届くかもと思っていた時

息子はスランプに陥りました。

なぜか全然問題が解けなくなりました。

やり方も変えていないのに、何か特に変わった事があったわけでもないのになぜ？

と困惑しているうちにどんどん悪化していき食欲もおちて明らかに様子がおかしくなりました。

「清水先生どうしよう!？」と相談したところ

「少しお休みしましょう。ペースを落として過去問も一旦止めて一ヵ月二ヵ月かそれで様子
を見てみましょう」

と

息子とも話をして通常授業の予習・復習だけはやってそれ以外はペースを落として
体調含めもとに戻るまで回復期間にしようねと。あと半年で本番、みんなが本気になって頑
張る時期にペースダウンはとても不安でした。

でもこのスランプを脱しないと中学受験を続ける事自体が難しい状況です。

入試演習のクラスを男子上位から中堅上位へ変更し、算数のクラスをA→A' (Aの中でも基本
的な問題を扱うクラス)へ変更し、少しでも難易度を下げできる実感を得られるようにしま
した。

幸い一ヵ月ほどで徐々に調子が戻りはじめ、少しだけ過去問に手を付け始めて二ヵ月立つ頃
には、通常授業+過去問を解くことができるようになりました。

また、コロナで行けていなかった文化祭へ行けたことも大きかったです。
文化祭で入りたい部活を見つけ、僕は絶対ここに入るんだ！と意気込んでいました。

元のペースへ戻す判断は、

- ・本人のモチベーション
- ・問題を解くスピード
- ・入試演習での順位

をみて大丈夫かなと思い最終的に清水先生との面談で相談し決めました。

後で思い返すとこの時期は

- ・学校が始まった
- ・運動会の準備もあり忙しくなった
- ・入試演習がはじまった
- ・そもそも夏の暑さが苦手を受験じゃなくても夏バテを引きずる季節

の為オーバーワークだったのだと思います。回復の為とにかく睡眠時間の確保を心掛けまし

た。

でも、もう 11 月も終わりなのに進んでいない過去問に頭を抱えました。

◆冬期講習・入試直前期

スランプを抜けて、入試演習の順位も上がってきてとにかくやるしかない
新しい事を始めるのではなくアントレの授業の復習と過去問の質を上げる事に注力しました。
息子は今の自分と希望校との実力差を実感し始め、解けない問題にあたると酷く落ち込んで
いました。

気分転換に休憩を勧めると

でもたぶん理解して解けるようにならないと気持ちが晴れないからこのまま勉強する
と言い机に向かう姿に受験生になってきたなと思いました。

(もちろんまだまだ集中力が足りない事も多かったですが)

冬期講習あたりからできない自分から逃げるのではなく向き合えるようになってきた気が
します。

12 月の後半でようやく初見で過去問が合格最低点を超えるようになってきました。
秋で後れた為中々進まず悶々していましたが、少し光が見えてきました。

1 月は、感染予防で学校を休んで週 1 だった個別授業をお願いして週 2 に増やしてもらいま
した。

家でずっと勉強だと息が詰まるので個別授業で楽しく教えてもらおう事でメンタルを保つ目的
もありました。

本当に優しく教え導いてくださった先生方に感謝です。

本番が近づくにつれ緊張が高まってきてふとした事で落ち込んでしまうので、家族全員が細
心の注意を払ってすごしました。

親としては、秋のようなスランプ状態で本番に臨むことだけは避けたかったので

怒らない・励ます・ほめるを心掛けできたことに目を向けるように言葉をかけました。

(小言を言いたくなる時は秋のスランプで落ち込んだ様子を思い出しあの時より全然良いと
自分に言い聞かせました (笑))

◆本番当日

体調もよく、緊張もしているけれどガチガチではなく普通に朝ごはんを食べている様子にほ
っとしました。

体調不良やメンタル不安定になった時に対応できるようかなり早めに会場にむかったのです
が特にトラブルなく落ち着いた様子に、この状態で本番に臨めただけで十分。この子は本当
にがんばった。

と既に母が感極まっていました (笑)

午前中に城北・午後には獨協 (2 科目) を受け自宅に着いたのが 18 時過ぎ。

夕飯を食べたり明日の準備をしているうちにあっという間に合格発表の時間です。

自分でみる! というのであとはボタンを押すだけの状態のスマホを息子へ渡しみんなで画面
をのぞき込むと

【「合格」です。おめでとうございます。】

結果として2/1の午前で合格を頂け想定外の速さで中学受験を終える事が出来ました。

最後に

担任の清水先生をはじめアントレの先生方、個別の先生方、本当にありがとうございました！
皆さま方にご指導・励ましを頂けて親子ともども本当に幸せでした。

そして、3年後また次男がお世話になる予定です！どうぞよろしく願いいたします！

市原嶺くんのお母様

初めに、これから中学受験に挑まれる保護者の皆さま、
アントレとともに親子2人3脚の旅が始まります。
共働き、中学受験未経験者の両親でも、なんとか結果を導き出すことができました。
どうぞこの体験記を何度も読みかえし、先輩たちのやり方、行動を真似してください。
そして、心の動きに触れてください。きっと役に立ってくれると思います。
私たち家族の歩みも皆様の一助になれば幸いです。

【入塾のきっかけ】

3年の秋より大手塾の中学受験準備講座に参加していましたが、子供の様子は苦しそうでつまらなそう。どうしたものかと幼稚園の頃よりお世話になっている家庭教師の先生に相談してみると、アントレを勧められ、早速体験授業に参加。
カッシーのクイズ形式授業にずっと笑顔の子供の姿をみて、楽しそう！ココなら長く続けられるかも！と母。子供の感想もココで勉強したい！の一言でアントレに即決しました。

【通塾と家庭学習】

4年生(3年生2月～)1年間 Bクラス→Aクラス

- ・入塾当初は、塾と習い事、家庭学習のペースをつかむことを重視し、保護者会資料などを参考に1週間のタイムスケジュールを作り、無理があれば見直しし取り組んでいた。
- ・ペースをつかみかけた矢先、コロナの猛威、学校も塾も休校。不安な毎日。

休校中は動画授業、プリント配布で対応

→その後Zoomオンライン授業が開始。アントレならではの早期対応に感涙、ホッとしたことを覚えています。Zoom内での子供たちと先生の掛け合いがとても楽しそうでした。

- ・対面授業が5月下旬から開始になり、また通塾のペースをつかむことに尽力。
- ・アントレから示された家庭学習内容に沿って「予習」→「授業」→「復習」のリズムを大事にした。
- ・クラスがBからAへ、クラス選択については先生の見立て通りについてゆけばいいと思います。
- ・この一年間は、コロナに振り回され、ペースをつかむのにとっても苦労しました。

その影響なのか？勉強に集中できていないことが多く見受けられた。

算数…予習 シリーズ例題・類題・基本問題を土日メインで時間をかけた。

中学受験未経験者にとっての算数は難解すぎたため、家庭教師の先生にお手伝いをお願いしていた。

シリーズ計算1日1ページ指示通りに取り組む。

さぼり癖があったので、毎日チェックしていた。

復習 最重要課題 白板問題。間違った問題の解きなおし。宿題プリント。

国語…予習 シリーズ音読と知識部分

復習 知識の間違ったところを再確認。

読書好きで国語は比較的得意なので、長文読解については見直しのみ。

理科・社会…予習 要点チェック

復習 演習問題集に取り組む。

暗記分野については、料理中や食事中に家族で質疑応答していました。

5年生の1年間 Aクラス→Sクラス→Aクラス

- ・入塾から一年が経過し、アントレでの生活も慣れ、いろいろな癖が見えてきました。うちの子はケアレスミスがとても多かった。これは致命的。

その対策として毎日計算がいいと先生からアドバイスがありました。

それなら、朝型を習慣化するためにも30分早起きして、毎日計算と漢字練習をするように働きかけましたが、やれたりやれなかったり。

- ・学習内容が多く、難しくなり予習の時間が足りなくなった。
時間確保のために、習い事の整理→3月末英会話とピアノ、9月末野球終了。
- ・この1年間は、膨大な量の知識を取り込まなくてはならず、予習にも復習にもたくさんの時間が必要だった。
- ・クラス変動があったこと、知識の定着に不安もあったこともあり、10月より算数の個別指導をお願いすることにした。授業内容の定着とレベルアップを目標に。
算数…予習 難解な上、量が多くなり負担増。時間を増やし理解できるまで丁寧に。

1回目の授業と2回目の授業の間にテストの復習解きなおしを実施。

復習 白板問題の復習に力を入れていた。

国語…予習 シリーズ音読と知識

復習 知識の間違い見直し、銀本の長文を読む練習1日1校分

理科・社会…アントレの指示通りになんとか取り組ませた。

6年生

《夏休み終わりまで》

- ・授業内容は、復習にシフトしてきた。苦手問題を見つけ取り組むようにした。
- ・算数・国語…「四科のまとめ」をしっかりと。何度も取り組んだ。
国語の漢字については「中学受験漢字1580」をやりこむ。
- ・理科・社会…コアプラス（理科・社会）をやりこんだ。
白地図トレーニング、年表トレーニングを合わせて取り組みました
社会の時事問題については、秋にアントレで全員購入するのでご安心を。
- ・5月頃、四谷大塚の第1回合不合格判定テスト実施→予想に反してかなり低い結果。
志望校を考え直すきっかけに。
- ・夏休み中、志望校をある程度絞り込んで、過去問を解いて、子供の感触（解きやすいか？問題との相性がいいのか？）を確かめた。

《秋から直前まで》

- ・**合不合格判定テスト**が毎月実施。学校見学も兼ねて毎回会場を変えていました。
わが子は偏差値50くらいを低空飛行中。毎回不安のどん底に。
なぜ上がらないのか？真剣に悩み、子供とも大喧嘩をし泣きました。
何度か試験を受けていくうちに
【*みんな頑張っているので一気に上昇しないのは当たり前
*問題数も多く捨て問も多く実際の入試とは別もの
*このテストでは受験生の中での自分の立ち位置を知りそして苦手分野を知る
以上のことに気づくまで随分と時間がかかった気がします。
気づいたことで、わが子の頑張りを受け入れ、前向きに考えることができた気がします。】
- ・**入試演習クラス**が開始（ひばりが丘教室にて）
クラス選びで悩んでいたの先生にお尋ねしたところ、初めは無理せず合格がもらえるレベルから始めてどんどんクラスを上げていけばいいと教えて下さいました。
初めは合不合格テストの結果と夏期講習での成績を踏まえて、中堅上位校から始めました。
毎回、入試実践。合格を3度続けていただき、子供にも自信が付き男子上位校に変更。
変更後は、補欠は取れるがなかなか合格まで届かず。
でも確実に力が付いてきていることは感じていました。
子どもに伝えていたことはひとつ。

『今は合格しなくてもいいの、最後、頂点に持っていけばいいの！』

その言葉通りに、1月に入り第14回、15回ラストと合格をもぎ取ってきました。
この時、イケる！と感じました。

・過去問に挑戦

どの過去問を取り組むか？夏休み中に問題との相性や問題の傾向が似ている学校を選んで、過去問を購入しました。

ここで、塾長さんからのアドバイス、とても参考になりました。

「子供は答えがあれば見てしまうのは当たり前。悪い事と思っていない。

だから、答えは切り取るか、問題と解答用紙をコピーして答えを隠すかしてください。」
ぜひ、実践してください。

9月は問題との相性を見極めるため2~3校1回分を解きました。

合格最低点 - 10 ~ - 20点が多かった。

10月~12月までは志望校を決め過去問1冊分取り組む。最後には合格最低点を突破。

・志望校選び

子どもはもとも武蔵中学校に行きたがっていた。

だが、合不合テスト低空飛行のため、先生との面談後、断念した様子。

我が家で大切にすることは、学校や先生の雰囲気、通学が近いところ、男子校や共学にはこだわらない、今の学力で突破でき進学後も上位にいられるところを重視。

┌ チャレンジ校：城北中学校、都立富士高校附属中学校
├ 適正校：獨協中学校
└ おさえ校：城北埼玉中学校

以上のように決定しました。

やはり志望校選びに大事なことは、学校説明会にたくさん参加することだと思います。

数年前に比べ、コロナの影響はかなり減り、予約制ではありましたが参加できるようになりました。学園祭、入試説明会など年間を通して何度も参加すると学校の雰囲気はわかります。予約に関しては5分前からログインしてスタンバイしてください。

・直前1月の様子

新学期が始まって、1週間だけ学校に通学し、その後は試験が終わるまで休学しました。

わが子は早起きが苦手。休学してからは受験日と同じタイムスケジュールで動くようにしました。早起きして、朝食後登校時間に近所を散歩、試験開始時間と同時刻で過去問に取り組みました。それから、わが子の適正睡眠時間は8時間、夜10時には就寝するようにしました。

1月第3週目、都立対策と獨協中学校の過去問を1週間専念。

午前中、都立の適性検査に挑戦。特に記述を練習。過去問をひたすら解き答えを書くの繰り返し。最後には適性試験Iの440字の記述が楽にこなせるようになる。

獨協については午後入試のため、午後の同じ時間に解く練習をしました。

過去問すべての算数と国語を解き切った。合格最低点をはるかに上回っていた。

1月第4週目、城北中過去問2巡目に挑戦し、全部解き切る。合格最低点を上回った。

1/30、31、疲れ切っている体を回復させ、自分の不安要素の対策に充てました。

受験当日

1/10	午前	城北埼玉中学校	第1回	特待合格◎
	午後	城北埼玉中学校	第2回特待(算・国)	一般合格○
2/1	午前	城北中学校	第1回	不合格×
	午後	獨協中学校	第2回(算・国)	合格○
2/2	午前	城北中学校	第2回	不合格×
2/3	午前	都立富士高等学校附属中学校		合格○→進学★

1月の埼玉受験は1校だけ、仕上がりの現状把握のために。

2/1城北不合格×、これにはどん底に。初日に合格できなければますます難しくなるため、かなり凹みました。子供は大泣き、母は放心状態。子供は塾へ報告時、先生からの激励に奮起していた様子。午後の獨協の結果は子供も自信があったようで合格○。おかげで次の日のやる気へとつながったようです。

2/2城北不合格×、子供はまたもや大泣き。子供の努力が実らない現実に母はやり場のない憤り。悪影響になるため子供から離れて部屋で一人、明日への原動力を探していた。次の日は都立入試、心機一転、楽しんでくるように伝えた。

2/3都立富士中 2/9発表 合格○、大歓喜。家族でハイタッチ。

2/4城北ラスト 合格○、やっと努力が報われました。試験を終えて校舎から出てくる男の子たちを見て、「お疲れ様みんな頑張ったね」と涙があふれてきました。この日で我が家の中学受験は完結いたしました。4日間よく頑張りました。

最後に

私達夫婦は中学受験未経験者。右も左もわからない状態でしたが、アントレでの保護者会、先生との面談を通して一步一步前に進んできました。アントレの言う通りに実践できれば、合格への道は開かれると思います。なかなかその通りに実践するのは難しいですが、親子で一緒に戦える、長い人生の中のほんの3年間です。踏ん張ってみてください。

母にとっては、感情に振り回された辛く長い日々でしたが、今はホッとしています。仕事から戻るとお弁当を作り塾へ送り出し、その間に仮眠をとり、9時には駅にお迎えの日々。子供も3年間風邪もコロナにもかからずに元気に通塾出来たことは誇りに思います。勉強の面では、5年の途中からはノートを見せたがらなくなったので、ほぼ塾頼み。寝た後にこっそり見て印鑑を押していましたね。今では懐かしく思います。今回、受験した学校は苦勞しましたが全部合格をいただきました。とにかく最後は過去問が大事です。解き切って自分のものにしてください。ケアレスミスをなくす努力は惜しまないでください。みなさん応援しています！

アントレの先生方、お友達、みんな優しく楽しい方々ばかり。

楽しい塾生活を過ごさせていただき、感謝申し上げます。

最後は愛称で失礼します、らっきよ、デカッチョ、ムーミン、ももたろう、ポッキー、らくだ、カッシー、ひばりが丘教室の先生本当にありがとうございました。(言ってみたかったw)

合格鉛筆は我が家の家宝になりそうです。

アントレのさらなるご飛躍をお祈り申し上げます。

伊藤将義くんのお母様

【入塾のきっかけ】

4年生の夏休み直前に、突然、息子が「中学受験したい」と言い出しました。それまでサッカー一筋でしたので非常に意外でしたが、息子の希望をかなえるべく、あわてていろいろな塾に資料請求をしました。その中で、断トツで興味をひかれた資料が、アントレの受験体験記でした。生徒と先生の距離が近く、楽しそうな雰囲気が伝わってきましたので、4年生の夏期講習からアントレに入塾することに決めました。

【4年生】

Bクラスからスタートしました。週末はサッカーの遠征に行くことが多かったので、理社の予習は電車の中でしていました。

後期からはAクラスに上がり、サッカーと両立しながら、算数はなんとかAクラスに付いていけるようでした。国語は苦手で、まとめテストではクラス平均よりもかなり下でした。

【5年生】

5年生からSクラス（国語のみAクラス）になり、このタイミングで、大好きだったサッカーをやめると本人が決断しました。

だんだん算数が難しくなってきた、息子のメンタルがやられてきました。塾から泣きながら帰ってくるが増え、就寝の際、「算数が不安だ」としくしく泣くこともありました。少ない自由時間にオンラインゲームをやってもうまく楽しめずイライラしたり、「楽しいことが何もない」と大泣きしたこともありました。

秋に、算数をSからAクラスへ下げてもらいました。Aクラスになってからはみるみる元気になり、やる気も上がり、オンラインゲームもやめました。このときクラスを下げたことは正解だったと思います。

国語の苦手克服のために、授業で扱わなかった発展問題を自主的に取り組み、本を読むようになりました。

【6年生】

算国はA、理社はSクラスでスタートしましたが、4科ともバランスよく成績が上がってきました。夏期講習の合計得点がAクラスで歴代一位になったことで自信満々になり、後期からは4科すべてSクラスになりました。

【志望校について】

最初はMARCHの大学附属を考えていましたが、6年生の夏に成績が上がり自信が付いたことで、進学校を考えるようになりました。武蔵、海城、芝、本郷、桐朋、城北を見に行きましたが、本人が、絶対にここに行きたい！と思える学校がなく、なかなか志望校を決められませんでした。それならば問題の相性が良いところが良いのでは、とのアドバイスをいただき、武蔵を第一志望にすることにしました。入試演習は第2回から武蔵クラスに入り、合格をもらえることも多く、過去問も順調に進めていたのですが、第7回の武蔵クラスが終わった頃、突然息子が武蔵に行きたくないと言い出し、焦りました。過去問の一周目を終わらせなければならない時期に、まだ第一志望が決まらない。しかもどこも説明会も終わっている時期です。大学附属は外していたのですが、早稲田ならばいいのではないかと考え、サッカーの強い早稲田実業を見に行きました。知り合いが通っていたので、よく話も聞きました。すると、「絶対にここがいい！ここでサッカーしたい！」と、ついに本人が気に入りました。第一志望は早稲田実業、第二志望は、学園祭でとても親切にしてもらって好印象だった城北にしました。

【結果】

1月11日 栄東 東大クラス○
2月1日 早稲田実業×
2月2日 城北○
2月3日 海城×

第一志望の早稲田実業の入試直後、絶対合格だと自信满满でしたが、帰宅後にケアレスミスがいくつか発覚して、自室に閉じこもって大泣きしてしまいました。カッシーに電話で元気づけてもらい、なんとかメンタルを持ち直し、翌日の城北に合格することができました。今では、城北が第一志望だったと思えるほど、4月から通うのを楽しみにしています。

【最後に】

息子はアントレの先生方も友達も本当に大好きでした。親子ともにつらい時期を乗り越えられたのもアントレのおかげです。本当にありがとうございました。

大川蒼空くんのお父様、お母様

本日、進学予定校から入学許可書が渡され、小学校3年生の2月からスタートした我が家の受験戦争が終焉を迎えました。受験が終了して初めての週末を迎えていますが、息子は早速サッカークラブのチームメイトとの練習を再開しており、「この日を待っていたあ！」と、とても楽しそうに過ごしています。

【入塾】

我が家の塾選びは、本人の希望があくまでサッカー優先ということで、土日に授業がない塾を探していたのですが、なかなか見つからず・・・。

やっぱり受験勉強は甘くないなあ・・・

と思い始めた矢先、たまたま、家の前の道路で近所の方に出会い、「5年生までは土日に授業がない、アントレという塾がある。」との情報をいただき、早速、体験授業を受講させたところ、「チーム戦があって楽しかった！！」ということで、練馬校に入塾することを決めました。

【塾生活】

- ・4年生：算数Aクラス
- ・5年生：算数Sクラス
- ・6年生：算数Sクラス→Aクラス

6年生の8月までサッカーを続けており、なかなか日々の学習時間が確保できなく、特に算数（他の教科もですが・・・）は、予習はしているものの、白板のマルがなかなかもらえず、本人も相当苦労している様子が伺えました。

そして、6年生になり四谷大塚の合不合の模試で偏差値40台を叩き出したことをきっかけに、デカッチョに面談をお願いし、デカッチョから「白板でマルがもらえないのは、本人も辛いだろうし、一度Aクラスに変更して、そこできっちりマルをもらえるような成功体験を重ねてみてはどうでしょうか。」との提案と、本人に対し「Aでサボらずに勉強して、また、Sクラスに戻ってこい！」との激励の言葉をいただき、夏期講習から算数のクラスをAクラスに変更しました。

Sクラスでの授業は大変でしたが、まとめテストの大問1や各種プリントの丁寧な解説、面談での適切なアドバイス等、デカッチョに教えていただき本当に感謝しています（ただ、最後までSクラスに戻ることなく終わってしまい、申し訳ありません。）。

【学校選び】

本人の希望が、

- ①将来は小学校の先生になりたい
- ②受験を気にすることなく6年間サッカーに打ち込むことができる学校（グラウンドが狭い学校はNG）

という2点を踏まえ、初等教育教員養成課程がある大学の付属校（サッカー部が強ければよりOK）を第一優先で選考しました。

選考に当たっては、受験案内や学校案内のパンフレットを見ながら検討を進め、5年生のGW頃から、学校見学の計画を立てることとしました。学校見学は、ほとんどの学校が事前予約制（ウェブサイトの「mirai-compass」での予約）を採用していますが、申込開始から数分で定員に達してしまう学校がたくさんあるため、申し込み開始時刻と同時にアクセスして予約を取るようにはしていました。

学校見学は、学習院、立教新座、立教池袋、國學院久我山、明治学院に行きました。どの学校も生徒が伸び伸びとしており、施設も充実していて魅力的でしたが、その中でも、
・日本最古の定期戦がある（対筑波大学附属）

- ・広いグラウンドがある（しかも人工芝）
- ・大学に初等教育教員養成課程がある
- ・体験授業で見た、地学部の模擬カルデラの実験に興奮した（これを経験し、本人の夏休みの宿題も「カルデラの研究」になりました。）
- ・文化祭が楽しかった（Mr. コンテストや目白ダービー）
- ・家から近い

など、本人がとても気に入った学習院を第1志望にしました。

【入試演習】

6年の9月から始まった土曜演習（男子上位校）では、名前が載ることもありましたが、安定しているわけではなく、波が激しく、特に算数、理科で撃沈していました。

入試演習は、名前が載ることで自信に繋がるとは思いますが、何より子供の弱点を把握できる絶好の場だと思います。我が家では、あまりにも理科（特に浮力、ばね）の出来が悪かったのので、ラッキョから苦手分野に対応したプリントをもらい、基礎力を身に着けるための学習をしました。

土曜演習の結果が良くなくても一喜一憂しないことが肝腎だと思います。繰り返しになりますが、我が家での入試演習（合不合含む。）の位置づけは、あくまで弱点把握としていました。また、息子は結果のみならず、体調にも波があり、慣れない環境で授業を受けることのストレスやモチベーション低下で数回欠席・早退（最後の土曜演習も欠席）しました。

【過去問対策】

夏期講習が終了した9月から実施しました。

基本的に第1志望は毎週日曜日に実際の試験時間に合わせて実施し、第2志望以下はアントレのない日に実施していました。

過去問を解いてみると、学習院より立教系のほうが相性は良かったものの、学習院が第1志望との本人の意思が揺らぐことはなかったため、以下のとおり取り組みました。

（第1志望）学習院：直近5年分（第1回、第2回）×2回（算数のみ各年分4回）

（第2志望）國學院久我山：直近3年分×1回

（その他）立教池袋、立教新座、西武文理：直近1年分（相性判定のために実施）

学習院の初見での合格者最低点のクリア率は、4割程度でした（ひどいときは合格最低点からマイナス50点）。学習院の算数は、大問が5問あり、大問1は計算、大問2は一行問題、大問3以降で①平面図形、②速さ、③条件整理の3分野がほぼ毎年出題されるため、その対策として、4年生以降のまとめテストと6年の夏期・冬期講習のプリントの中から、上述の①から③の単元を集めた問題集の作成（自称：NNプリント（某塾のパクリ））や四谷大塚の有名校対策テキストを使って対応しました。一行問題については、4まとを各単元からランダムに14問/1日を目安に解いていました。また、過去問の復習や頻出単元（特に「速さ」）の対策については、個別の浅野先生に見ていただきました。

第2志望の國學院久我山は、直近3年分すべて合格最低点をクリアしていたので、特段対策は立てませんでした。

なお、立教新座については、ラッキョから「学習院との並行で対応するのは時間的に不可能」とアドバイスをいただいたので、相性判定のために1年分だけ過去問を解き、それ以外は取り組みませんでした。

【受験校の決定と試験結果】

《受験校の最終決定》

12月初旬にラッキョと面接を実施し、1月校は西武文理と立教新座（チャレンジ）、2月校

は國學院久我山（第2志望）と学習院（第1志望）に決めました。

ラッキョから、「午後受験も視野に入れたほうが良いのでは？」との助言をいただきましたが、2月1日の午後は翌日の学習院に向けて集中させたいこと、2月2日は初日の解き直しに充てる時間を確保したいことから、午後受験の申し込みは行いませんでした。

《試験結果》

▶ 西武文理（1/10）⇒合格

特に緊張した様子もなく、ラッキョとデカッチョのZoom応援に接続しました。Zoom応援終了後、なにを言うかと思ったら「あの二人のマスクのない顔、初めて見た（笑）」と、とてもリラックスした状態で試験に臨んでいました。次の日に、本人がアクセスし「合格」を確認しました。

▶ 立教新座（1/25）⇒不合格

この日は、Zoom応援に入らず試験に挑みました。ラッキョのおっしゃる通り、立教新座の問題は難易度が高く、本人も「算数と理科がやばかった・・・」とのことでした。父親がアクセスし「不合格」を確認しました（本人は落ち込んだ様子なし。）。

▶ 國學院久我山（2/1）⇒不合格

この日は、Zoom応援に接続するも待機時間が長く、結局、接続できずに試験に挑みました。試験終了後、本人は「理科が難しかった。ほかの3科は、まあまあ」とのことでしたが…、父親がアクセスすると、「不合格」・・・。

過去問の相性から、本人も家族も楽観的であったこともあり、一気に暗いムードに・・・。本人も放心状態・・・、すぐにラッキョに電話して、アドバイスをいただきました（話した内容は教えてくれませんでした、すっきりした模様。）。

▶ 学習院中等科（2/2）⇒合格

前日、ラッキョから秘密のアドバイスをいただいたこともあり、テンション高め。この日も朝5時半に起床し、ルーティンであるジョギングとストレッチを実施。「今日はZoomに入ってから出発する！」ということで、朝7時にZoom応援に接続し、ラッキョとムーミンの応援をいただきました（この日の内容も教えてくれませんでした。）。

会場に向かう途中、「明日から学校に行く！絶対に今日で終わらせる！」、「今日はZoomに入れたから大丈夫！」との発言があり、親としてはいつも以上のやる気に不安を感じつつも、息子のテンションに合わせて、背中を思いっきり叩いて「行ってこい！！」と会場に送り出しました（後ろにいた親御さんからは「えっ」って完全に引かれていました・・・）。

試験終了後、通常であれば、大好きなラーメンを食べて帰るのが試験日のパターンでしたが、この日は、ラーメンを我慢して帰宅し、翌日の第2回の試験に向けて個別に向かい、本日（第1回目）の問題の解きなおし*を行いました。

※ 学習院は、毎年、第1回目と第2回目の算数と理科は似た問題が出る（今年度の説明会でも「算数と理科（時事問題と生物）は2回とも同じような問題にする」との説明があった）ので、個別の浅野先生にお願いをして、解き直しの対応をしていただきました。

個別授業が終わり、いよいよ20時。発表の時がきました。

この日は、自分で確認するとのこと、受験番号とパスワードと入力し、おそろおそろクリック・・・

「おっしゃー—————！！！！！！！！！！」

完全に近所迷惑なボリュームでの叫び！

興奮冷めやらぬ状態のままアントレに連絡し、合格の報告をしていました。

長かった受験戦争がこれで終了しました。

後日、本人に聞いたところ、「個別で解き直しをした時に、合格を確信していたから、学習院は、自分でアクセスした。」とのことでした（今考えてみると、自信のある試験だけ自分で確認していたと思います。）。

また、Zoom 応援に入らずに臨んだ試験で2連敗していたことから、何かを変えようと思い、学習院の試験日は絶対にZoom 応援に入ろうと思っていたそうです（Zoom 応援の力恐るべし）。

【まとめ】

2月1日の試験が不合格だった時、2月の試験が全滅するのでは・・・、と悪いイメージしか湧かなくなりましたが、個別授業や過去の授業プリントなどを活用した徹底的な過去問対策により、無事に第1希望の合格を掴み取れて、ホッとしています。

息子は、算数が得意ではなく、さらには進学校ではなく付属校を目指すという、アントレ生として???がつくような子だったと思います。

そんな息子を相手に最後まで面倒を見ていただいた、デカッチョ、ラッキョをはじめとしたアントレの先生方、本当にありがとうございました。

また、個別の浅野先生には、学習院合格に向けての適切な指導、息子のモチベーションアップに繋がるアドバイス・プライベートの相談、さらには、学習院（第1回）の問題の解き直しにご対応いただきありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。

大崎龍馬くんのお母様

【入試結果】

1月10日	午前	城北埼玉	合格
2月1日	午前	獨協	合格
2月1日	午後	聖学院（アドバンスド）	合格

1. アントレを選んだ理由

アントレには、新3年生に入塾しました。7歳上の姉がアントレでお世話になり、とても楽しかったと言っていたのと、合格実績など気にせず、子供たちのことを一番に考えてくれているフンチャンや、先生方の姿勢がとても素晴らしいと感じていたので、アントレ以外は考えられませんでした。

2. やる気を出させる仕組み

3年生の頃は宿題をするように声掛けはしましたが、4、5年生の時はほとんど関与せず、塾の送迎とお弁当作りだけをしていたのですが、あまりにも宿題をせず、5年生の時に塾に行くのも嫌がることが出てきたので、1ヶ月ぐらい塾を休ませて、受験をやめることも考えました。しかし「給食が嫌だから、どうしても受験はしたい」と言うので、勉強について話し合い、6年生からは口を出すことにしました。マグネットシートを小さく切り、一つ一つやることを書き、小さいホワイトボードにそれらを貼り、終わったら裏返す（裏側には褒める言葉を書きました）と言う仕組みを用意しました。この仕組みによって、あとどれだけやれば課題が終わるかというのが目に見えるので、やる気になれたと龍馬は言っていました。

（もちろん、それでもやらない時はありましたが）

少しでも勉強しなければと思って欲しいと思い、入試の100日前からカウントダウンカレンダーでカウントダウンを始めたのですが、逆にまだまだ先が長いと感じてしまったらしく、龍馬には逆効果でした。1ヶ月前ぐらいから良かったのかもかもしれません。

3. 獨協特有の問題への対策

獨協の理科の過去問で、カタクチイワシやアサリのスケッチの問題があり、用意出来るものは本物を用意して、特徴をとらえるスケッチの練習をさせました。本番では何が出るのだろうと少し楽しみでもありました。入試直後に試験の問題や出来たかどうかの話は、親子でお互いしないでおこうと決めていましたが、理科のスケッチ問題で何が出ただけは教えてと約束していたほどです（笑）午前と午後の受験に挑むのは初めてだったので、家で本番の時間通り、午前と午後に過去問を解かせてみました。

4. 入試当日への備え

試験直前に見るノートを作って、教科ごとに間違いやすかった漢字や問題を書いたり、少しでもリラックス出来ればいなと表紙の裏側に飼っている犬の写真を貼ったり、アントレの先生方からの応援メッセージも貼り、名前を書くのを忘れない等の注意事項、励ましの言葉を書いたものを持たせました。

5. 最後に、入試当日の様子

2月1日、龍馬が獨協の試験会場から出てきてすぐに、途中でマスクの紐が切れちゃって集中出来なかったから、国語が出来なかったと言うので、もしかすると、明日再チャレンジかなと思いました。しかし、合格発表を見ると見事合格していたので、心の底から良かったと思いました。龍馬本人が行きたい学校に合格出来ればそれで良いと言うので、我が家の受験はここで終了しました。

アントレの先生方のおかげで、最後まで頑張れたと思います。
ありがとうございました。大変、お世話になりました。

大友駿太郎くんのお母様

◇ はじめに

受験が終わった今、この3年間を振り返って思うのは、「身の丈を知る」ことがいかに大事かということです。息子は京華中学に入学することになりました。6年になるまで名前も知らなかった学校ですが、村上先生（フンちゃん）に紹介していただき、塾や保護者の評判も非常にいいということ、息子も特別選抜コースで合格できたことに満足しているようで、信頼して中高6年間をお任せできる学校だと納得しています。

息子の話をどれだけの方が興味を持っていただけるのか疑問ですが、私自身、受験に悩んだとき、アントレの体験記を何度も読んで参考にさせていただきましたので、ありのままを書き残しておきたいと思います。

◇ 4～5年

アントレ入塾は、息子の放課後の過ごし方に私が不安を覚えたことがきっかけでした。共働きで、小学2年までは学童に通っていましたが、3年になって親の管理が利かなくなり、友達と遊んでもけんかやトラブルが多く、勉強も全くしないことに焦りを感じました。ママ友の紹介で3年から学研に入りましたが、掛け算や割り算のプリントをひたすら解くことが「つまらない」と言い出し、息子のような手の掛かる子は私立中学の方がいいのではとの思いもあって受験を考えました。ただ、大手の塾では生徒間の競争が激しいという話を聞き、きっと息子は続けられないだろうと思い、ネットで家の近くで塾を探し、アントレと出会うことができました。

アントレには4年の春期講習からお世話になりました。塾の雰囲気はとても楽しいようでしたが、いかんせん、勉強のレベルについて行けず、特に算数で大変苦勞しました。不幸中の幸いで、新型コロナウイルスにより休校や自宅勤務となったことで、父親が文字通り、朝から晩まで息子につきっきりで植木算や周期算などの基本を教えました。このとき、嫌がりながらも最後まで耐え抜いた息子と、根気強く教え続けた父親がいたからこそ、その後の受験勉強につながったのだと思います。

アントレでは「中学受験は算数で決まる」と言われてきたので、4、5年の間はとにかく算数で白板問題の半分はできるように、予習復習に励みました。両親が代わる代わる向き合って勉強のスケジュールを立て、月に一度のまとめテスト対策も練りました。息子が自分から勉強したことは、ほとんど記憶にありません。

こんなことでは自ら勉強したことにならず、親は手を引いた方がいいのではと、面談で井手先生（ラッキョ）に相談しましたが、「子供が自分から勉強するのは理想だが、親が手を引けば多分勉強はしなくなるでしょう」と言われ、結局最後まで親がかりの受験でした。この点は中学での大きな課題になります。

◇ 受験校選び

息子がお世話になった学年の練馬校ではS、A、Bの3クラスに分かれており、息子は5年でBからAに上がりました。息子はとても喜び、私は仕事の合間に受験校選びを始めました。といっても、コロナ禍で学校説明会の枠は狭く予約はすぐ一杯で、初めは合同説明会に足を運んだ程度でした。「絶対にここに行きたい」という学校もなかったため、アントレの過去の体験記を読み、家から近く、息子の学力レベルに合いそうな学校を調べました。実は、私は幼少期、成城中学の近所に住んでおり、何となくご縁を感じました。息子に話すと「いいね!」と乗り気で、親子でその気になっていきました。でも、この時の思い付きが思い込みとなり、その後、現実の壁にぶち当たることになりました。

◇ 空回り

6年になると、全国模試を受け始め、目当ての学校の過去問を購入しました。一応、どんな問題か目を通し、これまで習った知識を使えば7割、いや6割はできるのではと皮算用。ところが、春の模試の結果はさんざんで、成城など遠く及びません。先生方から

「模試の結果は気にしなくていい」と言われる中、フンちゃんに言われた「模試で出た偏差値を10上げるのは難しい」という言葉が妙に突き刺さりました。

それでも、一度抱いた成城への憧れを捨てることは難しく、私の空回りは加速します。どうしたら学力を上げられるかと悩む日々で、まるで、受験という魔物に取りつかれたようでした。「これじゃダメだ」という焦燥感に駆られてばかりいました。

息子はずっと落ち着きがなく、勉強を始めたと思いきや、すぐにトイレにこもり、やっと机に向かったと思ってもなかなか集中できません。一つの課題をこなすのにとっても時間が掛かり、何より、うっかりミスがとて多い子で、試験ではとても不利でした。5年までに築いたと思っていた基礎も定着していませんでした。私は自分が描いた理想と現実とのギャップにいら立ち、模試結果とともに息子に「何を考えてるの!」と怒りをぶつけてしまうこともありました。本当にダメな親だったと思います。息子も自虐的になり、この時期は本当につらかったです。

たまたま、フンちゃんのクラスに在籍していた妹の面談の際、初めて息子のことを相談しました。フンちゃんは、京華中学の先生は面倒見が良く、とてもいい学校だと紹介してくださった上で「この歳になると、偏差値じゃないなあと思うんですよね」としみじみおっしゃいました。

その後もさまざまな葛藤がありましたが、最終的にはこの言葉で、偏差値の呪縛から解放され、息子を6年間で成長させてくれる学校はどこか、考えられるようになった気がします。

6年では、とにかく基本的な問題を確実に解けることに気を配りました。算数は4科のまとめを何度も解かせ、夏休みの途中からは思い切ってクラスをAからBに下げてもらいました。すると、過去問を解く9月からの入試演習クラスでは、「合格」や「補欠合格」をもらえることも多くなりました。

◇ いざ本番

同じ学校の試験でも、試験日によって受かりやすさが全く異なります。どこも自分の学校を第一希望とする生徒を多く受け入れたいため、試験初日の2月1日が最も受かりやすいようです。息子は模試を問題が難しい「四谷大塚」から「首都圏模試」に切り替えましたが、模試結果で常に合格圏内にあったのが京華でした。フンちゃんからは獨協中学もチャレンジ校としていいといわれましたが、その場合でも、受かる可能性が高いのは2月1日受験。私の中では「せっかくこれまで頑張って、あと一息で獨協に手が届くならチャレンジさせてやりたい」という思いと、「受験はギャンブルではないのだから、確実に受かるであろう京華でいくべきだ」という思いが交錯し、最後まで悩みました。

受験本番を前に、息子は精神的に不安定になり、入試演習クラスの点数が悪くなることもありました。特に算数のうっかりミスが多く、点数のムラが大きくなっていました。理科も社会も単元による出来、不出来の差が大きく、特に物理の問題は壊滅的でした。

受験を通じ、唯一、よかったと思えるのが国語です。息子は記述がとても苦手で、解答用紙が記述問題だけ白紙のこともありました。でも、受験を前に、村上先生（ムーミン）が過去問の結果を見てくださり、私も毎週末、息子と過去問の復習に取り組んだところ、次第に解けるようになりました。できないのではなく、解き方のコツがわからなかっただけだと、少しホッとしました。

結局、2月1日受験は京華とし、獨協は2日に受験しました。その結果、獨協は不合格に終わりました。3日には、成城を記念受験しましたが、受験生のあまりの多さに怖気づいてしまいました。

試験当日、私は息子に聞いてみました。「あなたはお母さんの喜ぶ顔が見たくて受験勉強を頑張ってきたの?」息子は当然のように「当たり前じゃん」と答えました。精神的に幼い息子が、この受験の本当の意味もよく分からないままに、さまざまなものを我慢して頑張ってきたのは、母の喜ぶ顔が見たいからなのかと思うと、涙が出ました。一方で

「受かるかなあ」と自信なさげに聞いてきたので、私は「絶対に大丈夫だよ」と答えました。でも、受験に「絶対」なんてありません。試験を待っている間はソワソワして何も手につきませんでした。

夜になって、無事に京華の「合格おめでとう」のパソコン画面を見たときは、喜ぶというより、とにかくホッとしました。と、同時に、2月1日は獨協をチャレンジしておけばよかったかな、という思いも胸をよぎりました。今もその答えは出ていませんが、これからは始まりなのだと言いき進んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、アントレの先生方には最後まで支えていただき、本当にありがとうございました。反省ばかりの受験でしたが、3年間、息子と両親が「三人四脚」で走り続けました。これからは、少しずつ息子一人の力で進むことができるよう、子離れを始めなければと思います。これから二つ下の妹の受験勉強もありますが、もう少し効率的に、できれば楽しく取り組みたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

大野平くんのお父様

アントレは、小4でまずは国語と算数からはじめて、理科と社会は5年生からお世話になりました。5学年上の兄は別の塾で中学受験を経験しましたが、ほとんど休みなく塾通いで勉強疲れ気味だったため、タイラは、もう少し余裕を持たせて受験に臨ませたい、と考え、アントレを選びました。

タイラは音楽が好きで、小さなころからダンス、ピアノなどを習っていましたが、受験に向けてダンスは4年生まででお休みして、ピアノの方は息抜きも兼ねて、週1回だけ続けました。週4回の塾通いで運動不足になることが気になり、暖かい季節は徒歩（15分くらい）で通塾させていました。私の通勤帰りが退塾の時刻に重なるときは、自宅までの帰り道、一緒に歩きながら「今日は白板問題を全部解けた!」とか「半分しかできなかった」など、塾の話をしたり、ポケモンのゲームの話をしたりしました。

3年間の塾通いでは、クラスの友達とも仲良く、「行きたくない」などと駄々をこねるようなこともありませんでした。塾の勉強には概ね楽しく取り組んでいたようですが、テストの成績が良くないと落ち込んだときには、もう受かるわけない、などとくよくよと気にしているのを見ると、私としては、いつまでも気にしていても仕方ないし、前向きにできることをやるしかない、と励ますのですが、そう簡単に割り切れる年齢にはまだなっていないようで、やはり難しいものだな、と痛感しました。

受験日程については、本人の性格を鑑みて、第一志望校の受験日にどのように気持ちを持って行くか、ということを中心として、ある程度合格を期待できるところから順に受験し、最後にチャレンジ校を入れるようにしました。チャレンジ校の合格確率は少し落ちますが、背伸びして入学後に苦労するよりは、少しのびのびと中学高校時代を過ごしてほしい、という気持ちでしたし、本人の希望ともあいましたので、以下の日程で受験しました。

- 1月12日 城北埼玉
- 2月1日 成城中学
- 2月2日 明大中野
- 2月3日 早稲田

4日、5日の受験も想定しておりましたが、お陰様で2日の時点で志望校の合格をいただき、3日は、憂いなくチャレンジすることができました。チャレンジ校はやはり難しかったようで、最高の結果とまではいきませんでした。試験終了後にスッキリとした本人の様子を見て、力を出し切れたのであればこの受験も成功と言えるのではないかと感じており、ひとえに先生方のご努力のおかげと存じます。本当にありがとうございました。

金子真也くんのお母様

～はじめに～

我が家の受験体験記はあまり参考にならないかもしれません。

息子は一度挫折し、真剣に臨んだのは6年生もかなり過ぎてからだからです。

ですが、私自身は過去の受験体験記に支えられ、励まされたのでこんな受験生もいるんだと思って頂き、ほんの少しでも私たちの体験が参考になればいいなと思います。

～アントレ～

公文に通い、進研ゼミ等通信教育はしていましたが、あくまで学校授業のため。

受験に向けた勉強は全くしていませんでした。

そんな息子が突然受験したいなーと言いはじめたのは5年生の4月頃。

いろいろな塾を見学しましたが、アントレの体験を受けて本人がとても気に入った模様。

5年生の5月から入塾させていただきました。

5年生の頃は親のフォローも行き届かず、なあなあで過ごさせてしまいました。

5年生の12月に一度本人の心が折れてしまい塾はもういい受験はやメルというように。

ラグダ先生にアドバイスをいただき、6年生5月まで算数の個別だけを続けていました。

6年生5月にらっきょ先生からの熱い激励をいただいたことを契機に四科復活

四科では間に合わない判断し、6年生9月から二科+算数個別へ

授業は必ず一番前に座ることを息子に課し（集中力がいないため・・・）、集団授業へ戻らせていただきました。

集団授業に戻っても、白板ノートが読めない。字が適当過ぎてアラビア文字のようで汚くて読めない、間違えをただのケアレスミスじゃないかと開き直す・・・秋までそんな調子でした。

そんな息子でも、アントレの先生方はいつもどんな些細な事でも相談にのって下さいました。

例えばそれが“漢字や歴史の年表の暗記の仕方”であっても親切に具体的にアドバイスを下さり、私が“こうやりなさい”と言うことよりも先生方のアドバイスは何倍も効果がありました。

本当にありがとうございました。御礼申し上げます。

また、個別の島田先生にも大変お世話になりました。

集中できない、おそらく先生が尋ねられたことに適切に答えられない、そんな息子にも優しく丁寧に寄り添って下さいました。本当にありがとうございました。

そしてともに受験勉強に邁進していた仲間みなさん、ありがとうございました。

～受験勉強～

夏休み以降、毎週土日は図書館や区民館の自習室に缶詰め。算数担当の父親とともに、ほぼ一日中算数に取り組みました。

算数は四科のまとめ、シリーズ計算、予習シリーズ4、5年

国語は銀問、ハイクラステスト読解力、漢字1580（最低レベルA暗記は必須でと）

過去問は10年分を総なめ、直近年分は3～4回繰り返しました。

算数については、過去問の算数10年分の各大問をテーマ別に切った貼ったで整理しなおし、最頻出分野（平面図形、立体図形、規則性）について冬季講習期間中の個別授業で島田先生にお願いして、集中的に解きなおし、解説を仰ぎながら順応させました。

～学校選びについて～

二科目で受験できる学校の中から受験校は郁文館中学にしました。

学校見学には何回も通いました。

体験授業や、学校見学の回数を重ねるごとに息子の性格にあっているようであり、私自身が

“こんな教育を受けてみたかったな”と思うことが多かったです。
最終的には、学校の理念”子どもたちの幸せのためだけに学校はある“に共感したことが決め手となり、25歳に人生の主人公として輝いた存在となるために、夢を描かせて、夢を叶えるために先生方が伴走し、必要な学力、グローバル力、行動規範を身につけさせるという学校のシラバスにかけてみようと、同校一点に絞りました。
特待生（iPクラス）選抜入試と、総合入試を受験。総合入試は点数によって、3種類あるクラスの合否が決まる仕組みでした。

～最後に～

母はお弁当担当、きつい言葉を言ってもやる気が失せるだけ、と心していても、度量が小さくいたらない母は受験勉強中イライラしっぱなしでした。

息子は一度受験をやメル！と言い（算数の勉強は受験に関係なく重要と説得し）算数の個別授業だけに通っていた時も不思議なことにアントレの受験体験記を鞆に入れてアントレに通っていました。きっと心の奥底では受験したかったのでしょう。お守りのようにしていたのだと思います。

漫画は好きけど本は読まなかった息子が、国語の勉強で色々な文章に触れることにより、本に興味を持つようになりました。これは思ってもみないことでした。本好きの私は同じ本を読んで共感できるかなと思い、これからとても楽しみです。

息子には中学受験といういろんな意味で凄い体験をさせてもらって心からありがとうと言いたいと思います。

これからはじまる6年間、楽しく通ってくれますように。チャレンジしてくれますように。自分から一歩で良いから前に進みますように。頑張ってきた君なら出来るはず。

挨拶に伺った際、フンちゃん先生が中学入学後の心構えを説いて下さいました。

しっかりと心にとどめて実行して下さい。

らっきょ先生とは入学後の最初の成績を見せる約束をしました。

中学に入学してからのことまで気にかけていただけるなんて、君は幸せ者だよ。なんてあたたかいんだろうと私たちは感謝の思いでいっぱいです。

金子真也くんのお父様

この2023年2月 両親の我々が経験していない中学受験を“親”として経験させていただきました。後から深く思い知らされたことですが、中学受験を目指すならば4年（実質的には3年の3学期）から始動というのが、世の常識。しかし、今から振り返っても、我が子の3年3学期はまだ学童に預けていて、廻りの学童の下級生たちとおもちゃで遊んでいるのが一番の快樂であった我が子の様相から、とても受験を意識したモードに切り替えるということがイメージできませんでした。ほかに習い事もしていましたが、一人っ子の早生まれ、根っからのマイペースさんで競争心は皆無。

そのような我が子ですが、第一志望には手が届かなかったものの、第二志望と掲げていて、両親としても祈念していたクラスへ入学ができませんでした。本当にありがとうございました。

学童を終えて、さあ学校を終えたあと、共働きの私たちはどのように彼の放課後をケアしようと考え始めた矢先に、未曾有のコロナ禍騒動。4年生は周囲の喧騒に左右されながらあつという間に過ぎました。

そのような我が子が、中学受験目途で通塾する周囲の学友の姿になんとも憧れでも抱いたのではないかと推察しますが、塾に通いたいといい始めたのが5年の5月。アントレに初めて面談で伺った時のラッキョ先生の助言は「死に物狂いで追いつかないと」。

その意味をきくと我が子は全くわからず、その先、なんとなく通塾している自分に酔ってしまっている様相で時間が過ぎていたように見てとれました。意識の低い行動を見て親の口からは「もうヤメてしまえ」という怒号の雨あられが、早くも五年の夏期講習の時期から降り注いでいました。塾の授業も集中できていない様子、予習復習のローテーションもこなせず、成績もずっと低空飛行のまま。それでも我が子は「塾には絶対行く」と、なぜか我を通していました。私自身は秋までは背中を押し続けましたが、集団授業でまったく歯がたっていない様子から11月末には「もういいよ、終わりにしよう」と宣言しました。その時に我が子の目から“安堵”の様子と通塾するという熱意の灯が消えるのがうかがえました。

しかし、ヤメてしまえと連呼していた妻が、もう一回チャンスを与えてやってほしいといい、妻の体験記にもありますとおりラクダ先生の適切な助言でなんとか個別で算数だけでも続けて、首の皮一枚つなげた状態で6年のゴールドンウィーク明けまでひっぱりました。

この先どうするか、入塾前面談ぶりのラッキョ先生と三者面談で「受験に臨むのか臨まないのかハッキリせい」の気合に押し殺されて「受験します」とつぶやく我が子。内心横に座っていた私は「本気かよ」と思いましたが、私も自分にも言い聞かせるつもりで「中途半端は絶対に許さん」と宣言し、かつてイヤがっていた集団授業を再開しました。しかし遅れを取り戻すのは、そう生易しいことではありません。キーとなる算数は全く歯がたっておらず、白板問題（そもそも問題の転記さえもできていない）は全く無理。四まとは白間が解けず。

夏季講習からは、算数は私、国語は妻の分担で強介入開始。算数については、休暇返上で調教に近い形で次の日の授業の単元の四まとをベースに予習を実施して臨ませました。しかし、基礎が弱いので非常に時間がかかりました。なにごととも基礎が本当に大事でした。

二学期、四まとをベースに予習を前週の土日にやりこみ、週明け月曜の個別の島田先生にもフォローをお願いし、水曜、金曜の授業で白板問題や小テストをこなす。このペースがやっと軌道に乗り始めて、徐々にではありますが、基礎的な問題の解法等が呑み込めるように

なりました。しかし、計算力はやはり大事。ボンミスが多く、二学期からはじめた過去問については、やり方があっていてもボンミスで正解にたどりつかないこと多々ありました。

二学期の土日は、ほぼ私と算数づけの毎日でした。時折ある祝日は最高のキャッチアップ Day、これも算数メイン。四まとの図形問題やダイヤグラム問題など補助線などの書き込みが必須な単元の問題ページはコピーしまくって何度でも解き、パターンとして足りない場合は基礎問題集や予習シリーズの基本問題をかいつまんでセレクトして、冬季講習、受験直前までやりこみ、まさに付け焼刃に付け焼刃をつけるような日々でした。

冬季講習を終え、直前期に入り我が子の口から「受験が終わったら●●したいなあ」などと呑気な“早く終わってほしい願望”が芽生え始めたところに、古い中国の権謀術策史書である『戦国策』の有名な一節「百里の道を行くものは九十をもって道半ばとす」という言葉を書いて部屋に掲示しました。まだ道半ばだ、気を緩めるな、体調万全を期すために手洗いうがいをしっかりやれ、早起きして朝に計算問題こなせと、徹入れ続けて、受験前日1月31日を迎えました。

この日も算数のこの単元とあの単元の最終追い込みをやるぞとプログラム組んで問題のコピーも用意していましたが、午後に入り突然「体調が悪い」というので検温すると、体温が37度6分、、「終わった」と思うとともに、夏休み以降の土休日や長期休暇をすべて注ぎ込み、詰め込んできた調教の日々が走馬灯のように浮かんできました。

粥をたべさせ寝かせ付け、夜中は38度超えまでヒートアップしたのですが、2月1日はなんとか平熱に下がり会場入り。

受験校は1校に絞っており、午前に総合入試、午後帯が第一志望の特待生クラスの受験でしたが、総合入試では一番下位クラスの合格、特待は没。翌2日の総合入試も再び下位クラスのみで希望クラスは〇もらえず我々の焦りはヒートアップ。翌3日は午前に総合入試、午後帯が特待生クラスでした。望みのクラスの合格が帰り道で判明、残念ながら特待は没で我が家の挑戦は終わりました。本人談で、最終の特待生クラスの国語問題に、戦国策の一節「百里の道を行くものは□□をもって道半ばとす」の“九十”を問う問題が出たというオチもついていました。我が子は、算数字の90でなく、漢数字の九十と書いたのだろうか？

【真也へ】

両親からの罵声にも耐え、休みもなく遊びたいのも我慢して、よく頑張った。支えてくれた先生たちの恩情に応えられるように有意義な6年間を過ごしてほしい。

それから、付け焼刃の戦はこれっきりにしてくれ。「段取り力」はこれからの人生でも永遠に必要なこと、それを身につけるためにも、これから調教だ！

【とてもありがたかったこと ; Special Thanks For 島田先生】

冬季講習期間中 算数個別授業で過去問のフォローとして、頻出分野の過去問(大問)を抜粋・編集したプリントを我が家で用意したうえで、直前対応していただきました。

最良の解法を助言してもらえるなど、我が子にとってもためになった様子でした。

まずは、冬季講習期間中、真也の国語・算数の教室授業の穴あき時間帯に、4コマ(本日はか、12/30,1/3,1/6)を調整していただいて、誠に感謝申し上げます。

この冬季期間中、教室授業のほうは広範な算数の範囲を総ざらいするプログラム(算数にすれば、冬季講習前半が9コマ、後半が5コマと若干時間配分的には前半に傾斜配分されている様子)となっているようで、これまでの授業で受けてきた各分野で理解不十分なところ、忘却しているところを「復習中心に」「その日間違えたものはその日のうちに」「同じ復習を(本番まで)二度としないつもりで」家庭学習でカバーしたいと思います。
カッコ書きは11月のアントレ保護者会説明・資料からのガイド内容の抜粋

一方で、志望校(郁文館中学校)の過去問に、別紙 過去問実績のように夏休み明け以降の週末に取り組んでまいりましたが、振り返りが不十分(二次週の授業の範囲の予習に時間が割かれてしまった)と課題認識しています。
個別計4コマは、すでに一度解いた過去問の中から、特に最頻出領域の「平面図形」「立体図形」「規則性」「速さ・割合」の過去問について、振り返り(改めて解き、解法(プロセス)の良否)をお願いしたいと思っています。
過日(12/24)行われた志望校の過去問説明会の場でも「過去問をたくさん解いておくと、きっと良いことがある…」と説明あったようです。当然、個別授業の進め方として、過去問踏まえて類題を予習シリーズや四まとにあたり、そちらに触手を伸ばすなど、ベストなやり方を先生にて判断いただければと思います。

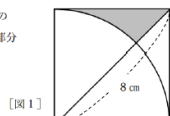
今回は「平面図形」でお願いします。別紙のとおり、手元で得ている過去問から平面図形の問題を抜粋しておきました。声教の過去問冊子等を真也に持たせますので、正解(解答)はそちらをご参照ください。
参考までに、真也のこれまでの過去問解答状況を共有しておきます。
凡例 ○：自力で解けた △：一部不正解 ×：自力で解けず

範囲	実績	補足
令和4一般	2-(5) 8月・12月 双方×	8月は全く歯がたらず 12月は思考巡らせた形跡あるものの結果としては正解にたどりつけず。おそろく解法が全く思いついていない状態と推察
	5 8月・12月 双方×	8月は全く歯がたらず 12月は補助線引いて単純な二等辺三角形の一部を取り除いた図形であるというらえ方ができず、苦し紛れで答え出したものの、相似比と面積比の対応も理解があやしい状態で正解にたどりつけず。この問題は親とも一緒に復習して、徹底はした状態にまでは至っている。 志望校の過去問解説上で「こういういつびつな問題が出たら、なにか単純な図形から一部をきりとった図形じゃないかと考えてみるとよい」と助言得てきた模様。解きなおし解説受け直後につき記憶が新鮮な状態なのでスニップで撮りません。 真也には30度60度の三角定規では最短辺×2=最長辺(1:2の関係)であることは記憶しておくように刷り込み済。
令和3一般	5 9月×	自力で解いたものの、正解にいたらず。(1)については、出題の意図を全く掌握できていない(何を答えればいいのか洞察できていない)。

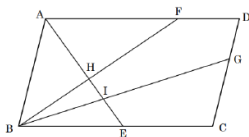
■iPclass 選抜入試 サンプル問題 *声の教育社 過去問集には無(学校HPより入手)
※令和3年から新設された特待生クラスの入試問題なのですが、学校が明示している過去問は令和3、4の実際の試験問題ではなく「サンプル問題」という名のワンセットのみ(傾向探るには素材が極めて少ない)
※真也の第一志望(チャレンジ)としているクラスになります。

小問集合1

(5) [図1]は、対角線の長さが8cmの正方形の中に、4分の1の円が接するようにかかれた図です。この図で、色のついた部分の面積は、□cm²です。



[4] 下の図の平行四辺形 ABCD で、点 E は辺 BC の真ん中の点で、点 F は AF : FD = 2 : 1 となる点です。また、点 G は CG : GD = 3 : 2 となる点で、AE と BF、BG の交点をそれぞれ H、I とします。このとき、次の問いに答えなさい。

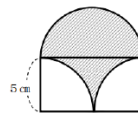


(1) AH : HE をもっとも簡単な整数の比で表しなさい。

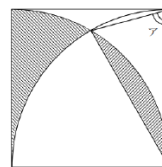
■令和2年 第一回一般入試

小問集合2

(4) 下の図は、半円と長方形を合わせた図で、長方形の横は半円の直径と一致しています。また、長方形の中のおうぎ形は合同で半径は5cmです。このとき、斜線部分の面積は □① cm²で、斜線の周りの長さは □② cmです。ただし、円周率は3.14とします。



[5] 次の図は、1辺の長さが6cmの正方形と、半径6cmのおうぎ形を組み合わせたものです。このとき、次の問いに答えなさい。ただし、円周率は3.14とします。



(1) 角アの大きさは何度ですか。

(2) 影の部分の面積の合計は何cm²ですか。

木下友理香さんのお母様

アントレの先生方、お世話になりありがとうございました。

友理香は疲れて気力が低下してしまうと力が溜まるまで動けなくなってしまう事があり、入試当日までどうなる事かとヒヤヒヤしながらの毎日でした。

期待される予習復習はほとんどできませんでしたが、それでも先生方が受け入れてくださって2月入試日程の4日間計7回！予定通りチャレンジできた事にホッとすると共に感謝でいっぱいです。友理香も常に楽しく通っていて、最後までアントレみたいな中学に通いたいと言っていました。

第一志望アントレの友理香ですが、現実的には共学で通学が楽な学校がいいと都立大泉を希望していました。親としては楽しさいっぱいの環境の中で過ごす方が合っていると思い、のびのびした学校、また、大学進学の際には自由に学部を選択して欲しいとの思いから附属ではない学校を考えていました。

都立は倍率も高く当日の問題との相性でも大きく結果が変わってしまいます。また、在校生保護者の方から入学後毎日の課題が多いと聞いていました。真面目なお子さんならピッタリですが、追い立てて奮起させるのが向いていない友理香が学校を楽しめるのか大いに心配でした。

そのため4科を軸に、適性に関しては適性型の模試に参加しながら学習を進めていました。

4科では娘と親の希望を重ね合わせて宝仙学園を志望校として考えていましたが、6年9月の段階で過去問に取り組んでみたところ合格基準点に達している感触がありました。

このままいけばありがたいですが、大丈夫と思ったら手を抜いてしまいそうな娘、ここから本気で頑張る皆さんにあっという間に置いていかれるな…と思い、少し手応えのある学校をチャレンジ校として見つけたいと思いました。

近場の共学から検討していき、10月末に三田国際の文化祭に訪れたところ好い印象を受けました。通学には乗り換え2回で1時間以上かかっていますが、乗り換えは同じホームだったり歩いて30秒だったり負担が少ないことにも気づきました。もう少し近くても乗り換えや最寄り駅からが大変な学校もありました。少々時間が伸びても体の負担は少なそうです。行ってみて初めてわかる事もあるものだ実感しました。

三田国際は試験問題を確認したところ思考力問題が30%の配点で出題されており、その思考力問題は適性試験に通じるものがあつたため、三田国際を目標とする事で適性と4科両方の学力を引き上げていこうと計画しました。

6年秋になってくると学校生活も次第に忙しくなり疲れる日も多く、時々アントレをお休みしましたが少し休憩して回復するとまた元気に通っていました。

その頻度は本番が近づくと共にだんだん多くなっていき、ついに1月中旬には1週間程部屋にとじこもってしまいました（もちろんほぼ勉強0です）。焦る気持ちもありましたが、ここまでやってきた事がなくなるわけではないと心を落ち着けるしかありませんでした。こちらは見守るだけでしたが、まずアントレに行こう、という気持ちが湧きアントレだけには復帰する事ができました。そこでみなさんから元気をもらって下旬にはなんとか完全復帰しました。

そうして迎えた最後の授業、残りは3日間。どの先生もあと3日はめっちゃめっちゃ勉強した方がいいって言ってた～との報告。ここでようやくスイッチが入って最後3日は朝から晩まで本当に頑張って取り組んでいました、

迎えた2月1日の三田国際の試験では飄々と会場に向かっていきました。が、最初の国語で手が止まってしまったとの事。本人曰くやる気が出なかった(!?)との事でしたが前日まで初めて3日連続でやり切った後でするので疲れもあったのだと思います。もちろん合格とはいかず、その後も三田国際は3回チャレンジしましたが残念でした。

1月の試験で目指していたコースを落としてもノーダメージ、2月1日の試験でもやる気が出なくてボーっとしちゃった、とのらりくらの娘ですが、宝仙4科の試験の後は見たことのない青ざめた顔で出てきました。具合でも悪いのかと思いましたが、聞くと最後の解答用紙の回収の時に社会の解答用紙の裏側があった事に気づいたとの事！大問まるまる1問白紙です。娘もさすがにやっちゃったなあ と落ち込んでいる様子でした。算数はちゃんと全部解けたのにどうしよう、と言っていましたが無事合格はいただけました。合格はいただけましたが、さすがに娘も目が覚めたようです。入学してから宝仙で良い成績をとれるよう頑張る！ と新たなスタートを切り今は英数の予習に自発的に取り組んでいます。

当初の娘の志望校の都立ですが、6年秋から対策の精度を徐々に上げていく中で、どうも解いていて気持ちが乗らない・・・ と感じ始めその思いはどんどん強くなり徐々に志望度は下がっていきました。三田国際は一番過去問を解きましたが、解く度に突き抜けたり低すぎたり最後まで安定しない得点率でした。宝仙は9月に基準点は越していたものの、そこからしばらく得点が上がらず放置。改めて直前期に取り組んだところ安定して得点でき特待を視野に入れるところまでこられました。試験問題はその学校の入学後の学習に通じるものがあるとも聞きますので、娘が自然体で成長できるのは宝仙なのかなとも思っていました。

進学する宝仙学園は姉も通っていて実感していますが、どの先生もとても暖かい学校です。本人が望めばイベントも勉強もいろんな事をやってみなよ！と後押ししてくれますし、どんな相談にでもものってくれます。例え受け持ちではない先生でも歓迎し話を聞いてくれます。一方、積極的な事が苦手な子には無理強い、強制はしませんが目は離さずにいてくださいます。思春期の学生への寄り添い方がとても素敵だなと思っています。

思えばアントレの先生方も同じように娘を支えてくれていたかな、と思います。娘が当初考えていた「アントレみたいな学校に行きたい」という希望が叶っているのかもしれない。

チャレンジして叶わなかった学校があるのは残念ではありますが、まだ12歳です。この経験をバネに中学校でいろいろな経験をし、ここからまた成長して欲しいと思います。

最後になりますが、アントレの先生方、そして一緒に学んできたお友達の皆様 本当にありがとうございました。ここまで来られたのは家庭よりもアントレの皆様の方の力が大きかったと思っています。

後藤菜月さんのお母様

本当に長い長い受験生活が終わりました。

受験結果は本人の納得いくものとはなりませんでしたが、我が家の経験が少しでも後輩の皆様のお役に立てれば幸いです。

◆入塾のきっかけ◆

長男（3才年上）が中学受験をしたことで、菜月も自然と自分も中学受験をするんだという流れでスタートしました。長男と同じ塾に通わせなかったのは、マイペースな性格が毎月のテストでクラスが上下するプレッシャーの中でお勉強をする環境は合っていないと思っていたからです。何をやるにもとにかく時間のかかる子だったので、少しでも早めに受験準備を始めようと思い3年生のスタート時から入塾させました。

◆3年生～5年生◆

入塾時の3年生はAクラスに所属。4年生ではBクラスに所属。5年生ではAクラスに所属していました。

長男での経験で5年生の夏前あたりから一気に内容が難しくなることがわかっていたので、それまでの間に、とにかく基礎を繰り返し繰り返し勉強しました。

朝は学校に行く前にシリーズ計算・漢字・理社の毎日プリントを日課としました。毎日プリントは繰り返しの問題があるので知識を入れていくのにととても素晴らしいなと思っていました。

その他には、6年になるまでは理社の要点チェックの問題を単語帳に書いて、学校で時間のある時に見たり、隙間時間に見たりしていました。

ただ、アントレは予習をしていく形ですが、菜月一人で出来るわけがなく、勉強中は私がずっと横にへばりついて勉強をするというスタイルでした。そして結局、そのスタイルは受験が終わるまで続くことになりました。

◆6年生◆

6年生になり、本人の志望校から考えてAクラスに所属しておりましたが、その頃の白板は〇の数が少なくなっていました。塾に行きたくないとまでは言いませんでしたが、明らかにテンション低めで通塾していました。もともと算数は好きな教科でしたが、このまま〇がなかなか取れない授業をきいていいのだろうか？と思うようになり、タケノコに相談して春期講習からBクラス所属に変更してもらいました。はじめ本人は、クラスを落とすことを嫌がりましたが、実際Bクラスに行き出すと、〇だらけの白板に算数の授業の日は特にウキウキしながらの通塾に変わりました。

ただ、Aクラスの白板とBクラスの白板の問題のレベルの違いにちょっと不安を抱いたのは事実です。AとBの間のクラスないですかね？と面談の時によく言っていました。

入塾して一番力を入れていた教科は算数だったので、算数はそれなりに出来ていたと思うのですが、問題は理社でした。特に暗記物はその時には覚えていても、あっという間に忘れてしまう。を繰り返していました。言葉は知っていても、それが問題として出されると答えることが出来ない。言葉・背景・関連している出来事が結びつかないことが多く、テストでの点数はとれて半分という状態が続いていました。

国語も漢字は書けるのですが、文章題は苦手。選択問題は見事に逆の回答を書くことも多く、苦戦していました。ただ、物語文など好きな問題の時は点数がとれていたり、点数の波は大きかったように思います。

◆志望校について◆

長男の受験の時はまだコロナ禍前で、学校説明会も、学校見学も普通に実施できていたので、菜月もよく一緒に見学に行っていました。その中で、この学校に行きたいと言っていた学校が結局最後まで菜月の第一志望校でした。

その第一志望校は、結果長男の進学先になった学校なのですが、入学してからの勉強のレベルやスピード、同級生のレベルの高さなど、とにかく大変な事が多かったので、菜月にはどうなのかと不安はありました。

6年から始まる合不合の結果でも最後まで20%以上は出なかったので、第一志望は別の学校にしようかとも思いましたが、本人の意思は最後まで変わることはありませんでした。それであれば、第2志望、第3志望の行きたい学校を探すのみだと思っていましたが、第一志望の存在が大きすぎて、なかなかピンとくる学校が見つかりませんでした。

本人の希望は大学の付属校だったので、とにかく付属の学校の資料請求をしたり、学校見学に行ってみたりしました。実際行ってみると、どこもいい学校だと感じましたが、下記の事は気になりました。

- ・今この大学の付属に入るメリットは？
- ・そのまま上がれる大学は保険として、より上位の大学受験を考えてくれるといいけど、きっと入学したら、現状に満足してしまい、上昇志向を失いそうな気がする。

また、ボーダーギリギリで入学してしまった後の学校生活がどんなに大変かが分かっていたので、進学校に進学するなら、入学後も本人がキャパオーバーにならないだろうと思える学校を選ぶことにしました。

そこで、第一志望校はそのまま、他大受験で大学に進学する生徒が比較的多い付属校を組み込み、チャレンジになりそうな進学校は外して日程を組むことにしました。

◆学校見学・説明会について◆

ある学校の説明会に行った時、その学校の先生とお話する機会があったのですが、その時に、学校の実態はその学校の生徒に聞くのが一番だと言っていました。それからは、質問コーナーで生徒がいる時は、必ず生徒にもお話を聞いてきましたが、良いことも大変な事も本当に色々と話してくれてとても参考になりました。

ただコロナ対策などで生徒への話しかけを禁止している学校もありましたが、そのような場合は、比較的若い先生にお話を聞くと、色々と本音を話してくれるとアドバイスをいただきました。

私も実際、ある学校で気になる事があった時に学校に問い合わせをしたのですが、その時の返答にちょっと違和感があり、実際に通われている知り合いの生徒さんに確認したところ、学校側の返答と生徒さんから聞いた内容に違いがあったということもありました。

◆夏期講習以降にやったこと◆

・算数四まと・白板・過去問で、何度も間違ってしまう問題や、今まで出来ていたのに解き方を忘れてしまった問題などを1冊のノートにまとめました。このノートは合不合テストの時や、受験当日も毎回持って行って休み時間に見ていたようです。

・算数四まとは、間違った問題の所にその日の日付を書き、全体を4～5周解きました。1月に入ってからは日付の記載がある問題と、上記のノートにまとめた問題を繰り返し解き、穴をなくすことを心掛けました。

・国語の漢字だけは落とさないようにするため、出る順のテキストを1日1ページでもいいので、隙間時間を利用して解いていました。

◆その他◆

春期講習などの各講習の内容はそれまでの復習になりますが、家での予習時にその単元の白板を探しだすのにかなりの時間がかかっていました。そこで、過去にさかのぼり、入塾してからの白板の表紙に単元名を記入するようにしてからは、白板探しに時間を取られることがなくなりました。(4年生の白板はあまり見直すことはなかったのですが、5年生からの白板は入試直前まで使っていました。)

◆入試結果◆

- 1月10日 西武文理・・・グローバル選抜クラス 合格
- 1月13日 淑徳与野・・・不合格 (2月校の参考にする為受験させました)
- 2月1日 AM 中央大学附属中学・・・不合格
PM 明治学院中学・・・不合格
- 2月2日 AM 明治学院中学・・・不合格
PM 十文字中学・・・特待S1 合格
- 2月3日 日本大学第二中学・・・精神的・体力的に疲れすぎて出願のみ
- 2月4日 中央大学附属中学・・・不合格

菜月が入試を終えて会場から出てきた時、全ての試験ですごく出来たと言ってました。これは長男の時と同じでした(笑)。長男の時も大変な受験で、1月末から4連敗で最終日合格という結果でしたが、毎回合格したと言って会場から出てきたことを思い出しました。ただ、中附の過去問は、今までは算理社が取れて半分だったのですが、入試1回目の答案の解き直しを家庭教師の先生にして頂いたら、合格かも・・・と思えるくらい正解だったようです。国語に関しても、あの量の問題を見直しの時間が取れるくらいのスピードで解けるようになっていました。

正直、中附は難しいだろうと思っていたのですが、1月後半から急激に学力が上がったことは、見て分かるくらいだったので、試験が終わっての「出来た」は本当にいいところまで出来ていたのだと思います。

ただ、明治学院については、過去問の出来からして絶対に大丈夫だと思っていたので、この不合格は意外な結果でしたが、もし、合格が取れていたら、それはそれでいろいろと迷うことになっていたので、結果的に良かったと思っています。

入試が終わり、菜月なりに結果を受け入れ、この先の事を考えていけるようになるまで少し時間はかかりましたが、今では進学先の学校のことや、大学入試でリベンジしてやると話をしております。

この4年間、娘をみてきてホントに成長したなと思います。毎日コツコツ頑張れる子なので、付属に行ってもそのまま流されるより、進学校でやりたいことを見つけ、目標に向かってまた頑張ってくれと確信しております。

長男の時は、勉強に関する事は外部の方をお願いしていたので、今回初めて子供たちがどのような事を勉強しているのか知りましたが、本当にみんなすごいことを成し遂げてきたのだなと思います。

入試期間中は、毎日のようにフンちゃんに電話をかけ、いろいろと相談やお話を聞いていただきました。本当にありがとうございました。その他の先生方にも、大変お世話になりました。

アントレに通い、娘も私も大変成長できた4年間でした。

算数四まとは私のポケ防止の為に今後も繰り返し解いていこうと思います。

小牧諒成くんのお母様

我が家のリビングの本棚にはまだ予習シリーズや5年の時の白板ノートがたくさん残っており、子供部屋には6年の教材や過去問を解いたコピーが山積みのままでまだ片付けることができないでいますが、私自身の頭や心の整理をするためにも、体験を記してみようと思います。

【息子の性格等】

一人っ子で小さい頃からブレることなく電車好き。習い事もチームで、というようなことはしてこなかったのもあるのか、競うことにも慣れておらずマイペース。受験も最後までわかりやすくスイッチが入ったということはなかった(本人は、何日かのうちの数時間入った、などとは言っていますが)。しかし、言われたことは文句言いながらもやるし、やると決めたことは比較的きちんと続けるほうだと思います。しかし、やり方は雑。。

【受験の動機】

やはりここも電車好きが一番大きな動機でした。地元の公立では鉄道研究部がないので、入りたいクラブがないとのことで、受験を考え始めました。

また、小学校受験に向けても動いていたにも関わらず、大人の都合で有耶無耶になったままだったので、まだやったことがない受験というものがしてみたいという本人の希望もありました。

【アントレ入塾の動機】

3年生の頃は、習い事もかなりしつつ、自宅で四谷大塚のリトルクラブを受講していました。いつか塾に入る時にはこのまま四谷のテキストを使うところがいいなと思っていました。

同時に、出かけるネタに、ということで鉄道研究部があって近い学校ということで電機大の中学の文化祭に行った際、お互い駅からの道が不安だからとたまたま一緒になった一つ上の学年のお母様が、西東京市で予習シリーズ使ってる塾なら、アントレという塾がいいと聞きますよ、と教えてくださいました。私も気になってはいましたが、4年生でもお弁当、というところが3年間も塾弁は無理だ!と思い、一旦4年生は他塾に通って集団塾の雰囲気慣れさせ、4年生の年末で全ての習い事を整理し、新5年生の春期講習からアントレにお世話になることにしました。4年生の秋に受けた体験授業のチーム戦がとても楽しかったようで、また、そのときに同じクラスだった女の子が席などとてもお世話をしてくれたようでその点もとてもありがたかったようです。

【アントレでの生活】

あんなに私が怖がっていたお弁当生活も、食べるのが遅い我が子は15分で食べ切れる量がいいとのことで、持参していたのは幼稚園年長さんの頃に買ったお弁当箱でしたので苦ではありませんでした。こんなことなら4年生からお世話になっておけばよかったかなあと思ったりもしました。

通い始めたのが新5年生の2月ではなく3月の春休みだったため、手元にあった予習シリーズでカリキュラム的には追いついていたとはいえ、食塩水の濃度を天秤で解くというシリーズに書いていない解法を習得した方がいいとのことで白板のコピーをもらって、ふんちゃんに質問したり、家ではそこまで時間に追われずにやっていたシリーズも、確実に毎週授業に間に合うように予習して授業に備えねばならず、ペースを掴むのにかなり時間がかかりました。

アントレでは、量より質と言われてきたのですが、やはりそのペースに乗るにはとても急がねばならず、またそうすると親子共々やっつけ仕事になってしまったりしました。その上、息子は数をこなさないとなかなか身にならず、白板もやはり初見の問題は取れず、家で何度も復習をしてまとめテストでなんとかがんばる、という一ヶ月の繰り返しだったように思います。

毎日プリントもちょうど一週間分にしてもらってありましたが、とてもそれだけでは覚えきれないので、一週間に3周できるぐらいのペースで、朝の計算ドリル 漢字の練習に加えて勉強に取り入れるようにしていました。

通い始めて早々にSクラスに上げてもらいましたが、白板が上記のような状態で、まとめテストにもむらがあり、何度もこのクラスでいいのかと柏原先生や清水先生に面談していただきました。その度に大丈夫ですよとおっしゃっていただき、また本人もクラスに馴染んできていたので基本的には変わりたくなさそうでそれならこのままでとなりましたが、息子の場合は国語の方がさらにどうしたものか。。。という状況でした。

国語こそ二カ月に一度のクラス替えでどうにかなっちゃうんじゃないかと思いつつも、二ヶ月あるとなぜかどちらかの月で踏ん張るのでそのまま6年前期までできましたが、後期はいよいよ模試でもこれはさすがにまずいという点数を取ったこともあり、通常授業は週に一回ではあるけれど一つクラスを落としたい旨を申し入れました。また、同時に後期は個別もお願いすることにしました。

理想は9月～11月は国語 12月は算数 1月は理科 なんて思っていたのですが、やはり国語は一朝一夕にどうにかなるものではなく、結局最後まで国語をみていただくことになりました。

けれど、結果的にそれでとてもよかったと思います。最初は選択肢さえも取れず、記述はよく清水先生に指摘されていましたが、筆者の考えを聞かれているのに自分の考えを混ぜて答えたりしていたので、まず何を聞かれているのかに線を引くことから始め、選択肢の中の文章も合っている箇所には○を、本文とあってないところには×を書くこと また、いつも傍線部の近くしか見ていなかったのも、その近くでないことも多いということにも気づかせてもらったりしました。

後期の入試演習では最初の数回こそ結果が出ませんでしたでしたが尻上がりに上がってきたのは国語で人並みに得点できるようになってきたからだと思います。模試でも国語が足引っ張らなければなあ、という回が多かったのですが最後の模試では安定し、自身最高記録を出して誇らしげにしていたのを覚えています(私も驚きました)。もっと早くに個別を受講させてあげてればよかったかなと思いますが、やはりあの一週間のスケジュールを考えるとうちには時間的にきつかっただろうなと思いました。

【志望校の決定】

志望校については、とても揺らいでしまっていたことがよくなかったように思います。性格的に人に刺激を受けてがんばる、というところもないのでおそらく付属校のほうが合ってるだろうなと思っていましたが(そして親ももうお尻を叩かなくて済むかなど)、社会と算数が好きな息子はまだまだ文系か理系かもわからず、まだまだどういう方向に進みたいかわからないので、言われたことは曲がりなりにもやる でも自分でやることを組み立てられない幼さを持っている彼には面倒見がよく、もちろん鉄道研究部が盛んな学校にしよう話し合いました。

いろんな学校の文化祭に行き、本人は都市大付属の鉄道研究部と顧問の先生(日本全国の全ての駅に降り立ったことがあるそうです)に魅力を感じ、進学したがりでしたが、私はエリア的になんとなく遠い感じがするので、城北の鉄道研究部は文化祭でもホールのようなと

ころを使って大規模だし、ここもいいのではないかと推していました。

また、性格から、もう少し偏差値的に上に目標を置いておかないとまずいかなということもあり、通いやすさもあって海城の文化祭を見に行ったら、鉄道研究部よりも物理部の割り箸で作った大きな鉄橋が気に入り、徐々に海城が第一希望の学校になっていきました(親が誘導した感も否めません。。とにかく新宿線の我が家は通いやすいと思ったのです)。しかし、海城を第一志望にというのがもっと早かった方が気持ち的に良かったのではないかと思います。

ただ、城北の国語は記述が多い 都市大の国語は詩や短歌 文学作品等が出るので対策が増えてしまう 国語が苦手な彼が海城の社会の記述ができるのだろうかという不安はあり、どこも安全校にならないのが怖く、その点も何度も話を聞いてもらいました。

【埼玉受験】

我が家にとって栄東はお守りにはならないかもしれないと思い、10日にの午前に栄東 A 日程 午後に城北埼玉の特待を受けました。

現地にはやはり1時間ほど早く着くように出発するとすると6時過ぎの電車に乗ることになりました(朝の早さは東京受験でもさほど変わりはありませんでした)。

この時間であれば、東大宮駅から人もとても少なく歩きやすかったのですが、45分ほど後に到着した友人はやはりホームから自分のペースでは歩くことができなかつたとのことでしたので、寒いですが栄東は少し早めに到着がおすすめです。

手に持つカイロと、これも手を温めるために温かいペットボトルと、靴下の甲にも貼るカイロを貼りました。

午前の受験は初めての本番だったからか、手が震えてたそうで(しかも苦手な国語が1時間目)解けた気がしないとのこと。やはりお守りにはならないかとも思いながらさいたまスーパーアリーナでの城北埼玉を受験。まあまあできたと帰ってきたのですが、結果は一般合格。焦って柏原先生に電話してしまいました。。栄東の可否発表は翌日だったのでまずは待ちましょう。結果合格でしたので、電話したところでどうにもならないのにあたふたしてしまって恥ずかしいなあと申し訳なかつたです。やはり午後受験は体力ある子でも疲れるのかなと思いました。ただ、これらを1日で済ませる日程にしたのは、本人が2月の午後受験の練習がしたいからという希望を持っていたということもあります。

【1月】

学校は始業式から休んでいましたが、とにかく6時過ぎには起き、23時に寝るというリズムは崩さないようにしました。秋から過去問はかなりこなしました(各学校最低2周はし、学校によってはもう少し 第一志望の海城はもう少し古い年度のものもネットで買ってやりました。海城の社会はやればやるほどできなくなってきたので、荒武先生にオンライン添削をお願いしたりしました。結果、先日数えたら50セットの過去問解いた形跡がありました)。ですが、やはり回数をやるだけではなく、言われた通り、解き直しをいかに丁寧にするかが大切で、この点がやったつもりでやはりやれていなかったのだと思います。

算数は夏期と冬期の白板を中心にやっていました。夏期のものは後期にもこれでもかというほど何周かやっていたので(夏期の単元別が良くなかつたのです)、過去問でいつも取れない単元を中心に、冬期のものは基本的には全て また後期のものもそれと並行してやっていました。4まとももっとやりたかつたのですが時間が足りず、受験の数日前にいつもできないものだけやるという感じになってしまいました。

社会と理科は冬期のプリントを何度もやり直しました。また、100題テストなど一問一答のようなものをコアプラの代わりにしており、コアプラは買ってからおそらく夏期以外は

2周ぐらいしかしてなかったかもしれません（拝読した体験記にはコアプラを隙間時間に何度もやったという人が多かったのに）。

国語はとにかく知識は落としたくないので、4まとを、授業の長文に関してはあまり復習しなくてもと言われていましたがやはり苦手科目なので、間違えたところは書き直しをしていました。

【東京受験】

栄東は遠いですが、本人は楽しそうだから通うのもいいなと言っていたのもあり、お守りどころか本当の進学先の一つと考えることで、2月の受験校は変更しないままいくことにしました。

1日 午前 海城① 午後 都市大②

都市大の結果は深夜にわかる予定でしたが、翌日に影響するのがこわく、見ないまま就寝しました。

2日 城北②

全く緊張せず、過去問との相性もいいので本人は普段通り帰ってきました。

お昼にファミレスで海城と都市大の合否をチェック。

海城はもしかしたらいけたかも、なんて言っていたので不合格だったのを見た時はショックそうでしたが、都市大は国語を含む二科目で自信がないようでしたので、合格して涙を流して喜んでいました。その足でアントレに行き、3日は海城再チャレンジすることを伝え、どこに気をつけて臨めばいいかアドバイスを聞いて帰りました。

夜、城北合格が判明。

3日 海城②

城北も取れたことで初日ほどは緊張していなかったようです。戻ってきた時に、やっぱり先生とか生徒とか、この学校がいいなあと言っていました。ですが、結果は残念。。

5日 都市大④

一つ上のコース狙いでもう一度受験。四科目だしいけるかなと思いつつ、やはり最終日は無理でした。

【進学先の選定】

東京で一つでも取れたことで、進学先は東京に。しかし、城北か都市大か、なかなか答えが出ませんでした。

通学時間や部活動といった具体的なものから、先生の雰囲気など抽象的なものまで、項目をいくつか挙げて、自分にとってはどちらに軍配が上がるか書き出してみましたが、最終的に本人はトイレ（本人は学校では一回ぐらいしかトイレに行かないのですが）など設備で決めていました。

私は過去問は学校からのメッセージであるならば、その相性がいい学校が合うのではと思ったのですが、第一志望を海城にする前は都市大が第一志望であったわけで、何より本人が選んだのですから（後で絶対文句言わないでよと念押ししました。本人も入学してみないとわからないわけですが 笑）、これでよかったのだらうと思います。

まだ電車で海城が見えたりすると本人も涙ぐんだりしますが、親も果たして入学でき

ていたとしてもそれはそれについていけるのだろうかとかまた新たに悩んで、ここにしておいたのだろうかと考えてしまう気がします。どの学校を選んでも、私は悶々と悩んでいたような気がします 苦笑。

本人は涙ぐむ時もあれば、都市大での生活を楽しみにしてそうにみえる時もあります。この先6年間、充実した学生生活を送ってもらいたいと思います。

【受験を終えて】

長くなってしまい、大変読みにくく、具体的ではなく申し訳ありません。

アントレでの二年間はとても忙しく、本当に毎日時間に追われていた気がします。

ですが、受験が終わってこの「早く早く」がないのも、送迎がないのも、なんだか寂しい感じがし、そのためにまだ過去問やらシリーズやらを片付けられていないのだと思います。

祭りのあとという感じでしょうか。私は他の保護者の方に比べて、あまり本人に協力的でなかったにも関わらずです（6年の頃は見張ってなきゃやらない でも本人は見られたくない→喧嘩になる→喧嘩も疲れるので私はさっさと寝る）。嫌がられてももっと関わっていればまた結果は違ったのだろうかなども考えますが、きっとこれがお互い精一杯やった結果かなと思います。あんなに喧嘩していても、受験日は毎日校門で送り出すとき、本当に二年間よくがんばったよねと涙が出てしまいました。こんな大変な毎日をこなしてきた我が子は（もちろん受験生の皆さん全員）アッパレだと思いました。

最後に、ちょっとしたことで一喜一憂し、その度に話を聞いてくださった柏原先生 清水先生はじめ、アントレの先生方、個別の小澤先生、大変ありがとうございました。

酒井隼くんのお母様

はっきり言って中学受験は魔界でした。3年前にタイムスリップできるとしたらもう1回受験させますか。そう聞かれたら「もちろん」と即答はできません。

「なぜ息子に中学受験をさせたいのかちゃんと考えた？」3年前の自分に問いかけたいです。我が家のほろ苦い「ハッピーエンド」までの道のりが、これから中学受験に臨むみなさまのお役に立つことができれば幸いです。

【家族紹介】

私たち夫婦とSクラス所属の息子&3歳年下の娘の4人家族。
夫婦ともに地方出身で中学受験の経験なし。夫は塾の経験もなし。
息子はスポーツが得意でアントレに通う前は毎日校庭開放で遊び、21時には倒れるように就寝していました。3年生まではハツラツとした小学生でした。

【アントレを選んだきっかけ】

初めは自宅学習で中学受験に挑戦しようと考えていました。しかし夫がネットでカッシーのブログを見つけファンになりました。算数に対する熱い思いだけでなく、大手塾には負けないぞという反骨精神にとっても共感したようです。体験授業に参加した息子も「国語は難しかったけど算数はできた。行きたい。」と言ったのでアントレに通塾しながら中学受験をすることにしました。

【志望校選び】

どこの中学のHPを見ても「自由・自律・責任…」などと同じようなことが書いてあり区別がつかみませんでした。そこで雰囲気を感じてみようとして「自宅から1時間程度で通学できる学校」を中心に中学校めぐりを始めました。

まず息子が3年生のときに武蔵の文化祭に行きました。私はその時には「ふーん、ヤギがいるんだ。学校内に川が流れているなあ」程度の感想しかありませんでした。息子も学校よりテント下で開かれていた駄菓子屋に夢中でした。6年生の春くらいまでに武蔵も含め芝、桐朋、城北、海城、慶応中等部、本郷、早大学院、成蹊、学習院、立教新座、都立大泉などに行きました。ユーチューブで学校選択に役に立ったのは進学塾バモスの富永先生が発信されている学校紹介です。15分程度にまとまれた学校紹介を頼りに直接行かなかった学校も含めて検討しました。

息子が6年生になり具体的に学校始業時間から何時に家を出なければならないかを調べると現実を突きつけられました。鉄道空白地帯にある我が家は、最寄り駅まで徒歩30分、バス10分を要し、芝や桐朋が素敵だなと思っても片道2時間弱という通学時間の長さを選択することができませんでした。

朝がとても弱い息子の希望は「自宅から遠くないところ」。毎朝6時半に家を出るくらいなら公立中学に行くと言われてしまい悩みました。そこで通学1時間圏内をめどに学校選びをすることにし、武蔵と城北の2校が志望校に浮かぶようになりました。

【悪戦苦闘の3年間】

新4年生で入塾。最初は「息子と夫の受験」が始まったなーとのん気に構えていました。大学受験でさえ塾に行ったことがない夫ですが、独学で結果を出しており穏やかに根気強く子供を導くことにおいては信頼していたので、私はほぼ丸投げ状態でした。4年生の夏前までまとめテストの存在すら知らず、点数も知りませんでした。ですがある時、理科のまとめテストの伴走を頼まれ初めて子供の受験に接すると、忙しい夫だけでは全く回っていないことがわかり、私の「受験スイッチ」が初めて入りました。そこからは夫が算数と国語、私が理

科と地理を担当することとなりました。以後Sクラスの中で算数は得意、国語はやや苦手、理科社会に関しては普通からやや得意の位置をキープしてきました。

5年生後期になると社会は地理から歴史に変わりました。息子は歴史に苦戦しました。たくさんの人や出来事の名前がなかなか頭に入らず、歴史用語も漢字でなかなか覚えられませんでした。歴史に時間を費やした結果、国語がおろそかになるという悪循環が始まりました。

● 5年生後期個人成績表

全てSクラス（成績優秀者に一切名前載らず）

1回目（算数C国語C理科C社会D） 2回目（算数C国語C理科C社会D）

算数S それ以外はAクラスに変更

3回目（算数A国語B理科A社会B）

成績優秀者 算数3位・国語5位・理科1位・社会6位

4回目（算数C国語A理科A社会B） 成績優秀者 国語1位・理科1位

後半2回は全教科Sクラスに戻そうと時間無制限の勉強に切り替えました。毎日、本人のエネルギー120%の全力投球だったと思います。結果、ランキングに名前は上がっていましたが、今思えばこの時期の向き合い方を間違えました。点数ばかりに目が行って、息子の様子を気にかける余裕がなかったのです。

6年生春。疲れ果てた息子がいました。

4月以降、週4日目の授業となる火曜日の武蔵算数を途中からやめました。6年生4月の小学校の保護者面談で、息子が5年生後半から疲れ切ってぼんやりしていると指摘を受けて初めて事態を自覚しました。背の高い息子がぼんやりしないように1番前の中央の座席に座らされていきました。

初めての合不合判定テストを何とか終えるも精気を失った息子。状況を少しでも良くしようとGWから夏休みまでアントレを休ませることにしました。休み期間中、国語と算数は「4科のまとめ」、社会は「コアプラス」を少しずつ続けていました。やらせすぎのを避けたかったので、私が担当していた理科は一切お休みとしました。あとは自由に校庭開放に行かせ、息子が少しずつ元気になるのを待ちました。

また、気分転換に毎年5月に開催される「わんぱく相撲・練馬区大会」にも3年ぶりに参加しました。全国のスポーツ好きの小学生がトーナメント方式で勝ち進んでいき、各地域で優勝すると全国大会へ進めるという大会で、なんと準優勝！ 1年生で3位、2年生で4位以来のまさかの人生初のトロフィーは、本気になったときには力が出せる息子を証明してもらえたようで、勇気づけられました。

また、この期間志望校への気持ちにも変化がありました。第1志望にしていた武蔵を一度諦めました。そもそも保護者会でのフンチャンのお話がとても好きで、ただただ上を目指せばいいわけではないという考え方に共感していました。「武蔵は怖い学校ですよ。放っておかれます。自分で好きな勉強ができる子には向いています。でも、そうでない子は6年後悲惨ですよ。」これ、息子のことだな…と思いました。息子は今のところ何かはっきりとしたやりたいことがあるわけでもありません。勉強が楽しくて仕方ない、という感じでもない。特にアントレ休会となってしまった状態で、何度もフンチャンのお話が胸に刺さりました。

逆に学校からの働きかけがあり、大学進学を応援していこうという校風の城北はとても息子に向いているような気がしました。広い敷地があることも、息子の希望にぴったりです。

城北なら、このまま自宅学習で目指せるのではないかな。

このころ、アントレを辞めるという考えがよぎりました。

夏休みまでの3か月、息子の様子を見続けました。

また毎週やるべきことが押し寄せてくる塾生活に戻すのか、自宅で勉強するか…。

1番近くで見ていた私には徐々にダレてくる息子が想像できるようになり、アントレに復帰させるべきだと考えました。夫は算数だけアントレにお世話になり、あとは家でテキストと過去問を何度も繰り返す勉強をさせたいと主張しました。夫は中高時代ずっと「1冊の参考書や問題集を繰り返し筆者と対話するようにじっくり向き合う勉強」をしてきたそうです。塾のカリキュラムについていけなくなっている息子を何とかしたいと思っていたようです。それもとてもわかるけど…。ここで夫婦の考えが食い違い、何度か平行線の話し合いが続けられました。

夏期講習。カッシーに電話で相談し、結局全教科をSクラスで復帰しました。息子は一見何事もなかったかのように戻っていきました。勝負の夏はカリキュラム通りに勉強を進めるだけで精一杯でした。

●夏期講習テスト結果 259.95 118番目/185名(過去9年のSクラスデータより)

●夏休みSクラス 単元まとめテスト総合成績(19名中)

算数11位・国語18位・理科12位・社会18位 4科総合18位

6年後期。土曜日に入試演習クラスが始まりました。

初回は男子上位クラスからの受講でした。そこでお休みして以来初めて、カッシーと対面で相談しました。カッシーからは「まだ武蔵が狙える位置にいること」「武蔵クラス→男子上位クラスの変更は可能でもその逆は難しいこと」を伝えられ、2回目より武蔵クラスを受講することにしました。武蔵にまだ間に合うのか半信半疑ではありましたが、希望も感じました。一方で、歴史や公民がどうやっても定着しないことに答えが見つかりませんでした。

武蔵の過去問と総まとめに入っている通常授業に集中する秋が始まりました。

学習計画表の通り、社会も理科もコアプラスを中心に進めました。歴史の基礎が未だ定着していなかったのも、夏同様、年表トレーニングにはあまり手をつけず、コアプラスのみに集中しました。算数は息子任せ、国語は夫と一緒に伴走しました。また、夫の仕事が多忙となっていたため、社会のコアプラスは私が口頭で答えさせるなど、できるだけ同じものを繰り返し学習することを心がけました。社会は週1のチェックテストとまとめテストをクリアすることに集中しました。それでもやはり歴史公民が定着しませんでした。

●入試演習 武蔵クラス(受講11回)

合格4回 補欠2回 不合格5回 (11回のうち社会10点台は6回)

●歴史公民チェックテスト&まとめテスト(全10回)

合格3回 不合格7回→追試にて合格

我が家が最終的に歴史公民のテコ入れができたのは、冬休み以降、子供が感染対策で学校を休み時間ができてからです。ダンディーにアドバイス頂き、四谷大塚の夏期講習のテキストだけに絞って繰り返し解かせました。このテキストは基礎事項のまとめから基本～応用問題までコンパクトにまとまっています。最初は口頭でその後は記述。3周目くらいまでは大変でしたが、5周目くらいからすらすら解答できるようになりました。この方法で社会の過去問の点数が安定してきました。

【受験スタート】

年末に夫がコロナに感染するところから新年を迎え、慌ただしく埼玉受験が始まりました。毎朝5時半にお風呂をわかし、頭をすっきりさせてから一日を始めるようにしていました。2月1日は武蔵と城北の2校出願、それ以外も通わせてもよいと思うところのみの出願とし

ました。年が明け、歴史公民の手応えが出てきたことから、2月2日の城北合格が確実と言えそうなら、1日は武蔵受験する予定でした。年末時点での城北2回目の過去問の出来は、合格最低点前後にいるような状態でした。1月25日の立教新座が合格なら2月1日は武蔵。不合格なら1日は城北受験に決めました。結果、立教新座が不合格だったので1日は城北を受験しました。

●出願校および可否

1月 栄東A 不合格（2点差） 栄東B 合格 立教新座 不合格
2月1日 城北 合格（進学先） 武蔵 出願のみ
2月2日 城北 出願せず
2月3日 立教新座 出願せず
2月4日 成蹊 出願せず

受験先の学校について息子の希望は「ギリギリ滑り込みの成績で入学するのではなく、余裕を持った学校にいたい。自宅から遠くなく敷地が広い学校」息子の中では城北中学校が第1希望だったようです。

その城北中の受験番号は「1140」。

見た瞬間、「入学してイイヨ」と言われているような気がしました。

受験当日の朝、真っ赤な太陽に見守られ、駅まで自転車をこぎました。ぶつかる信号はどれも私たち親子のタイミングを見計らうようにして青に切り替わり、縁起がいいのでは？と息子に声をかけました。カッシーから「落ち着いて受ければ大丈夫」と応援をいただき、見送った私と握手をして別れました。

試験後の第一声は「理科が満点だったかも」でした。

もともと帰り道に話を聞いてみると塩化コバルト紙だけ自信がないとのこと。

「色の変化は赤→青だっけ？」「昨日その逆だと確認したじゃない〜！」

あつという間に理科満点の夢は絶ち消えましたが、他教科も手応えあり。悪くなさそうです。その晩、合格を目にしたときには心底ほっとしました。

【最後に】

担任の柏原先生はじめアントレの先生方、本当にありがとうございました。

2月2日、城北中学校から電話がありました。入学式の新入生代表挨拶と翌日の在校生との顔合わせの会での挨拶の依頼でした。どうして選んで頂けたのですかの質問に「試験結果です。素晴らしい成績でした。」との返答を頂きました。

様々に気持ちの入り乱れる3年間でしたが、身に余る光栄は、最後まで受験を応援して下さった先生方のお陰です。秋に早々に城北を第1希望にしていたら、この着地点はなかったことと思います。とても緊張すると思いますが、3年間授けていただいたアントレスピリットを胸に、息子が堂々と挨拶できるように家族皆で応援したいと思います。

結果が問われる塾にあって、そこだけに重きを置かないアントレで3年間を送れたことを幸せに思います。我が家の受験はアントレなくしては成し得なかったと思います。

フンチャン。どうぞいつまでも健康で長生きしてくださいね。

そして今後のアントレの益々のご発展をお祈りしています。

どうもありがとうございました。

佐藤悠輔くんのお父様

2月3日の1時半ごろに合格発表を見て、「よっしゃー！これで思う存分ポケモンができる〜！」の言葉をもって、我が家の中学受験が終了しました。コロナ禍の中、何とか無事に中学受験が終了し、家族でほっとしています。ここまで来ることができたのも、アントレの先生方や、クラスの仲間たちに支えてもらったおかげだと思います。本当にありがとうございました。少しでも参考になればと思い、我が家の受験体験を記したいと思います。

【アントレに至るまで】

中学受験することを決めて、これまで理科実験教室のようなイベントで行き慣れていた駅前の某集団塾に新4年生の春期講習から通わせていましたが、新型コロナが日本に上陸、あっという間に緊急事態宣言が出てしまい、4月からはしばらく授業無し。しばらくして再開しましたが、授業はすべてオンラインで、このまま一人で受験勉強をしていくのは厳しいのではないかと考えていました。それに加えて、新5年生になる前に勧められたコースが開講しているのが練馬とのことで、そうであればもっと近くにいい塾があるのでは？と思い、いろいろと探していました。中学受験で有名な大手塾は、試験結果ごとにクラスが変わると聞いており、精神的に辛そう、と思いつ躊躇していたところ、妻が学校のママ友からいい塾があるよ、と聞いてきたその塾がアントレでした。運よく冬期講習の時期とタイミングが合い受講したところ、息子も非常に楽しかったようで、新5年生の前期からアントレにお世話になることにしました。

【入塾、5年生】

冬期講習はBクラスで受け、まずはAクラスで開始という流れだったのですが、体験授業(Aクラス)後の面談で、Sクラスで行けますよ、との提案を受け、Sクラスでスタートすることにしました。

以前の塾よりも難度が高いテキストを見て苦戦は覚悟していたものの、予想通りの大苦戦。国語、理科、社会は何とかなっていましたが、算数は〇が半分ももらえない(金曜日に至っては〇がほとんど取れない)状態がしばらく続きました。塾の送り迎えをしていた妻の話から、この時期は帰りに少し泣きべそになっていたことも多かったみたいでした。

幼稚園の時から続けてきた好きなダンスも並行して行っていたため、予習・復習・宿題の時間を確保するには試行錯誤しました。特に算数の予習では問題の難度が高く、週末一杯かけてようやく予習が終わるような状態でした。初めは、予習の時に適宜(父が)解説を加えていたのですが、時間がかかりすぎてしまうために、途中から、基本的には自分でテキストを読んで予習をして、わからないことがあれば(父に)聞く形に改めました。また、算数の予習の仕方は柏原先生に相談し、1問10分程度に時間を区切って解くようにしました(それでも、もう少し、もう少しと長考になる傾向はなくなりませんでした)。

やってもやっても〇が取れず落ち込んでいても「算数は面白いから好き！」という気持ちで取り組む姿には親から見ても感心しましたが、結果がついてこないのは苦しいものです。夏期講習に入る前に、きちんと目的意識をもって講習を受けることが大事、との話を聞き、算数を改善しようと、夏期講習で受ける単元の白板問題を連続2回正解するまで繰り返して解くようにしました。わからない問題は例題、基本問題に戻って、テクニックではなく問題の本質を理解するようにしました。それまでは、どちらかという親に言われて始める勉強だったのが、自分から始める勉強に変わってきました。「もっとわかるように、出来るようになりたい！」と必死に算数に取り組んだ夏休みを通して、本人の中で問題に対する考え方がつかめたようでした。

後期に入ると、白板問題の正答率が5割を超えるようになってきました。この時点で、ようやく親子共にSクラスで何とかやっていけるかも、と思えるようになったと感じます。し

かし、計算のミスが多く、まとめテストの冒頭の計算問題も落とすところが目につき始めました。予習シリーズの計算問題集を行っていましたが、なかなか改善が見られなかったため、柏原先生に相談したところ、日々解法を工夫しながら解くとのアドバイスを受けて、それを息子に伝えるとともに、これまでのまとめテストの計算問題や、半分読み物として買っていた「中学への算数」に掲載されている計算問題を、毎日解くようにしました。そうすると、コツをつかんだようで、次第に計算問題の精度が上がっていきました。

【志望校の選定】

4年生の段階でいろいろと見学に行こうと思っていたところ、新型コロナの蔓延で見学会はすべて中止。致し方なく学校案内を取り寄せたり、徐々にホームページにアップされてきた動画を見たりして、少しでも学校の雰囲気を感じようと試みましたが、やはり難しかったことは否めませんでした。(コロナ禍前の3年生に、親戚のお兄さんが入学した城北埼玉の文化祭に遊びに行ったのが唯一の経験。「中学は試験を受けて入るもの」としばらく思っていた)

親の観点からは、大学受験の時には自分の意志で進路を決めてもらおうと考えており、通えそうな範囲のいわゆる進学校を中心に情報収集しました。5年生になると徐々に見学会や説明会が開催されるようになり、いち早く見学会を再開した城北をはじめとして、巣鴨、武蔵、本郷、桐朋、海城といった学校の見学会・説明会に参加しました。当初は、プラネタリウムがあるなど施設が非常に豪華な桐朋が気に入っていましたが(コロナ禍になる前は、結構な頻度で六都科学館に行って、プラネタリウムを見て、展示室で何時間か遊んでいました。付き合う親は疲れた…)。しかし、Sクラスには武蔵を志望する子が多く、上記の学校の中で、自然と武蔵が第1志望になっていきました。また、息子は小さい頃からポケモンが大好きなのですが、6年生で見学した武蔵記念祭の配布物を読んで、武蔵には「ポケモン愛好会」があると知り、武蔵の第1志望は確固たるものとなりました。そのことも、苦しい時期があってもSクラスで何とか踏ん張れた力になったのではないかと思います。個人的には、自分の出身高校もかなり自由な学校で、武蔵や桐朋には近いものを感じていたのも、妻も含め親子で方向性が一致していたのは精神的には楽だったかなと思います。その2校以外は選択が難航したのですが、またあとで記します。今にして思えば、早いうちに第3志望まで決め切れていなかったことが、動き出しが遅れるとともに、第3志望以降の学校の受験が我が事になり切れなかった原因だと思います。

【6年生前期】

これまでダンスを続けてきましたが、6年生になると武蔵算数や入試演習が開講されたりして、勉強の時間がもっと必要になることが予想されたので、残念ながら3月で休止することにしました。親としては中学に入ってから(何なら今からでも)復帰してほしいのですが、本人は現在ポケモンに夢中で、あまり戻る気はないようです。残念…。

5年生の後期で算数の成績が以前よりは安定してきましたが、武蔵の算数のレベルにはまだ達していないように思われました。実際に、ゴールデンウィークに武蔵の過去問を解いたところ、合格最低点に遠く及ばない結果でした。また、6年生になると四谷大塚の合不合判定テストも始まりましたが、特にこの年の第1回合不合テストの算数がとても難しく、算数の力不足なのでは?という不安に輪をかけました。そのため、算数強化のために個別指導を受けることを考えたのですが、当の息子は全く個別指導を受ける気はなく、無理強いしても仕方ないと思い、個別指導を受けることを躊躇していました。柏原先生にも相談して、普段から問題の本質を考えるように心がける、白板問題、宿題プリントを優先してモノにする、ということでしたので、それを信じて、これまでの白板問題、宿題プリント、まとめテストの問題を繰り返して、マスターするようにしました(2連チャンルールを厳守する)。

【6年生後期】

6月後期になると、毎月合不合テストがあり、また、過去問演習も本格化します。過去問演習は、第1志望校については10回分、第2,3志望校は5回分解くように言われるのですが、我が家の場合は第3志望校をどうするかで紆余曲折がありました。初めは海城の過去問を解きましたが、武蔵の問題とは相当傾向が異なり、またかなり難しい問題でもありました。他に本郷、城北も考えられましたが、第1志望が武蔵、第2志望が桐朋となると、本郷、城北はいずれも定員が少ない第3回での受験になるので、志望校にするには厳しいと思われました。また柏原先生に相談しなければ、とっていたところ、ある日息子自身が柏原先生に相談に行ったようで、筑駒や都立小石川を受けてみたら、と言われたと帰ってきました。これまで、息子は柏原先生へのリスペクトが過ぎるあまり（「カッシーは神！」が口ぐせでした）、緊張してほとんど話ができなかったと聞いていたので、息子自身で相談に行ったことと、考えてもいなかった筑駒、小石川を勧められたということで、二重に驚きました。その後柏原先生に相談に行ったところ、問題の傾向は筑駒や小石川の方が武蔵と似ており、筑駒・小石川の対策をすることは結果として武蔵の対策につながる、息子は4科目均等に点数が取れるため筑駒・小石川を志望校にしても十分やっつけていける、との説明を受けました。武蔵対策につながるのには確かにそれはそうだ、と思い、急遽第3志望を筑駒とすることにしました（息子はお年頃のせい、男子校しか考えられない、ということだったので…）。

算数については白板問題、プリント演習、武蔵算数、入試演習などの復習を繰り返していました。本人の中で何かコツをつかんだようで、第4回以降の合不合テストで、かなり算数の成績が安定してくるようになり、標準的な問題はかなり押さえられるようになったかな、というイメージが出てきました。取れる問題は確実に取る、という意識がしっかりとってきたように思います。過去問でも、算数でかなり安定して点数が取れるようになってきましたが、入試演習では時折コケることがあり、比較的骨のある問題への対応がなかなか難しいという感じでした。そのような状態のため、筑駒の過去問は惨憺なるもので（算数だけでなく、全科目難しい）、正直なかなか難しいな、という感じでした。

【入試直前】

家庭学習で一番難しいと感じたのは入試直前だったかもしれません。今年もコロナ禍が続いていた上に、埼玉校受験初日と始業式がバッティングする日程だったこともあり、3学期は初日から受験が終了するまで、感染防止のため休むこととしました。そうすると、時間の使い方がわからず、自分の好きな教科、やりやすい問題ばかりしてしまう、といったことが最初のうち生じてしまいました。過去の受験体験記を見ると、直前期ともなると立派に自走していた、ということも多く見たように思いますが、我が家はそうはいかず、その日にやることを親が指示する、という形になってしまいました。自走は中学以降の課題となっていました、中学に行ったらアントレで身につけた勉強の仕方を生かして、頑張ってお自走してほしいと思います。本人も口ではそのつもりようです……。

【受験本番】

年が明けると早速埼玉校の受験です。埼玉校としては、親戚が通っていた城北埼玉はもともと受験候補としていたのですが、本人からの申し出（仲の良い子同士でどこを受けるのか情報交換して欲しい）と、柏原先生に受験校を相談した際に栄東の東大クラスの合格ラインが桐朋2回目の良い指標になるとのことだったので、栄東A日程も受験することにしました。埼玉校はほとんど対策の時間が取れず、栄東は2回分、城北埼玉は1回分の過去問を解き、出題形式に慣れるぐらいで受験に臨みました。

- ・1月10日：栄東A日程 ⇒ 東大クラス合格
- ・1月12日：城北埼玉第3回（所沢会場） ⇒ 特待合格

栄東のA日程は、1月10日と11日の2日にわたって行われるため、合格発表は12日とな

り、本人は合否がわからない中で城北埼玉を受けることになりました。気持ちの持ちようの意味では、2月受験のシミュレーションになったのかなと思いました。まずは両校とも合格をいただけて、行くところまでできたことに安堵しました。栄東は1年特待まであと1点という得点で、1点の重要さもわかったのではないかと思います。また、試験当日はかなり早起きをする（5時半前）、起きてから試験開始までの長い時間にどのようにモチベーションを上げるか、水分や軽食（どの程度 OK か学校によって異なる）をどのタイミングで取るか、などのシミュレーションになったようです。

2月の受験までは、武蔵、桐朋、筑駒の過去問と武蔵算数プリント、入試演習プリントの復習を中心に勉強しました。算数については、初見の問題の感覚を忘れないように、「中学への算数」の初見の問題を解くようにしました。

- ・2月1日：武蔵 ⇒ 合格
- ・2月2日：桐朋 ⇒ 合格
- ・2月3日：筑駒 ⇒ 不合格

武蔵の試験が終わって、出てきて言ったことが、「国語がサピックスオープンの記事と同じだった！算数が5枚あった！」とのこと。国語ではあまり差がつきそうになく、国語を比較的得意としていた息子には不利に思いました。また、こっそりと柏原先生の算数講評を見たところ、結構重量感のあるセットだったようで、より一層不安は高まりました。ここまで来たら、息子を信じて結果を待つしかないのですが、どうしても心配にはなるものでした。

桐朋の感想は、「武蔵に比べると簡単だった」とのこと。それはそうだろう、と思いつつも、ある程度手ごたえがありそうで、ほっとしました。

筑駒の試験の後は、「とりあえず大体埋めた」とのこと。筑駒は最後まで雲の上の存在、というイメージがぬぐえず、もう少しきちんと対策ができれば、我が事にできたのかな、と少し残念な感じがしました。本命の武蔵が終わって、やや気が抜けた感じもありました。

筑駒の試験が終わり、人通りが少ない道に行ったところで武蔵の合格発表を見て、合格を確認したところで、我が家の受験が終了しました。

すべて終わった後になって息子が妻に話していたことですが、「武蔵の算数は難しくて駄目だと思った。落ちた夢を見て不安だった」「桐朋はできたと思ったからホッとした」とのこと。受験期間中はそんな気持ちはおくびにも出していなかったのも、息子なりに不安に耐えて気持ちをコントロールし、精一杯試験に取り組んでいたのだとわかり、親が思っているよりもずっと成長していたんだな、と感慨深く思いました。

【最後に】

新しいことに慎重な息子に、先生と仲間がフレンドリーに接してくれて、すぐにアントレに慣れて楽しく塾に通えたことは何よりよかったです。アントレに行って、個性のある楽しい仲間に出会えたことや、上には上がいる、ということを実感できたことは、自分の幅を広げる上で貴重な体験になったのではないかと思います。

最初から最後まで、息子はできる、と言い続けてくださった柏原先生をはじめ、アントレの指導員の方々には、2年間素晴らしいご指導をいただき、大変感謝しております。誠にありがとうございました。

篠崎湊くんのお母様

●入塾まで

両親が高校受験だったこともあり、中学受験は当初考えていませんでしたが、2年生の時、Eテレ「沼にハマって聞いてみた」で、世田谷学園の生徒さんが難しい公式を使いながら「セタゴラスイッチ」を作っているのを食い入るように見ており、勉強も部活も6年スパンでじっくり落ち着いて取り組める時間があるのはいいなと思ったことから、中学受験を視野に入れました。(私自身、高校受験が終わり入学したら即大学受験に向けて勉強というのを、しんどく感じたのもありました。)

塾を探している中でたまたま見つけたのがアントレで、量より質重視、暗記・詰め込みでなく仕組みの理解に重点を置いているところ、テストで座席が決まったりしないところが、親の求めていたものと一致、本人の性格にも合うと思い、まず3年生の春期講習に参加しました。面白かった！ということで、塾はアントレに決定。3年生の間は季節講習のみ参加、4年生から本科入塾しました。

ごく幼いころから、文字や数字を書くのが好きで、幼稚園の自由帳にも、バス停、駅名、足し算などの計算式ばかり書いていました。本人にとっては遊びの一つだったので、ダイソーの漢字ドリルや計算ドリルを買ってみたところ、楽しいのかどんどん進めて、6年生までの漢字、計算は習得した状態で入塾しました。(理社で思った以上に漢字を使うので、やっておいてよかったと思いました。)

本人の性格は、

- ・新しいものごとに対し、興味が強く、吸収がよい。
- ・人と比較しない、争いが嫌い。
- ・とても慎重、石橋を最後には叩き割るレベル。
- ・勉強面に関しては、話を素直に聞く、教えてもらったことをまずはやってみる。
- ・生活面に関しては、超マイペース、周りに乱されない、息抜きがないと頑張れない。

目の前に興味をひかれるものがあると、勉強も食事も就寝時間もそっちのけで、どっぷりはまっけてしまい、何を言っても聞き入れません。ただ、この時間を取らないとストレスがたまることも分かっていたので注意を控えたこともありましたが、模試前日も読書のしすぎで就寝時間が2時間遅くなるなどということもあり、受験本番まで悩まされ、言い争いも多かった点でした。

●入塾してからと、日々の勉強の進め方

4年生いっぱい続けるつもりでいた体操教室の都合で、算国はBクラス、理社はAクラスでスタートしました。1ヶ月でコロナ禍に突入、体操教室がお休みになり、再開の目処も立たなかったため、このタイミングで退会。アントレが対面を再開してからは、算国もAクラスに移動しました。

当時、東大王を欠かさず視聴していた影響か、開成を志望していました。カッシー先生から、開成を目指すなら、算数の応用演習問題集はB問題まで解けた方がよい、まとめテストは全教科8割以上を目標にしようとのお話がありました。

<算数>

予習は応用Bまで。白板問題を全て母に口頭で説明する形で復習しました。今何を求めているのか、それがなぜ必要なのかを意識するように気を付けました。

授業中にできた問題でも、解法をすっかり忘れてしまうことが時折あったので、まとめテスト前は、白板問題全て、宿プリは間違っただけ、解き直しました。

講習会前も、範囲の白板を解き直しました。

<国語>

入塾当初は、記述に苦手意識が強かったのですが、5年生からの記述クラスで、少しずつコツをつかめるようになりました。復習は、要素を拾う、それを文章化するところを母に口頭で説明する形。間違っていないけれど、回りくどい書き方が多かったので、相手に分かりやすく、スッキリした解答になるように気を付けました。

まとめテスト前には、漢字・知識の小テストを全て解き直しました。

<理科・社会>

授業プリントに、予シりにしか書かれていないことを書き足し、授業プリントのみで見直しが完結するようにしました。(本人が視覚で暗記できるタイプのため、書き足し作業は母担当)まとめテスト前は、小テストを全て解き直しました。

理科の試薬、社会の農産物の産地トップ5、百万都市、政令指定都市、歴史が始まってからは既習の年表を、まとめテストの度に確認しました。

5年後期からの歴史が始まる前に、図書館でマンガ「日本の歴史」を借りて範囲前に読むようにしました。またお友達から教えてもらった、学研「ボカロで覚える中学歴史」が本人にヒットし、重要な歴史用語や人物名をあらかじめ頭に入れた状態で予習ができたのもよかったです。

4年～6年前期まで、まとめテストの判定はA、国語が数回Bでした。

間違った問題は、解法が分からなかったのか、問題の読み間違えか、計算ミスか、原因と一緒に確認し、次に同じ間違えをしないよう見直しをしました。算数は答えは出ていたのに最後の最後で書き間違えるというもったいない失点も何度かありました。(武蔵模試、受験直前期の過去問でも何度かありヒヤヒヤしました。)あまり注意しすぎるとさらに慎重になって解答スピードが落ちるので言い過ぎにはならないように気を付けました。

●志望校について

4年生の間に学校見学や文化祭に行こうと思っていたものの、コロナ禍でオンラインでの実施ばかり、動画では本人が興味を持っていない様子だったので、親だけ視聴しました。

武蔵志望に傾いてきたのが4年生後半ぐらいから、校内散策(途中で機嫌が悪くなり、一時行方不明になった)、5年生になってから何とか取れた説明会、記念祭見学を経て、気持ちが固まりました。本人は、生徒さんが楽しそうか、先生の話が面白い(特に理科)が大きな判断基準だったようで、武蔵に関しては、理科の先生が簡単な実験をしてくれて、ダジャレまで言っていたことが、決定打だったようです。

逆に、小グループでの案内で、あまり好きではない科目の先生が担当だと、どんなにいい話をして下さっていても耳に入らないようで、もう少し聞いてほしいのにとすることもしばしばでした。自宅からの所要時間、学校最寄り駅からの距離も、本人にとっては大事だったようです。(10分でも遠すぎるそうです・・・)

5年後期の時点で、2/1はAM武蔵、PM巣鴨算数選抜(先生方が熱心。校舎がきれい。算数は途中経過を評価してくれる。正解でも経過を書いてないと×にするというスタンスに共感)。2/2は城北(遠いけれど、理科の先生に好印象。校庭が広くてプールがある)。2/3決まらずの状態でカッシー先生と面談。「武蔵、城北はこのペースで行けば大丈夫。2/3は筑駒を目指してみましょう。4科目バランス型なので、可能性はあります。」というお話がありました。難問かつスピード勝負なところもある問題に立ち向かえるのか(慎重肌なので、解答スピードは常にゆっくり目)、仮に入学できたとしても、まわりが優秀すぎてしんどいのではないかなど親として懸念もありましたが、本人は「カッシーがそう言ってくれてるなら、やってみる。」となり、2/3は筑駒に決まりました。

●スケジュール管理

元来せかされるのが嫌いで、息抜き、興味のあることに没頭する時間が必要なタイプですが、5年生の夏休み前まで、勉強に取り組み始めるまでに時間がかかるようになりました。(それまでも、下校後学校の宿題を始めるまでに1時間かかるなどザラでした。) スタートが遅い→to do が終わらない→ゲームができない→怒るのスパイラルに陥り、加えて学校の宿題も、週末に調べもの学習、平日に作文レベルのものが出ることもあり、どれも丁寧に取り組むため、ますます時間が無くなる状態でした。お互いイライラして言い争いも多かったのですが、本人が何にどれくらい時間がかかるのかよく分からないと言ってきたので、見える化が必要と判断し、見開き1Pで一週間、上3分の2にタイムスケジュール、下3分の1にメモ欄がある手帳を百均で購入しました。下部にその日にやるべき課題を母が記入、上部に本人が課題の時間を考えて、学校、アントレ、習い事、ゲーム含めて予定を書き込むようにしたところ、終わらせる時間を考えた行動ができるようになったと思います。終わった課題を消していけるのも楽しかったようです。一週間の間で仕上げるべき課題もメモしておき、ちょっと時間が空いたからやっておこうという姿も見られました。本人も親も手書きですぐ修正できるので、我が家には手帳が向いていました。

●6年前期

朝は6時半までに起床。朝食後、理社の毎日プリントや漢字などをやってから登校しました。火曜日は武蔵算数に参加、手も足も出ない問題、ヒントをもらって何とか解けたという問題も多かったので、完答して花まるをもらえた時はとても嬉しそうでした。翌日、全問母に解説という形で復習。

GWに武蔵の過去問を初めて解きました。得意の算数が40点、理社の記述に苦戦しましたが、本人は「問題が面白い！」と気に病む様子はまるでありませんでした。

1学期半ばから、5年までの理社の毎日プリントを1日10問ずつ解き直し、地歴、苦手の生物を見直す機会を作りました。

模試は、四谷大塚の合不合を4月と7月に受けました。4月は初めての模試なのに、午後はピアノの発表会という強行軍でしたが、アントレでの対策を活かして、4教科偏差値73.0。7月は母が志望校登録を忘れる失態を犯しましたが、4教科偏差値78.8で全国1位という家系初の快挙でした。

7月の生徒面談で、カッシー先生から「武蔵はこのまま行けば合格できる！」「筑駒はスピード感も要求されるため、日頃から意識すること。」というメッセージを頂きました。慎重で、正確さを追求するあまりスピードがなかなか出ないタイプなので、前々から懸念事項でしたが、これが越えるべき壁なのだろうと意識を新たにしました。

●夏期講習

夏期講習は、4コマの授業の復習、理社のコアプラスでの予習、算国の4まとなど、課題が多くハードでした。全科目、日々の見直しはミスした問題にとどめ、単元まとめテストは、毎回答案のコピーを持たせて下さったので、中2日の休み中に見直しをし、知識の定着を図りました。春期講習に続き、夏期講習でも白板の正答率が出されました。歴代の記録を越えたいと頑張り、単元まとめテスト4科総合とともに記録を更新し、本人もとても喜んでいました。算数の白板は2学期に入ってから全問解き直しをしました。

受験の天王山とはいえ、息抜きしないと頑張れないので、お盆でアントレがお休みの間に2泊3日の旅行に行き(GWも行ってます。)気分転換をしました。

その後、最後の第5期前のお休み中に、父が発熱・咽頭痛、翌日のPCR検査で陽性。数時間後に本人と母が発熱、検査キットで陽性。(弟のみ感染せず。)このタイミングでのコロナ感染にショックを受けました。本人がアントレの授業はどうしても受けたいというので、カッシー先生にご連絡したところ、先生も発熱されており、zoom授業に切り替えるとのことで

した。(大事に至らず良かったです。)発熱初日は水分しか取れず、ずっとぐったり寝ている状態だったので心配でしたが、翌日には解熱し、zoom授業も最後まで受けられてほっとしました。(ここで感染したこと、母の副反応が酷かったこともあり、本人はコロナの予防接種を受けないまま受験しました。)

●6年後期

入試演習は武蔵クラスを受講。最後までおおむね上位でした。理社は書いていることは間違っていないけれど、問われていることに的確に答えておらず、失点していることも多く、親では採点しきれないところへの気づきがたくさんありました。

9月中旬に2学期1回目の面談。夏休み最後に取り組んだ筑駒の過去問が、算数は時間が足りず6割に届かず、国語は詩が壊滅的な旨相談しました。算数の時間が間に合わない点については、小さい字でたくさん書けるのも才能ではあるけれど、要所の数字・式のみ書き、ここまで分かっていることを伝えるにとどめること、4まとの小テストを短い時間で解く、武蔵の過去問50分のところを40分で解き切るように(世の中には30分ぐらいで解くお子さんもいるそうです。)、とにかくスピードを上げる、それで間違えた問題は少し苦手と分かるので対策をすること、とのアドバイスでした。また、2/2を本郷(校庭が広い、通いやすい、理科の体験授業が面白かった)に変更したものの、国語の文章量に圧倒され、記号が絞り切れず半分も得点できなかった点をらくだ先生にご相談、記述はリターンが少ないのでサクッと、記号問題に時間をかける。リード文をしっかりと読む、核になる後半をしっかりと読むなど伝授していただきました。

日曜日に過去問を1年ずつ進めるように指示がありました。武蔵については入試演習の国語でやった年度の算理社を翌日曜日に解く。それ以外の日は筑駒を解くというスケジュールを組んだものの、思ったように進みません。模試や説明会があったのもありますが、何より2学期に入ってから朝起きられなくなり、それまで登校前にできていた分が下校後に回されることになったのが大きかったです。10月からさらに悪化し、8時近くによろやく起床、時間が無いのに新聞を悠長に読んだりするので、お説教が日に日に増えました。下校後も朝できなかった分を取り返そうという気配がまるでなく、「(親のために)勉強をやってやってる」というような言動も多く、それでもゲームはしたい、動画は見たいというので、ここでもお説教。「アントレをやめて、ずっとゲームをしてなさい!」と何度言ったか分かりません。親子間がギスギスして大変な時期でした。

2学期の模試はサピックスに絞りました。9/19武蔵オープン、4教科1位、偏差値84.3。9/23筑駒オープン、4教科偏差値64.1でした。筑駒はやはり算数で時間が足りず、思ったように得点し切れず、国語の物語文も背景を読み違えたまま解いており(過去問でもこれが多発、筑駒は行間から読み解かなくてはならない割合がとても高く難しい印象です。)、判定80%とはいえ、不安の残る内容でした。

余談になりますが、筑駒オープン前日に腕時計の電池が切れていました。6月に購入したものでしたが、最初に入っている電池はテスト用のもので持ちが短い場合もあるようなので注意が必要です。受験本番は腕時計を2本持たせました。

10/23はサピックスオープン4教科偏差値63.2、判定は、武蔵80%、筑駒20%。過去問が思ったように進んでいないこと、朝起きれなくなっていること含め、ここで2回目の面談をお願いしました。カッシー先生からは、過去問の出来以前に、取り組めていないことが問題、睡眠時間が長すぎる(10時間弱寝る日もあると申告済み)、朝きちんと起きて、どうしても眠い時は短時間昼寝する方がよい。らくだ先生からは、筑駒国語に難儀している点について、既に解いた過去問を、要素をピックアップできるか見直しをする、または時間が間に合わないタイプの場合は新聞をバンバン解く対策法もありますとのアドバイスで、初見問題で背景を掴めるようになった方がよいと判断し、後者の対策を選択。サピックスオープンで生物の失点が目立った点をプーさん先生にご相談、旺文社「くらべてわかるできる子図鑑」(3/16に

新装版が出るようです。)をおすすめされ、12/4 筑駒オープンまでに、生物・地学を読み切りました。カラーで絵がたくさんあり、比較ポイントも分かりやすくてよかったです。

11月に入り、翌年4月のピアノ発表会の練習がスタート。なかなかの難曲です。過去問がまともに進んでいない状況でしたが、負担にはなっていないから続けたいというのが本人の考えでした。譜読みが早いこともあり、気分転換にはなっていたようです。1月のみ月2回のレッスンにとどめたものの、受験前日まで毎日15分ほど欠かさず練習をしていました。中旬には2回目の生徒面談がありました。武蔵合格の可能性はかなり高いという力強い言葉の一方で、1月は朝6時に起きようと、今言われてる場合ではないコメントも頂きました。下旬に第2回武蔵オープン、4教科5位、偏差値70.4。理科は苦手の生物・地学ばかりの話題だったものの、「できる子図鑑」を集中して読んだのが効いたようでした。一方、算数が解けていたものの転記ミスで8点も失点。第1回武蔵オープンの結果が良過ぎたからなのか、油断や過信が見られ、残り3か月という意識も見られず、もったいない失点については「焦ってしょうがない」と言い出す始末。焦りで何も手につかないよりはマシと思わざるを得ない状況でした。

12/4 第2回筑駒オープン。最後の模試でしたが、初めての平均点割れ、偏差値49.3、判定20%でした。結果を本人に伝えたところ、無かったことにしたいのか、話しかけてもまともな反応が返ってこず、泣いたり、過呼吸のような症状もありました。翌朝には「もう少し頑張ってみる。」との事で、ここで三者面談をお願いしました。本人が「点数がつくとすると、慎重になってスピードを出せない」と言っていたことを事前にお伝えしてありました。4まとテストは毎回ほぼ満点だけど、Sクラスの半数より解き終わるのが遅い。解けるものを最速で解く、余った時間は見直しに充てる、とにかくスピードを上げて、正確性は後から追いつかせるのでよい、解答をもっと簡略化して書く、経過を書くことに時間をかけすぎという指摘でした。

三者面談の後、解答欄に書くべき適量を実感させるため、過去問の解答用紙をB5のままコピー、物理的に少ししか書けない状態にし、数回練習しました。これで肌感覚を掴めたのか、A3の通常サイズに戻しても、以前ほどたくさん書くことは減ったように思います。また筑駒は、算数は大問1つ10分、国語は説明文15分、物語文15分、詩10分で解くペースなのを、本人も頭では理解しているものの、もう少しで(3)が解けそうと思うと、1つの大問に予定より時間を使ってしまい、後の取るべき大問に時間をかけられなくなることがよくあったので、大問1つを10分(国語の読解は15分)で解き切る練習をしました。三者面談で言われた最速で解くにはどのくらいの集中度が必要か分かったように思います。この形で、算数は武蔵と筑駒を、国語は筑駒のみ、3年分ほどやってから、通常のやり方に戻しましたが、時間が足りなかったということはほぼ無くなりました。

●冬期講習

冬休みからは、カッシー先生の言葉通り6時に起きようということで、目覚まし時計を新調し、就寝時間が予定より遅くなったら、その分翌日のゲーム時間を減らす、翌朝6時半までに起きれば減らされたゲーム時間をチャラにするというルールを導入し、何とか6時半までには起きられるようになりました。(この期に及んでゲームを動機づけにせざるを得ない次元の低さ・・・)朝の時間が使えるようになり、冬期講習の日々の見直しをきちんと終わらせてから通塾できました。クリスマスは母側の実家、SASUKEや紅白を視聴、元旦は父側の実家、受験生なのにといいながらも気分転換はやはり欠かせないままでした。

●受験直前期

母の勤務先の調剤薬局にも、年末からコロナやインフルの発熱患者さんが増えていたこともあり、3学期は始業式のみ出席し自主休校にしました。小3弟も休ませた方がよいか悩みましたが、学校・外遊びが大好きで、家にこもらせたら暇!と騒ぐことが想定されたので、8

月の家族3人コロナの時も一人だけ感染しなかった免疫力を信じることにして普通に登校させ、1月最終週と受験本番中の外遊びのみ控えてもらいました。母は1月最後の10日間は仕事を休みました。毎朝みかんを食べ、飲み物は緑茶にし、うがいも緑茶でしました。運動不足解消のため、休憩ごとに1階⇄2階を3往復、1日2〜3回ラジオ体操、テレビを見るときは踏み台昇降運動をしました。1月も半ばまでは、週末半日だけ公園に遊びに行きました。

初戦は1/11 栄東。早々に出願し、駐車場を確保、車で向かいました。朝食の時間がいつもより早く、試験が終わって出てくるのも13時過ぎでお腹がすくだろうと、現地に到着し8時ぐらいにコンビニおにぎりを食べてから会場入りしました(2月受験時も毎日最寄り駅でおにぎりを食べました。なお超やせ型です。)。栄東は理社合わせて50分でどちらから解いてもよい形ですが、カッシー先生に伺い、知識でとれる社会を先にやるようにとのことでした。算数は試験終了前にミスに気付き直したものの、足し算の繰り上がりをしそびれ、結局1ミス。国語は読んだことのある文章だったとのこと、約2600人中53位、東大クラス1年間特待で合格でき、幸先の良いスタートが切れました。

自主休校中は、2学期にやりきれなかった過去問、前期武蔵算数プリントを大問1つずつ区切り10分で解き直し(スピード感維持のため)、筑駒の算数過去問を平成13年度までさかのぼり(22年分消化、8割は安定的にとれるようになりました。)、後期の漢字・知識小テスト、模試・4まとテキストでミスした漢字・知識、理社コアプラス・年表トレーニング・白地図トレーニングでミスした問題、理科は2学期の分野別知識プリントと10分100題知識テスト、社会は小テストの解き直し、時事テキストの再チェックをしました。時事問題に関しては、朝日新聞のニュースドリルというコーナーを前年1月から毎日読むようにしていました。核に関するものが混乱しやすかったので、今までのテキスト・プリントの内容を1枚にまとめて見直しをしました。

母の仕事が休みになってからは、開始時間、休憩時間、飲食してよいものを含め本番通りにして、過去問を解きました。お昼にちょっとよいデザートを用意し、それを目標に頑張っていました。2/1のAM武蔵、PM巣鴨算数選抜も本番通りを想定して2回練習、体力気力とも何とかかなりそうと思えてから巣鴨は出願しました。最終的に取り組んだ過去問は、栄東2年分、武蔵10年分、巣鴨算数選抜4年分、本郷4年分、筑駒は国語13年分、理社10年分でした。その時々を見直しをしっかりと、解き直しはしませんでした。延長戦になった場合は、2/4城北、2/5成城を予定していたので、こちらも本番通り1年分ずつ解きました。また、筑駒の詩が最後の過去問でも壊滅的で、本人は運ゲーだと少々あきらめモードだったので、灘の過去問をアントレでお借りし、5年分ほどを一緒に音読、問題を解く練習をしました。灘の方が分かりやすい詩のため、抵抗感を軽減するにはよかったですと思います。本来もっと早めに取り組むべきでした。

終盤、算数でのケアレスミス、解けているのに答えを書き間違えるというもったいない失点がじりじり増えてきました。言い過ぎるとスピードが落ちるので、5秒とかからないから、答えを書くときは今一度気を付けるようにと伝えました。また、12月中旬から筑駒の過去問ばかりやっていた影響か、1月最初の武蔵入試演習で国語の記述の感覚が鈍くなっていました。すっきりとした記述が必要な筑駒に対し、武蔵はとにかくたくさん書く、という違いがあるため、短期間でも偏りがあるとリスクーなんだなと思いました。

受験10日前ぐらいに、何の話の流れだったか、筑駒は模試の雰囲気は他と全然違う、圧が強くて空気に飲まれそうになる時がある。武蔵の模試の雰囲気は、余裕があるというわけじゃないけど、何だかゆるやかなんだ。というようなことをぼそっと話し出し、とにかく武蔵に行きたいとはっきり口にするようになりました。

平日最後の算数、毎年恒例の全員解けたら終了の最終問題を、ラスト2人まで残ってしまいました。親は不安になったものの、本人はその点より、翌日の入試演習でアントレも最後ということに気にしているようでした。

1/30、31のラスト2日は、武蔵プリントの残り5回分、理社のコアプラスから苦手の生物・地学、公民の見直し、時事カードに目を通す、読書などをして、詰め込み過ぎないようにしました。最後まで受験生だからと特別扱いはせず、ピアノを練習し、毎日の洗濯物たたみもいつも通りやりました。ゲームも動画も、結局禁止しませんでした（禁止したらかえってやる気が出なくなると判断したので）。ただ1/31にも関わらずゲームを30分も延長していたことについては、明日が入試だから叱らないでおこうというわけにもいかず、こっぴどく怒られて、さすがにバツが悪いのか、19時には就寝し、9時間半睡眠を確保していました。

●受験本番

2/1、5:10起床、朝ご飯をしっかりと食べ、時間に余裕があったので父とオセロをしてから出発。江古田駅でおにぎりを食べ、zoom応援を受け、会場入りしました。模試に行く時とあまり変わらず、緊張しているようには見えませんでした。感染症にかからず、寝坊することなく受験できたことに、感謝の気持ちが自然にうまれました。算数は全て埋められた、国語はサピックスの武蔵模試と同じ文章だったからできた方だと思う。と元気に出てきました。それはできている受験生ばかりなのではないかという本音を飲み込み、「それはよかったね!」と気分よく午後受験に向かいました。

巣鴨は、前年度から急に分量が多くなり難しくなった印象でしたが、ひとまず全部埋められたと出てきました。受験番号順の退室で、連戦なのを考えると、もう少し早めに出願しておけばよかったと思いました。

ゲームしたさに、普段ではあり得ないぐらいの早歩きで帰宅し、早速ゲーム。息抜きも必要、ただし節度を持ってというスタンスで今まで来ていましたが、受験真っ只中にも関わらずたまたま30分延長し、全く悪びれもしない姿に、こちらの張り詰めていた糸がぷつと切れ、激しい言い争いになりました。ヘソを曲げて歯磨きもしない、お風呂にもなかなか入らない、大量に鼻血が出るなど、もう明日は終わったなという有り様で、就寝が予定より1時間半遅くなりました。やっと寝たところで巣鴨の発表を確認。無事合格しており、この状況下での合格に心底ほっとしました。

2/2、7時間半睡眠で起床。眠そうだったので各駅停車で座り仮眠をとって会場入りしました。試験終了後、浮かない顔をして出てきました。4年分やった過去問より量が多くて、難しかった。算数は1問分からず飛ばして時間切れ、休み時間にやったら解けた。国語で漢字を書き間違えた。理科は直前にやった血液の問題が出た。武蔵より自信がないとのことでした。母の不安はきっと本人に悟られていたと思います。お昼ご飯を食べてから帰ろうとしたものの、山手線が人身事故で止まっており、お店はどこも満席かつ行列ができていました。この日に限っていつも用意していたランチパック（手を汚さず食べられるので何かと便利です。）を持っておらず、休憩時のおやつでしのぎながらひばりが丘まで帰りましたが、到着する頃には二人揃ってふらふらになってしまい、早く炭水化物を摂らせるべきだったと反省しました。19時の合格発表、本人はもう結果は変えられないからと覚悟を決めて落ち着いていましたが、親の方が不安と緊張で足が地につかないような状態でした。無事、番号があることを何度も確認し、前日以上にほっとしたと同時に、前日の言い争い、自信のない科目があったことを引きずらない肝の据わりっぷりに感心しました。（聞き流していただけかもしれませんが。）この日もゲームはしたものの、ほぼ規定の時間で終わらせ、20:30就寝。（本郷では、机のがたつき防止の段ボール片を学校が用意してくれていたそうです。）

2/3、9時間睡眠で起床。弟も3日間タイムリーに起きて、送り出してくれました。最後のzoom応援をしていただきました。最初のうちはなかなか合格最低点に届かなかったものの、腐らず頑張って、なんとか越えられるかというところまで来たので、今持っている力を全部ぶつけてきてほしいという気持ちで送り出しました。国語は全部埋めた。算数は分からない問題もあったけど、感触は悪くない。理科はテコが難しくて飛ばした（予定通り）。社会は時間に余裕があったけど、雄山がある島の名前が分からなかった（前日2/2の新聞に大々的な特集

記事がありましたが、見ていなかった。)とのことでしたが、全部出し切れたようでした。駒場東大前の駅まで戻り、9:00に発表されていた武蔵の結果を確認、無事合格。心から嬉しそうな顔、うきうきの声でアントレに電話をしました。

2/5、15時から筑駒の発表でした。武蔵に合格でき、本人は既に武蔵に行く気満々になっていましたが、あれだけ頑張ったのだから筑駒にも合格したいという気持ちはやはり強かったようです。父、弟と公園に遊びに出掛けて、15時になっても帰ってこないの、こちらはぜひぶんやきもきしましたが、発表開始から30分後ぐらいに、家族全員で合格と確認できました。算・理・社は形になっていたものの、国語が相当足を引っ張るから厳しいだろうなあと感じていましたが、最大の課題だったスピード感が身につけられたことが大きかったのではないかなと思います。また、先述したように本人は筑駒模試で感じる圧があまり得意ではなさそうだったのですが、お日柄を選んで出願したため受験番号は後ろの方で、そこまでプレッシャーを感じ過ぎることなく済んだのかもしれない。早速アントレにお電話、カッシー先生に進学先はどうするのか聞かれ、武蔵と即答していました。親としては、やはり迷いが全くなかったわけではありません。武蔵のどういうところが好きなのかや、世の中には偏差値だけを物差しにしている人も一定数いて、そういう人達から何か言われたとしても全く揺らがないぐらい武蔵に行きたいのかを改めて確認しました。本人は迷うことが全くなく、武蔵への入学の意思はとて固かったです。直観や空気が合うかどうかは、本人にしか分からない部分でもあり、自分で選んだのなら、困難なことがあったとしても乗り越えられるだろうと思ひ、筑駒を辞退し、武蔵への進学を最終的に決めました。

武蔵に合格できたのも、筑駒に向き合ってきたからだと思っています。6年の夏休みで合格圏に入れると油断が出てしまうことがあるとカッシー先生から伺っていましたが、筑駒の難問に挑戦し続けたことが気を引き締め、解答スピードを上げるよい練習になったと思っています。

アントレには3年間、修学旅行以外は休むことなく通いました。授業開始30分前着を目標に出掛け、帰りもおしゃべりしていてなかなか出てこないぐらい、アントレも先生方もお友達も大好きでした。楽しく勉強でき、中学受験を乗り切れたことに感謝をしております。本当にありがとうございました。アントレを選んでよかったです！

図師田隼人くんのお母様

【入試結果】

1月12日	城北埼玉	→	特待合格
1月25日	立教新座	→	合格
2月1日AM	武蔵	→	繰り上げ合格
2月1日PM	巣鴨(算数選抜)	→	合格
2月2日	城北	→	不合格
2月4日	城北	→	合格

【入塾時期】

新5年 春期講習

【所属クラス】

C(新5年体験) ⇒ B(新5年春期講習) ⇒ A(5年4月中旬) ⇒ S(5年10月~)

※理社国はS⇔A往復あり

【入塾のきっかけ】

- ・小学校の友達からアントレの話聞き、本人が興味を抱いた
- ・3月上旬の体験時、Cクラスのチーム戦が楽しく、入塾したいと本人が熱望
- ・アントレの評判は昔から耳にしており、カッシーのブログも愛読していた。ひばり在住の友人、体験した上級生、学研の先生。更には、かかりつけの医師までも「もう4年生か。塾は？アントレがおすすめだよ！」(清瀬市内のとある耳鼻科。気になる方はカッシーにお尋ねください 笑)

【入塾まで】

公文(3歳~) ⇒ 学研(5歳~) ⇒ 公文(小2~小4春) ⇒ Z会中受コース(小4春~夏) ⇒ 明○義塾(小4夏~冬)

- ・文字への興味が早かったので3歳から公文教室Aに通うも、足し算の頃は泣いて嫌がった
- ・小学校の先取りメインで学研教室に転向。保育園児のため、丁寧に書きを教えてもらい助かった
- ・本人の希望で友達が多く通う公文教室B。最終進度は国語2.5学年先、算数は1.5学年程度？飽きっぽく、スピード速く量をこなせるタイプではない⇒退会。
- ・コロナ休校中に暇を持て余して始めたZ会はタブレット利用のため視力低下、隠れてYouTube鑑賞⇒退会
- ・親は中受意識していたが、本人は公立中志望。方向性に悩む。
- ・感染不安、少年野球との両立も考え、自宅近くの個別塾へ。新演習シリーズの算国のみ。「同じ問題ばかり繰り返す」「応用問題をやらせてくれない」と愚痴をもらす。とはいえ、ここで分数の割り算を習得できたので本人曰く「通う価値はあった」らしい。
- ・「もっとおもしろい問題に挑戦したい」と前向き？な訴えがあり、知的好奇心を満たしてくれる新たな塾を探し始める。算数教室や高校受験塾を探すも難航。そんなとき、立体図形の話をしてきたクラスの友達に息子は食いついた。アントレは中学受験塾だと念押ししたが、「受験はしないけど、体験してみたい！！」
- ・入塾時、本人に受験意思はないこと、親としても無理をさせたくないことをプーサンに伝えた。興味校としてこのときは偏差値30台の学校の名を挙げていた。

・アントレ入塾に備えて、平方数・立法数・3.14の段を語呂合わせで暗記した（参考：安浪京子先生）

【5年前期】

- ・未受講の単元も多くハードなスタートだったが知識が増えていくのが楽しそうだった。
- ・フンチャンからAクラスを命じられ喜ぶ。突然の曜日変更に関は驚きを隠せずフンチャンに電話。比の理解が早いので褒めていただいた記憶がある。
- ・朝のルーチンワークは計算シリーズ。全〇になってから朝食。入試前日まで続いた。
- ・土日は少年野球のため予習の時間を取れず。算数は白板ノート直しと宿題プリント、予習はシリーズの例題のみ。国語は漢字知識対策のみ。理社はざっと読んで要点チェックはボロボロのまま提出。確認テスト結果も散々だった。
- ・まとめテスト週だけは、出来る限り野球を半日休んで対策。算数は、白板を2連勝できるまで解き直し。理社は、授業プリントを読み込んでから演習問題と確認テストの解き直し。国語については、漢字テストの解き直し程度でした（後で後悔することに・・・）。
- ・アントレ生活に慣れてダラけてくる。「やるべきことが終わるまでゲーム禁止！」としていたら、ゲームをトイレに持ち込む、机の引き出しに隠してゴソゴソ・・・。「やる気ないならアントレ辞めるよ！」とバトル勃発。タケノコに相談。「小学5年生なんてそんなものですよ。大目にみてあげてください。」さすがです。
- ・テスト上位で名前が載るようになると「受験、挑戦してみても良いかも」と本人の意識が変わってくる。

【5年後期】

- ・「後期1回目のまとめテストが良ければSクラス」と嬉しい提案をいただき、念願叶ってSクラスに。念のため理社国はAクラス残留。
- ・想像以上にSの壁は高く、白板正答率は2-3割、復習も意味不明、宿題プリントにもかなり時間がかかる。みんな天才だらけでヤバイ、と本人も凹む。A時代のサイクルがうまく回らない日々。
- ・カッシーに相談。途中から入って2割取れてれば充分ですよ。と励ましていただくが、予習が少なすぎる現状に驚かれる。Sクラスの予習の仕方、解けないときの対応等を今一度教えていただく。
- ・少年野球を半日休み、算数の予習徹底を最優先する日々が始まった。相変わらず理社国はほぼ手つかず。
- ・理社の難易度も上がり、まとめテストも直前対策だけでは点が取れず荒れる日が増える。Aに戻った方がいいのかと思悩む。困ったら即カッシー相談。「理社は6年後期からでも間に合いますから大丈夫です」。
- ・「まとめテスト平均以下でswitch没収」の実行が増える。ipadのゲームは最後まで続いた。

【6年上期】

- ・野球も最高学年になり、両立が更に厳しくなる。半日だけ、試合だけに顔を出すことが増える。
- ・実力応用事例集の難易度が高く、解説読んでも分からない。でも質問に行かず、苦手克服もできず辛い時期。
- ・時間の余裕がなく、「武蔵算数」は4月から参加。ついていけるか心配していたが、意外と〇がある。しかし理社国の対策時間が更に減り危険な点数に。本当に続けて良いのかまたカッシーに相談。「今は算数を鍛える時期です」の言葉を信じて続ける。
- ・隙間時間に親子で理社の知識確認をするようになる。テンションを上げるために、〇×ブザー（参考：TV「有吉の壁」、ダイソー）や効果音アプリ（ジャジャジャン！等）を採用。

- ・コアプラス、白地図、年表の暗記に拒否反応を起こし、手つかずのページも多いまま。
- ・国語の知識問題ではいつも珍解答続出。腹を抱えて親子で大笑いした。
- ・蟬の鳴き声や植物は、5歳の娘の方が詳しい。幼稚園の雑誌はあなどれない。
- ・夏期講習の最終日、ひばりが丘からそのまま秩父に向かい野球合宿に参加！良い息抜きになった様子。

【6年後期】

- ・入試演習コースは武蔵を選択。難しかったらコース変更可能と伝えたが断固として拒否。
- ・弱点補強のため木曜日に個別スタート。算数の過去問の解き直し中心だが、手法のヒントはもちろん、「これだけ取れていれば大丈夫」「これは捨ててOK」と安心感も与えてくれる長澤先生には親子で救われた。
- ・野球との両立は不可能になり、ほぼ毎週休むことになる。チームに受験仲間がいてくれて心強かった。
- ・合判の結果がどんどん悪化し、苦しい時期。国語がとにかく取れない、算数はケアレスミス続出、理社は全体的に知識不足。本人も自信を失う。武蔵は常に20%キープ、城北は80→30%まで落ち込んだ。
- ・学校別サピックスオープンでは、算数の偏差値は60超えても国語が壊滅的で、4科50前半。
- ・対策①知識不足なのに相変わらず理社コアプラスを全くやろうとしない我が子。せめてアントレの確認テストだけはしっかり覚えこむようにした。間違えた問題は直前期までひたすら繰り返した。
- ・対策②合判、プリント、過去問で不正解の問題や分からない知識をルーズリーフ式の単語帳（B7サイズがおすすめ）に書き留めることを始めた。遅いスタートで間に合うか不安だったが、正解したら紙を抜いていくため、達成感がありモチベーションが上がった様子。演習量が増えるほど、ぶ厚い単語帳になるが、記入しながら暗記も出来るため効果的だった。時間不足のときは私も記入を手伝った。
- ・1月になり、生き甲斐だったゲーム（プロスピ）を「僕はやらないからママかパパがやっておいて。」と言われ耳を疑った。しかし、結局親の横にピッタリくっついて下手だの文句を言ってきてバトルになる。早起きしたらゲーム20分OKというルールにして最後まで続けていた。
- ・コロナ感染予防のため小学校は1月から欠席、卒業アルバム撮影日のみ出席した。

【志望校選び】

条件：自宅最寄の清瀬駅から1時間以内、グラウンドが広い、出来ればプール有

<武蔵>

5年夏、「とりあえず沿線で一番人気の学校を見てみよう！」と興味本位で自由散策会に参加。

暑くて駄々をこねる当時4歳の妹を抱っこしていたら杉山校長が優しく話しかけてくれたこと、贅沢すぎる自然環境、ヤギのかわいさに惹かれ、憧れの存在に。Sクラスに上がってから説明会に3回参加、カッシーからもおすすめされてチャレンジ校として志望することに。（不安で何回も相談しました）

<城北>

周りの評判も良く、本人も「雰囲気が好き」、小竹向原からの徒歩も意外と大丈夫。指示待ちタイプの息子には面倒見の良さも最高。説明会や合判時の対応も好感度高く、文化祭で先生自身が楽しんでいるバンドを観たとき、充実した6年間をイメージできた。親子でお

気に入りの、揺るぎない本命校。

<立教新座>

市民としては挑戦してみたい存在。ただ、庶民な我が家には設備が豪華すぎるのか、文化祭の印象も本人は今ひとつ。しかし、直前期の12月に招待された市内の少年野球チーム向けの合同練習が楽しかったようで志望度がぐっと上がり、絶対受かりたい学校の1つになった。第3志望。

<城北埼玉>

温かみのある説明会、先生方も好印象。面倒見が良く安心して任せられる。試験会場も選べるのが良い。一方、本人は本川越からのバスで酔い気味。今年から点数開示がなくなり残念。

<早稲田高等学院中学>

予約無で見学可。アントレ入塾後1発目に訪問した学校というのもあり、大隈重信の銅像、並木道、洗練された校舎、楽しそうな野球部員、突如現れた虹色トカゲ、心を驚掴みにされた私たち。見学2回、説明会1回参加。プール無が唯一残念。2月1日のチャレンジ校を武蔵とどちらにするかギリギリまで悩み、最後はカッシーからの「早高院は他塾併用も要検討。対策しやすいのは武蔵です」が決め手となった。

その他、早稲田中学の見学会、本郷中学の説明会、成城中学の文化祭（ウォーターボーイズ最高！）に参加。

夏休み中のリフレッシュ兼ねて新宿ぶらり散歩「成城→早稲田→早大キャンパス→（寿司食べ放題）→海城」の敷地めぐりをしたのも良い思い出です。このとき都心は人が多くて苦手かも・・・と思ったようです。

【志望校対策】

- ・チャレンジ校の武蔵より、絶対落とせない併願校対策の方が親は悩み、特に理社国に苦しんだ。
- ・過去問での知識問題の失点は、宝の山。解説やテキスト等を確認しながら前述の単語帳にまとめる。
- ・克服すべき単元が見つかったら全併願校の「出題分野分析表」で確認し、複数校の問題を解いてみる。
- ・ケアレスミス、捨て問、知識不足などを区分けして、取れそうな問題のみ一気に1月に解き直した。
- ・知識の積み重ねにより併願校の点数は徐々に上昇していった。

<城北>

過去問8年分。4科合格最低点超は4年。算数はほぼ毎回超えていたが、理社国で苦しんだ。

<立教新座>

過去問6年分。4科合格最低点超は5年。散々な点数なのだが、平均点も低いため意外と最低点は超える。

<武蔵>

入試演習結果：合格8回 補欠2回 不合格5回

過去問11年分。4科合格最低点超は3年。算数の最低点超えは5年分。※理科のお土産

問題無

算数の解き直しは満点回答が作れるまで解き直し、一人で難しければ個別授業で対応。国語は、6年秋の生徒面談でカッシーより記述量の少なさを指摘され、とにかくたくさん書くこと、解答に近い再現ができるようしっかり解き直しすることに注力した。理社は解答を読み込んで不足点を確認、知らない知識を単語帳にまとめる程度だった。過去問より入試演習の内容を重視したため、理社の過去問の解き直しに手を付けたのは、なんと前日午後！！知識確認を中心に行い意外と解けるようになって安心した。

過去問以外での対策は、白板、そして秋以降はカッシープリントを解きまくる！！武蔵対策プリントで間違えた問題はコピーして正解するまで解き直し。武蔵算数プリントは15分で区切ってひたすら解きまくっていたら、満点が増え自信につながった。城北と立教新座の対策にもつながり、「算数仕上がってきた感」が出てきたのは1月22日を過ぎた頃。

【出願～入試】

- ・1月12日の城北埼玉は所沢会場を選択。模試感覚で受験できた様子。定番の栄東中については、遠方かつ仕上がり不足のため出願せず。
- ・1月25日の立教新座が恐らく実力のピーク。本番は過去問より知識問題が少なく手ごたえがあった様子。
- ・「立教新座が○の場合、2月1日午後に巣鴨（算数選抜）、2月3日に早稲田中を受けたい」と勇氣ある発言。早稲田中については、早高院を諦めた経緯もあり出願。巣鴨は想定外のためアントレに相談。「彼は算数が飛びぬけてできる方ではないので厳しい戦いになると思う。通える学校は1つなので翌日の城北に備えた方がいい。」とタケノコ談（カッシー不在）。諦めつかない本人に対して「過去問で合格点超えたら出願OK」という条件を出し、急遽アントレで借りて挑戦。結果、~~〆~~期限2日前に出願した。
- ・2月1日は6時34分に家を出発。緊張の様子はない。「社会が難しくてあまり書けなかった。算数も自信ない。国語はSOと同じだったので過去問よりは出来た。合否は微妙な感じ」自信はないものの、本人に悔いはない様子だったので親としては一安心。無事チャレンジできたことだけでも感謝。
- ・初めて訪問した午後の巣鴨は上出来だった様子。体力も問題なし。プレッシャー無く楽しめた様子。
- ・2月2日の城北は、手応えあり、「算数100点かも？」の自信。しかし、まさかの残念な結果！先日のタケノコの言葉が頭をよぎる。3日は早稲田を受験せず、城北対策に集中することにした。後から聞くと理科は苦手単元しか出なかったとのこと。相性の悪さは仕方ない。
- ・2月3日武蔵合格発表日。期待せず確認。まさかのピンク色！！ん？？補員！？？7位？カッシー曰く合格との点差は1点で補員順位は微妙。不合格ではない安堵感と悔しさ。入試演習結果の正確性に驚愕。でもこれはきっと「あと少しで手が届くのだから今はしっかり城北対策しなさい」と神様のお告げだねと励ます。実際、立教新座合格から本人は気が抜けてダラける時間も増えていた。
- ・城北3回目の過去問は手元にないため、カッシーからデータで頂戴し答案を持ってアントレに向かった。カッシーに質問、プーサンから苦手単元の補強問題をもらうことができ精神的にも落ち着いていた。
- ・2月4日、ついに最後の試験。力を出し切っておいでと見送った。高倍率のため期待しないようにしていたが合格の桜に感涙した。本人もヨッシャー！！との最高の喜び。悔しさを乗り越えて掴んだ合格。かけがえのない経験になったに違いない。武蔵からの連絡を待ちつつ城北の入学手続きを行う。
- ・2月8日、ついに繰り上げ合格の電話が！！動揺した私は即答できず、折り返す旨を伝え、慌てた私は、またアントレに電話！！「どうしましょう？電話きました！！本当に

武蔵に決めて良いのでしょうか??」と驚きと不安をカッシーとプーサンに吐き出す。カッシーからの「落ち着いてください笑 大丈夫ですよ。彼は最後までく伸びましたし、武蔵でやっていける能力は充分ありますよ」という激励のおかげで落ち着いて手続きを進めることができた。最後までお騒がせの我が家です。そして隼人、おめでとう！

【最後に】

こう振り返ると、私はアントレに電話しすぎであることに気づかされます。私の中では、塾の先生というより育児相談室とも呼べる存在でした。最初は「ゆる受験」にしようとスタートするも、問題が解けずに泣き苦しむ我が子を見て悩んだ日々もありました。マイペースで、闘争心もない我が子とどう受験を楽しむかを常に考えるようにしました。家族で公式や裸子植物・星座を歌や絵にして笑い合ったのは良い思い出です。

父親が出来たのは、一緒に問題を解くこと（6年前半で挫折）、息抜きのキャッチボール、授業終了時刻まで残業して一緒に帰宅すること。母親は応援や声かけ、お弁当作り、勉強中の差し入れ、プリント整理、アントレ連携と、邪魔する妹の対応くらいです。本人のやる気スイッチ探しも難航し結局いつ入ったのか分からず。

ただ、確実に言えることは、カッシーから与えられた課題と言葉を信じてやっていたら本当に伸びた！！ということです。いつも不安な私に、「入試当日にピークがくればいいですよ」の言葉。そんなにうまくいくはずない！と疑心暗鬼でしたが、本当にその通りになり驚いています。タケノコにも「アントレ入るときも不安でしたよね？でも今どうです？お母さまの想像を超えて本人は頑張っていますよね？」と言われたこともありました。テストの点数だけで決めずに一人ひとりの素質を見てくださるアントレだからこそ満足いく結果を残すことができました。大変感謝しております。

アントレには優秀なお子様がたくさん在籍されていますが、我が子のようなタイプもおりますので、これからの受験生も勇気を出してアントレの先生方をたくさん頼って欲しいと思います。（偉そうにすみません）

また、一緒に通ってくれた小学校のお友達、そして普段無口の我が子を受け入れてくれたクラスメイトのみなさん。過酷なはずの中学受験を最後まで走り抜けられたのは皆さんのおかげです。そして、同じ中学校に進学する予定のお友達、今後ともどうぞよろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

平歩実さんのお父様

【受験の動機】

アントレには、3年生の10月に練馬教室に入塾しました。

2歳年上の兄もアントレで、興味を持つ面白く丁寧な授業をしていただいておりますので、娘は迷わず最初から入塾しました。

娘は、感情豊かで穏やかな性格ですが、納得のいかないことは頑として譲らぬ頑固なところもありました。本と植物が好きで趣味は苔集め、受験勉強中にも月一の盆栽教室に通っていました。

個性と自由を尊重する環境で、刺激を受けながら知性を伸ばしてもらいたいと願い、中学受験を志しました。

【勉強の経過】

4年生・5年生の間は、白板問題や予習シリーズを中心に、毎週、全教科一つ一つを丁寧に理解していくことに集中しました。

国語が当初から得意科目でした。兄のときは、苦手な国語の理解力を上げることの難しさを思い知りましたので、国語が得意であるということは受験の上で大きな力になると思われました。

6年生となると、一通り全範囲の学習を終え、知識のブラッシュアップに入り、土曜日のひばりが丘教室での入試演習や個別指導の受講を始めました。

個別指導では、疑問点を丁寧に教えていただけることもさることながら、娘が、先生が素敵と言ってその出身校に憧れてヤル気を出していたメリットも大きかったと思います。また、同じAクラスと入試演習には、同じ小学校からアントレに通うお友達がいて良い意味でライバルとなっていたのが非常に効果的だったように思います。

私も、塾帰りのお迎えのため地下鉄駅出口で娘たちの帰りを待つ間、お友達のお父様とお話しするのが楽しみでした。

【受験校の試行錯誤と選定】

受験校は、最初、自然が多い学校という希望で、学習院女子などが候補にあがりましたが、試行錯誤して徐々に変化していきました。女子学院などにも興味は持ちましたが大手塾の模擬試験を受けてみると、同校を志す受験生たちの桁違いの熱気や試験の難易度から、自分には合わないと思ったようで候補外となりました。

その後、個別指導の先生のご出身校として吉祥女子に興味を持ち、学園祭や学校説明会に参加して感銘を受けて本命に決定。

また、自然豊かで広々とした公立中高一貫校の都立大泉も本命候補となりました。親としても、施設・カリキュラムが充実しているながら学費がリーズナブルな公立中高一貫校は、3人兄妹真ん中の娘の進学先として大変魅力的でした。作文重視の適性検査に合格するような、読書好きや作文が得意な男女共学の同級生と一緒に学べる環境は好ましく思われました。

コロナで不自由なことも多かった中、母親が可能な限り学園祭や学校説明会を申し込み、本人も参加し、受験する学校を選んでいきました。

【私立校と公立中高一貫校の併願と「受検」勉強について】

公立中高一貫校の適性検査は、400字以上の作文のある適性検査Ⅰを始め、その場で算数的、社会的、理科的な思考を駆使する適性検査Ⅱ・適性検査Ⅲがありますが、私立校の「受験」とは全く異なる「受検」とされおり、両方を本命にすることは虻蜂取らずとなるリスクもあったと思います。

本当は熟慮すべきだったのかもしれませんが、小学校の成績もまあまあだし本も作文

も好きだよ、といった軽い気持ちでチャレンジを決めてしまいました。

5年生の夏休みには大手塾の公立中高一貫校の講座にも行ってみました。娘との相性が悪く、結局、親子での過去問を中心とした試験対策と、分からないところをアントレの個別指導で聞くという方法に落ち着きました。

【夏休み】

夏休みには、夏期講習を受講しながら、満を持して吉祥女子や都立大泉の過去問に取り掛かりました。

①各年度毎に4科目を解いてみる他、②横断的に同じ頻出分野の問題をまとめて解いてみたりしました。

しかし、最初のうちは、問題が難しく過去問の合格点からは程遠い状況でした。

【合不合格判定テスト】

第1回目から第5回目は、鳴かず飛ばず。

吉祥女子の合格確率20%で、厳しいかなと思っていました。

しかし、6年生の年末には急速に理解力が上がってきた様子で、12月の第6回目で一気に100点以上点数が上昇し吉祥女子の合格確率60%が出たので、かろうじて希望をつなぎました。

とても余裕がある状態ではなかったのですが、今現在も成長中と判断し難関校をチャレンジする覚悟を固めました。

【受験本番】

年明け。1月の埼玉受験校として浮上した浦和明の星の過去問に手を出し、本命3校の過去問を並行して回し、本番に突入しました。

結果は以下のとおりでした。

(1月受験)	1/10	細田学園	○
	1/14	浦和明の星(1回目)	×
(2月受験)	2/1	吉祥女子	×
	2/2	富士見	○
	2/3	午前 都立大泉	○
	2/3	午後 共立	○
	2/4	浦和明の星(2回目)	×

受験開始以降は、親子ともどもジェットコースターに乗っているようなものでした。

娘は、1/14の浦和明の星と2/1に一番の本命の吉祥女子に連続して不合格で激しく落ち込み、翌2/2の朝「起きたくない」とも言い出しましたが、それでも「今日一日だけガンバル!」と自分で気を取り直し次の試験に向かいました。不合格にショックを受けても崩れ切らずに精神を立て直す姿を見て、親として娘の成長に喜びを感じました。

最終的に合格をいただいた2/3の都立大泉は、できた感触が一番なかった学校で、試験終了後に試験場から出てきたときは「できなかった・・・」と青い顔をしていたのを思い出します。

それでも、ギリギリで本命候補から合格をいただけたのは、小さいころから本が好きでいつも読んでいた娘の底力と、絶えず勉強に興味を持たせて思考力を成長させ、励ましてくださったアントレのおかげだったと思います。

アントレの先生方には本当に感謝しております。

辻勇人くんのお母様

アントレには4年生2月から入塾。

6つ上の姉やいとこ達が中学受験をしていたので受験は身近にありましたが、まだまだ幼かったのやっつけていけるのかと迷いました。

でも、息子の性格上、高校受験より中学受験をやるのがいいと考え中学受験を決めました。

[入塾]

本人は、姉と同じ都立一貫校を第一志望にしましたが、親としては私立向きだろうと、私立対応の塾探し。

体験授業が楽しかったこと、また、アントレの考え方にとても共感したので、アントレを信じお世話になることに決めました。

[勉強・生活]

本人は勉強は特別好きではなく、面倒くさい、やりたくないと反抗期も重なり、思うように進みませんでした。

面倒くさいから、雑で字も汚く、計算ミスは当たり前だから気にしない、分からない問題にぶち当たると、そこで思考ストップと、何とも頭が痛いことばかり…

サッカーを習っていて、受験とサッカーを両立したいという思いもあり、週末はサッカーという生活(息抜きのためでもありました)を6年の夏まで続け、その後受験が終わるまで休会しました。

[個別]

6年4月から算数だけ

理解が深まり白板問題の○が増え、本人もヤル気になりました。

後半は、久我山対策をお願いしました。

[志望校選び]

- ・サッカー部がある(強ければ尚良し)
- ・グラウンドが広い
- ・なるべく共学
- ・大学進学率
- ・通学1時間以内

という内容で探しました。

フンちゃんとの面談で「久我山は礼儀正しいし、合ってると思いますよ」と言われ、久我山が浮上!

それから文化祭に行き、高校サッカーで活躍しているのを見て、本人も乗り気になり第一志望を久我山、第二志望を日大第二としました。

「二兎を追う者一兎をも得ず」になってはいけないと、都立に対しては対策する余裕がありませんでした。

過去問を一回やらせたところ、記述が全く書けず自分でも無理だと思ったようで、やめることにしました。

[受験結果]

- 1/10 城北埼玉 合格
初日の過去問が難しく結果が出るまでヒヤヒヤ。怖くて仕方なかったです。ここで合格もらったので、本当にホッとしました。東京受験で連チャンになる練習のため、翌日は城西川越を受験。
- 1/11 AM 城西川越 一般 合格
PM 城西川越 選抜 合格
特別選抜での合格に本人大喜び
- 2/1 AM 國學院久我山 不合格
勝負の日！ 祈る思いでした。
手応えはあったようでしたが不合格。
PM 國學院久我山 ST 不合格
ツワモノ達に来るから、難しいのは分かっていたいますが、久我山絶対合格！を目指し本人の強い希望で受験しましたが残念。
- 2/2 AM 國學院久我山 不合格
国算は出来たようでしたが、理社が難しかった。
PM 日大豊山 合格
倍率が高く、ここもすごく怖かったです。
3連敗でやっともらえた合格に母涙…
- 2/3 AM 日大第二 合格
PM 國學院久我山 ST 不合格
4回目の久我山！ しかし残念。

2/5 最後の久我山がありましたが、4回受けたことで納得し、息子の受験は終了しました。

[親の関わり]

- ・スケジュールを作成し見える化を図る。
 - ・ファイリングやコピー、モチベーションUPのためのケア。
- コピー機を買い替え、姉の大学受験も含めると 1000 枚以上コピーしたと思います。
- ・過去問対策として、四谷大塚 HP から同レベルの学校約 10 校の過去問をダウンロードして、その中から適正なものを選定し、それを徹底してやらせました。

[振り返り]

なかなかスイッチが入らず、悪い癖もなおらず、母は焦り、悪態つかれて言い合いもしました。

何度もやめようか、どうすればいいのかと悩み、フンちゃんに愚痴といますか、悩み相談をさせてもらいながら乗り切ったように思います。

少しずつではありましたが、意識が変わっていき、最後の最後、受験を重ねることで更に成長していったように思います。

第一志望には届きませんでした、そこに至るまで、本人なりに本当に良く頑張ったと思います。

アントレの先生方、個別の先生方、そして、一緒に切磋琢磨して学んだ元気で面白いお友達、本当にありがとうございました。

遠間理央さんのお母様

3つ上の姉から6年にわたりアントレでお世話になりました。ついに2度目の体験記を書く時が来たのだと、私自身にとっても一つの大きな区切りを迎えました。姉妹の受験を振り返り少しでも今後受験される方の参考になれば幸いです。

【アントレの授業】

娘はBクラスで頑張りました。姉の受験で一通りの流れは分かっていたので予習や復習のフォローはやりやすかったです。算数については白板の復習の際にノートに○×の記録をつけておき、まとめテストの前には×の問題を優先的に復習するようにしました。ひとつやっておけばよかったと思うことは理科と社会のプリントの解答をメモ用紙等で問題と一緒に保管しておけばよかったことです。6年になっても単元テストの対策として4, 5年生の時の授業プリントや小テスト、季節講習のプリントを復習するようにしていましたが、答えをノートにしか書いてないこともあり、そうすると過去のノートからそれを探すのは難しく、答えの分からないプリントでは復習になりません。特に季節講習のプリントでその傾向が高く、失敗したなあと悔やみました。理社については単元ごとに束ねてプリントと答えを一緒に保管しておくとして弱点克服の勉強の際に役立つと思います。

個別授業は6年からお世話になりました。なかなか職員室に行き質問が出来ないようだったので毎週気軽に質問できる先生がいるというだけで本人には大きな安心感があったようです。

【学校探し】

姉の受験の際にも色々な学校に見学に行きましたが、今回もいくつも説明会やオープンキャンパスに参加しました。コロナ禍のため4, 5年生の比較的時間のある時に文化祭に行くことが出来なかったことは非常に残念です。やはり子供にとっては説明会よりも実際に生徒の姿が見られる文化祭の方がイメージがしやすいのではないかと思います。

本人は女子校を希望、親としては自分の将来の選択肢を広げるために附属ではなく大学受験を学校全体で目指す学校に進んでほしいと考えていました。ただ、毎日通うので出来るだけ近い方がいいことはすでに姉で実感済み。そこで乗り換えは1回までと決めました。女子校は女性として社会にどう貢献していくか、そんな教育が連綿と受け継がれている学校が多くそこに大きな魅力を感じました。学校説明会は出来るだけ多く足を運んだほうが良いと思います。魅力を感じる学校がある一方で、先生の説明に共感できなかつたり、違和感を感じることもあると思います。子供もこの学校はイマイチと思うこともあるようなので実際に足を運ぶことはとても大切だと思います。我が家は姉の通う富士見中学校と、知り合いのお子さんが通っていることがきっかけで見学に行った十文字中学が候補に挙がりました。富士見中学は姉の通う姿を間近で見ているので、勉強も部活も頑張っている学校であることは分かっていました。ちょうど姉は中3で高校数学が始まり、難しいと悲鳴を上げている頃だったので、十文字の個別相談の際に勉強の進捗について質問しました。答えて下さった先生は英語科の先生でしたが「進捗は早くありません。むしろ今年は予定より遅れているくらいです。」とのことでした。また数学については独自のプログラムを導入し個人に合った進捗で学べると聞きました。アントレの授業の予習復習をそばで見ている娘には急がず着実に勉強を進めていく方があっていいのではと思いました。また十文字のオープンキャンパスでは理科の実験をし、とても楽しんでいました。フンチャンとの面談、アントレでの成績などから富士見にチャレンジ、そして確実に十文字に合格という目標を掲げて2月を目指すことになりました。

【入試】

1月には星野学園中学校を受験しました。充実した施設で文武両道の校風に娘ももっと近かったら本当に通ってもいいと言うくらいでした。過去問の出来具合から決して合格は楽ではないと覚悟していましたが、その予想通り1日目は不合格。本人は星野で合格をもらえなければ2月の受験校から合格などももらえない、と2日目はものすごく頑張ったと言っていました。埼玉入試において出来る問題を落とさず確実に得点することの重要性、不合格と合格の両方を体験できたことは良かったと思います。しかし、星野の合格でほっとしてしまった娘は1月後半、すっかりスイッチが切れてしまい過去問を解いても以前より点数が落ち、土曜演習も大幅に点数を下げてしまいました。個別の先生にも授業中気持ちが入っていないことを指摘される始末に。迫り来る本命入試への緊張感よりも、「〇〇日後はもう受験終わってるね。」と、受験終了後の楽しいことばかり頭に浮かんでしまう状態。まさに中学受験は幼さとの戦いという言葉通りの展開になってしまいました。さすがにこのままではまずいと焦り、かなり厳しい言葉でこのままでは東京入試は悲惨な結果になる、もう一度スイッチを入れて東京の学校から合格をもらおうと気を引き締めなおさせました。

埼玉入試が終わってからは算数については過去問の大問1を毎日解くようにしました。過去問を本格的に取り組み始めたのが11月と遅めでしたが、最終的には全教科10回分くらいは解くことが出来ました。2月の入試では1日午前富士見、午後十文字を受験しました。十文字は午後入試が3時集合と遅めであったので移動と昼食も余裕を持つことが出来ました。結果は、富士見の不合格と十文字の合格。富士見の過去問を解いて合格最低点を取れたり、足りなかったりと不安定な得点であったので問題が合えば少しは合格が近づくかもしれない、親としてはどう転ぶか予想のできない受験でした。当初、十文字は2日目の午後に受験しようと考えていましたが、2日目に合格がないままに受験するより精神的にすこし余裕が持てたので、体力的には大変ですが1日目に2校受験したことは良かったと思います。富士見2日目、1日より手ごたえを感じたようですがまたも不合格。本人はすっかり心が折れてしまい、3日目の受験はもうしないと泣き出します。もともと十文字を気に入っていた娘はもう富士見はいい、十文字に入学したい、はやく受験を終わりにしたいと後ろ向きに。母親の私も娘の涙にもうここで終わりにしてもいいのでは感情的になる中、父親は頑として最後までやり抜くべきと娘を説得します。3人でずいぶん長く話し合い、娘も一人部屋にこもって考え直し、ようやくアントレへの不合格の報告ともう1日富士見に挑戦すると心を決めました。1日は母、2日は父、3日は姉が試験が終わった娘を迎えに行くというまさに家族総出の受験でしたが、とうとう富士見には合格をもらえませんでした。しかし最後までやり抜いたことは本当によく頑張ったと思います。

【余談】

・日々配られるプリントは6年にもなると膨大な量となり、ちょっと整理をサボるとすぐに山のようにプリントは散らかってしまいます。出来るだけ大きめのファイルを用意しインデックスを使用して何がファイルされているかをすぐにわかるようにしておくとう復習がしやすいです。白板ノートには番号をつけ何番のノートにいつのどの単元の問題があるか一覧にしておきました。こうすることで、苦手な単元は5年の時のもの、季節講習の時のものなど簡単にピックアップして子供に解かせることができました。

・自宅での勉強はホワイトボードに内容を箇条書きにして視覚的に分量がわかるようにしました。マグネットで「白板」「毎日ドリル」「小テストやり直し」などの項目を作り、ホワイトボードに貼ります。終わらせるとそのマグネットをひっくり返す。これにより、娘も小さな達成感を感じながら勉強することができたと思います。

・塾通い中、夕食はお弁当になりますが当然ながら温かいお弁当は食べられません。保温機能付きのお弁当箱があるとご飯だけでも温かいものが食べられるので、それは娘達には必須だったようです。このことは何故か姉が必ず体験に書いて！と熱く語っていました。

【最後に】

姉が中学受験をしたから、自分も何となく。そんな所から始まった受験勉強。それでもアントレで出会った友達と切磋琢磨し、いつの頃からか自分の目標として受験に向け努力してきました。それはきっと一人ではできなかったことで、周りに同じ目標の友達がいたことがどれだけ娘の励みになったか、アントレのお友達や先生方には本当に感謝しています。支えあう友がいること、頑張ることの大切さはこれからの中学校での生活でもさらに感じていくでしょう。この体験を糧に充実した学校生活を送ってくれることを心から願っています。最後になりましたが、アントレの益々のご発展を祈念いたします。本当にありがとうございました。

畑野友翔くんのお母様

【入塾のきっかけ】

- 小3の時、3歳上の兄（当時小6）が、朝から夜遅くまで塾で勉強するのを見て、「え？（兄は）まだ塾にいるの？俺は絶対塾には行かないし、受験はしない！」と言っており、両親共に、友翔はサッカーの仲間と公立に行くのが幸せとっていました。
- 小3冬、算数が好きな息子なのに、学校では、算数の授業が1番つまらなくて嫌いと聞いて残念に思い、なんとか算数好きを伸ばして、算数の楽しさを知って欲しいと思い、
母：「アントレの算数凄く楽しいみたいだよ！体験行ってみる？」
子：「アントレの授業楽しかった！算数やりたい」
母：「2月から算数1科で入塾できますか？」
タケノコ：「1科という方はあまりいないのですが・・・。」（そうですよね...）
他の習い事の調整ができず、ひとまず算数1科Bクラスで新4年生から入塾することになりました。

【コロナ禍・心境の変化】

- 入塾後まもなく緊急事態宣言、学校も塾も休校になり、急に自由な時間が大量に与えられました。予習型は友翔に合っているようで、水を得た魚の如く、算数の予習シリーズにのめり込んでいました。「難しい〜！」と楽しいように解いていました。まだ時間があるので、「理社もちょっとやったら？」と、兄のテキストを使って進めました。
- 私立に進学した兄は、入学式もなく、すぐにリモート授業がスタート。パソコンを使って授業をし、面白そうな授業で、宿題もパソコンで提出し、なんだかっこいい！
1学期が終わる頃に「俺も（兄みたいな）かっこいい制服が着たいかも・・・。」と言うので、夏期講習から4科でお願いすることになりました。

【習い事と宿題】

我が家は褒められた勉強スタイルではなく、習い事の合間に何とか宿題をこなすだけ。こなしてはいましたが、身につけているかは別。今となっては、ここが大いに反省点です。サッカー週2〜4日、そろばん週2日、ヴァイオリン、英語、スイミング、ピアノ。どれもやめたくない友翔。目標を設定して、スイミングは直ぐに終了。そろばんは珠算検定1級を取ったら、英検は3級を取ったらなど、自分で区切りをつけて貰いました。ピアノは小6春の発表会、ヴァイオリンは小6夏の発表会まででお休み。1番続けたかったサッカーですが、小5後期、土曜に試合で終日サッカーをすると、大量の宿題が何1つできていないという現実が本人を襲い、それがかなりストレスになっていました。泣く泣く小5最後の春の試合で卒団となりました。

【こんな塾はアントレだけ】

- 保護者会はフンチャンの話が聞けるのを楽しみに、毎回出席していました。良い時も悪い時も、肩の力を抜いて下さる先生の話に、どれだけ救われたでしょうか。
- 4年Bクラス。100点を取ると、フンチャンが本当にご自身の財布から1000円を下さる！「畑野くんに100点取られるとフンチャンのお小遣いがなくなっちゃうので、Aクラスに行きなさい。」→目を輝かせて帰ってきました。
- 5年春。習い事をやめて勉強時間を確保したいので、先生から息子に言ってほしいと相談。タケノコ：「全部頑張ってください。」母としては寝耳に水！タケノコの言葉を友翔に伝えると、自分のやりたい事を認めてもらえたように感じられて、本当に嬉しそうに益々励んでいました。
- 6年後期。卒業生が頻繁に応援に来て、お菓子を差し入れてくれる。息子はお菓子に喜び、先輩の姿に憧れを抱いていました。

カッシーの算数の授業。ハンコではテンションの上がない子供たちの為に、花丸を取るとお菓子が貰える。〇が増えるとスペシャルになる！いつも子供たちのやる気を引き出す授業をして下さり、最後まで楽しく通うことができました。

【 恐るべしSクラス 】

- 新6年生、算数のみ、お試しでSクラスの授業に参加しました。夏期講習まで、まずは頑張るように！と言われ、必死に食らいついていましたが、もの凄く大変でした。5A白板では解き直しも数問で、理社にも時間を回せましたが、6Sの白板は解き直しの嵐。帰宅後自力で解けない問題もあり、個別の長澤先生には、大変お世話になりました。いつも前向きな励ましの言葉を掛けて下さって、息子の心の拠り所でした。
- 夏期講習では、算数のクラスに合わせて4教科同じクラスで受講します。全5回まとめテストがあり、順位表と点数が発表されます。息子としては、70点台が取れば「頑張ったね」と思いましたが、Sクラスの皆さんの凄い事！！90点台がずらりと並び、夏の時点で仕上がっていることがよくわかりました。我が家は今から理社を1から積み上げて行こうとしている中、「みんな凄いね〜！」とよく話していました。友翔は「ただの天才じゃなくて、努力ができる天才だから凄いんだ。」と言っていました。クラスメイトの皆さんにいい刺激をもらっていることがよく分かり、そのおかげで最後まで頑張れたのだと思います。

【 志望校選びはお早めに 】

- 6年前期、武蔵算数を受講しましたが、帰りにパスモでジュースを買い、友達と喋りながら電車で帰る道中が楽しかった様子です。算数しか武器のない友翔にとって、武蔵が合うと先生は強く勧めて下さいましたが、カッコいい制服・パソコン・兄のように沢山宿泊行事に行きたい！という思いと合致せず、チャレンジ校を決めかねている状況でした。
- コロナ禍の規制も徐々に緩和され、6年生の1年間は学校説明会などが開催されるようになりました。6年後期は合判や入試演習などで忙しいので、5年〜6年前期までに色々な学校に足を運ばれる事をお勧めします。それでも、申し込み時刻にエントリーしても秒で満席になる状況。早稲アカ主催の学校説明会は他塾も受け入れてくれると友達に誘ってもらい、何度か利用しました。

【 過去問の取り組み 】

海城

念願の文化祭に行くことができ、とても気に入りました。自由な校風でありながら、体育会系な授業や宿泊学習、塾いらずと言われる管理型の学校に親も惹かれました。過去問との相性もよく、特に社会は、知識が苦手な息子ですが、資料を読み込んで記述する出題形式で、初めて解いていて楽しいと思える学校で、第一志望になりました。副都心線西早稲田駅を利用すると1本で行くことができ、混まずに学校に行けます。

過去問1 1年分×2回 科目によっては3回目も取り組みました(チャレンジ校)

立教新座

我が家から一番近く、門を通ると開放的な景色が広がり、毎回惹かれて、この広くて綺麗なキャンパスで思いっきりサッカーができれば楽しいだろうな！と思っていました。

過去問1 1年分 苦手な分野は2回目も取り組みました(国社ができたりできなかったり)

立教池袋

学校説明会に何度か伺い、毎回生徒さんのスピーチに感動しました。入試の時も、先生方・生徒さんの対応がどこよりもよかったです。息子は算数の体験授業がとても楽しかったようです。第2回入試は算国2科の後、自己アピール入試があり、受験はしませんでした。

ヴァイオリンの実技と面接の準備をしていました。
過去問5年分（模試でも実力適正校 国語が大問5まであり時間配分慣れが必要）

栄東

点数開示があり、早めに申し込むと駐車券がもらえます。自宅から車で1時間。集合が9時なので、息子にとっては車でゆっくり向かえて1番楽な受験でした。試験対策説明会は行きませんでした。資料請求をすると、細かい出題概要を教えてください。
過去問6年分（国語がどの学校より取れず、算数でどれだけカバーできるかが鍵）

城北

模試で1度行き、母親は学校説明会にも伺いました。ここに進学すると、勉強を怠けずに頑張れる子になるだろうなと感じました。
過去問3年分（手応えあり 受験しませんでした）

【 やってよかった事 】

- 5年夏期講習から、勉強予定を4科目書き込んだカレンダーを作成しました。両親共働きの為、これを見て自分で予習復習を進めることができました。
- 過去問点数記入シートを作成しました。1回目と2回目を横並びに、同じ学校の点数推移が一目で分かり、教科の弱点も見渡しやすくなりました。夏期講習後、過去問をやりたがらない原因は、点数が取れない事にありました。アントレから言われた目標点（〇月は合格最低点の〇〇%）を書き込んで、毎回目標点を明確にし、無理のないところから徐々に目標を上げることで、スムーズに進めることができました。
- 過去問を1冊分、各教科の大問毎の出題を一覧にして、正答率を書き込みました。この学校は旅人算が多いとか、平面の正答率が低いから対策しようとか作戦を練るのに有効でした。2回目に入り、国算社は点数が伸びるのですが、理科が伸びるところか点数が下がることもしばしば。日ごとにテーマを決めて、動物が苦手なら、シリーズやコアで動物の知識を確認して、各学校の動物の過去問を徹底的にやることで、大分力がつきました。学校によって、大問1～4は必ず物理・化学・生物・地学の順に出るとか、この学校は毎回ばらばらとか、点数配分など、傾向も見えました。
- 出願の可能性のある学校は、なるべく事前に行くようにして、良い点を一緒に話し、実際に通うイメージを持って取り組めるといいと思います。模試の間は周辺を散策して美味しいようなお店を見つけるなど、次行くのが楽しみになるように、入試の楽しみを見つけるのもいいと思います。

【 こうしておけばよかったと後悔している事 】

- 苦手な国語と社会をもっと早めから克服できるように対策できればよかったです。
国語：読むのが遅い、速く読むと頭に残らない、時間を計ったり焦るとさらに文章が入ってこない、そもそも楽しくない。
→週に2回分（第一志望とその他）国語の過去問は一緒に解いていましたが、埒が明かないので、最後の1か月は毎日やりました。時間配分、どう解き進めるか作戦を立てる。毎日やることで、問題を見ただけで、9分くらいで読めるな、これは11分位かな、と自分で客観的に見られるようになり、読むペースも速くなりました。読んだ後にストップウォッチを止めて、どんな内容かをお互い話してみると、段々速く読んでも内容が入っているのが確認できました。面白い内容だね！となるべく文章を楽しめる雰囲気を取り組みました。苦手はやはり演習不足だったのだと実感し、土壇場だからこそ子供も本気になり伸びたのだと思いますが、この状態が半年前だったらなあと思ってしまいます。
記述は、5年生の記述の授業で大分鍛えられ、得意になっていました。記述だけの授業が

あるのはアントレだけではないでしょうか？とても秀逸なテキストだと思います。しかし、その頃記述のテキストは復習すらせず、私も仕事終わりにじっくり読む気にならず、パラパラめくるだけでした。息子は苦手意識があり、国語は最も復習したくない科目でした。その日の1題だけでも目を通し、よくできている所だけでも一緒に褒めながら見直しをする時間を作っていたら、こんなに最後まで苦手を引きずらずに済んだのでは？と後悔先に立たずです。。

社会：1番点数を取るのが難しい科目でした。理科と同じ勉強量ですが、理科は好きなので苦労はなく、社会の方が圧倒的に知識量が多いので、授業でやった短期記憶がなかなか長期記憶として定着しませんでした。最後まで伸びる教科ですが、ボリュームゾーンに入っていないと、夏に仕上がっている子たちと同じ学校を受けるとなると、足を引っ張ってしまいます。ダンディに相談すると勉強方法のヒントを細かく教えてくれます。5年の頃から、寝る前の15分など短い時間でいいので、社会の知識に触れていればよかったです。

【入試本番】

埼玉入試

栄東A日程 × (あと8点 国語が足を引っ張る → やっとスイッチが入る)
栄東B日程 × (あと2点 1問の重みを知る。算数は105点と手応えあっただけに落胆)
立教新座 補欠 (社会ができなかった、算数時間配分ミス・最後の大問全てできず)

ここまで合格がないと、息子には合格は来ないのではないかと、もの凄く不安に……。立教新座は合格最低点が低く、過去問でも合格点が多かっただけに、2月入試に暗雲が立ち込め、計画通りに進めていいのか分からなくなりました。

息子は落ち込むものの、やるべきことを淡々とこなし、入試に緊張することもなく、前夜もよく食べ、よく眠れるので頼もしいものでした。

栄東の点数開示は自分の足りない部分がよく見えて、B日程に向けて対策した成果が点数で見えるので、受験してとてもよかったです。終わってみて今思えば、初めの不合格が本人を本気にさせて、2/1にピークを持ってくることに繋がったと思います。

2月1日 海城 × PM 獨協2科 ○
2月2日 立教池袋 繰り上げ合格 → ○
2月3日 立教新座 ○ → 進学先

補欠が続き、カッシーに「もしかして狙ってる？」と言われ、みんなで笑ってしまいました。3日も補欠かと思いましたが、当日の夜 合格 の文字に心の底から喜びを噛みしめました。

【最後に】

算数の楽しさを知って欲しい！と思って入塾したアントレ。先生方のおかげで学びの楽しさを知り、算数が武器になるほどに育てて頂きました。勉強だけでなく精神的にも大きく成長することができたと思います。

大変お世話になったアントレの先生方や個別の長澤先生、一緒に切磋琢磨してきたクラスメイトの皆さんに、感謝の気持ちでいっぱいです。

3年間本当にどうもありがとうございました！！

濱崎匠未くんのお母様

楽しかった。そして、過ぎてみるとあっという間だった。部屋はまだ受験前のまま。1月28日最終日。アントレから届いた入・退出メールは消せずに今も残っている。

【入試結果】

1/11	栄東	合格（難関大ギリギリ滑り込み）
2/1 午前	武蔵	合格（進学先）
2/1 午後	巣鴨（算数）	合格
2/2	桐朋	合格

彼の歩んだ道のりが参考になるか不安ですが、ありのままを記させていただきます。

【小3 12月某日 「オレ、受験する」～入塾までの流れ～】

- *くもん、ドリル、通信教育等一切なし。
- *学校のテストは80点半ば。（国語は60点とかも。）
それ以前にテストに名前を書かない。赤ペンで「はまぎくん」と書かれる。「大丈夫。名前書かないのオレだけだから。先生すぐわかる！」
- *連絡ノートは先生と交換日記状態で、二冊目に突入…。

そんな彼が友達の話聞き「オレも受験する」と言い出した。地方出身の私、中学受験は無知。周りからいろいろ聞き、ネットを調べ、大手塾の冬期講習に参加し、そのまま入塾。…のはずが、アントレに電話をしていた。

- *色々やらかす彼、学校の延長のような大手塾は合わない。
- *「やりきった！」という体験ができればよい。（彼には申し訳ないが武蔵を目指せると思っていなかった）大手塾にこだわる必要ないよね。
- *何よりアントレの方針が大好き。そしてピンときた。彼に合う。
案の定、体験した彼は「絶対アントレ！」こうして新4年から彼の楽しいアントレ生活が始まった。

【小4 コロナで引きこもり（強制的に）本と出会う】

- *通塾直後、コロナで外出制限。学校も休校。
- *Bクラススタート。2回目のまとめテスト後、ある日突然Aクラスに。
- *アントレから（保護者会等で）クラスごとに「やってください。」と指示されたことは全てやる。

学校ない。外に出られない。時間はある。彼は国語ができない。昔から図鑑しか見ない。そこで私は彼に本を渡した。『マジックツリーハウス』これも初めは読んでいるのかいないのか？科学探偵、デルトラクエスト、ぼくらシリーズ、ハリーポッター、都会のトム&ソーヤ等…。この時からの読書習慣が、後にじわじわと効いてくる事になる。（本格的に読み始めたのは5年になってから。）

【小5 オレ、やることはやってるよ！（一応…）】

- *何とか算数Sスタート。他はA（後に全てSにあがる。）

- * 理社の毎日プリント等、やる事は増えたが元々スピードだけはある（精度は低い）ので、アントレから「やってください」と言われたことは全てやる。
- * コロナで説明会の縮小・少人数。毎回争奪戦。学校見学に苦労した。

新出単元の連続で、一番ハードなはずの5年。彼は相変わらず。むしろ「手抜き」を覚える始末。「理解する」より「素早くこなす」ようになる。特に、新しいものが好きな彼は一度やった問題を解き直すのがめんどろ。夏期講習中に、単発で国語と算数の個別を入れた。

【小6前期 予習がなくなり嬉々とする彼 ～読書は黙認されるのオレ知ってる！～】

- * 新出単元がほぼなく予習の必要がなくなり、やりたくない復習を「サッとこなす」
- * 勉強時間は5年より少なくなる。
- * クラスでの立ち位置は真ん中くらい(?)
- * アントレから「やってください」と言われたことは全てやる。

GWに第一次記述救出作戦決行。見たい景色だけを見、感性に引っかかった所だけシャッターを切り、先へ！先へ！と駆け出す彼。これが彼の国語の解き方。言いたいことはたくさんある。でも、ぐっところえて一つだけ。

「書くスピードは今のままでいいから、読むスピードを落とせ。本文は0.75倍速。問いは0.5倍速(全科共通)。」

疑いの眼差し。大丈夫。それでも君は時間が余る。

6月のカッシーとの生徒面談で、スピードを落とすよう言われ、彼も何か思ったらしい。

【小6 データ色々】

合不合偏差値（偏差値は重視せず。苦手単元の洗い出しに使用）

第一回	二回	三回	四回	五回	六回
59.8	59.5	56.5	63.5	56.0	63.8

サピックス武蔵オープン合格可能性（武蔵の国語で同じ文が出た）

第一回	40%	第二回	60%
-----	-----	-----	-----

土曜演習 武蔵クラス結果

15回すべて合格

過去問（9月の保護者会で指示を受けてから着手）

武蔵 11年分を一回。点が低い4年分を12・1月中にもう一回。間違った算数の問題は解けるようになるまでやった。夏に指示があり解いた年度は合格最低点に50～70点不足。9月頃はまだ30点程不足。10.11月頃によく惜しいラインに。

桐朋 第二回のみ5年分。10月に解き、40点以上不足した年度をもう一度。結果、また届かず。毎度彼の得点源（に、ならなくてはいけない）算国で点が取れず。12/31に2022年度を解き、最低点を上回り気分良く封印。（理社のみ1月に少々使用）

巣鴨 第二期を4年分。社会が10～20点台と低すぎるも合計はクリア。算数選抜も4年分。どの年度も最低点を20点弱上回り安心。

【小6後期 彼はやっぱり彼だった！ ～彼の成長～】

9月に第二次記述救出作戦決行。シリーズ5年のやっていない発展問題を使用。問いを読

む→ 問いの内容を一言でまとめる。この時「問いへの線引き」をやる。(ちなみに解かない)次、また別のやっていない問題で同じ事を彼一人でやってもらう。3回目で解く作業までやりたい私。彼は「早く解きたい！」嫌気がさしてしまっただけは意味がないので渋々了承。11月頃、彼は「何かをつかんだ。」と言う。ここからは大きく国語が足を引っ張ることがなくなった。むしろ、土曜演習で算数30点台を2回出すも合格できたのは国語が支えてくれたから。(算数は上下にブレあり。理社?……察して。)

11月頃から私は言っていた。「コアプラス毎日15分やってる?」「大丈夫。大丈夫。」その割にチェックテストの点が低い。「本当にやってる?」「大丈夫。電車でやってる。」模試にしても過去問にしても、全てにおいて理社が低め安定。「あのさあ…」「大丈夫。」

彼は同じものを繰り返すのが好きではない。眺めているだけでやっていないに違いない。1月学校休んでいる間に…と、私の考えも甘かった。現実はやらない。ならば視点を変え、手を付けていない桐朋の第一回の理社を使用するも、二年分やって「もういい。」どこからか、二日前に理社をやった武蔵に受かったという話を聞き、「オレも大丈夫。」そして二日前。「明日やるから大丈夫。」前日夕方。「……理社、捨てます。(ポツリ)」「コアプラスは……やりません。」そっとコアプラスを封印。ひたすら算数をゴリゴリ解いていた彼。

『この問題は解けなきゃダメだ。これは捨て問だ。』いつの間にか問題の見極めが出来るようになった。『あ、そういうことか。え?なんで?この解き方キモイ』答えしか興味のなかった彼が、解き方を理解し、再現するようになった。この3年間で彼はものすごく成長した。

「今のオレに必要なのは、算数をしっかり固めること。」
きっと怖かったと思う。理社を捨てるとつぶやいた時。目線はずっと斜め下を向いていた。小さな声で「コアプラスは…やりません。」そう言って静かに封印した彼は、きっとすごく不安だっただろう。だけど彼は今の自分の状況を冷静に分析し、自らの意志で算国を磨くことを決めた。

「武蔵の試験は国語、算数、国語(社会科部門)、国語(理科部門)。」そう言って戦った。そして帰宅後、「こわい。でも、やりきった。オレ、やりきった。」
1月。栄東の受験終了後から彼はものすごいスピードで大きく成長した。

【最後に… 特大の感謝を込めて】

単発で5年夏に個別を入れたものの、基本的にやった事はアントレで指示された事と、面談でのカッシーのアドバイスのみです。今、不安でこの本を手にとっている皆様、アントレを信じて大丈夫です。面談は5年生から定期的に入れました。カッシーの見立てと相談したことに対するアドバイスは的確です。カッシーを信じてください。それだけに、相談内容は考えた方がいいかもしれません。「どうしても模試の偏差値を上げたい。」と相談したらそのための答えをくれると思います。

たくさんご迷惑をおかけしました。いっぱい甘えさせてもらいました。最後まで彼が彼らしく走りきれたのは、アントレの皆様とクラスメイトの皆様のおかげです。親子共々、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。心から、楽しかったです!!

廣野奈緒さんのお父様、お母様

アントレ入塾まで

- ・4年生の11月 父と奈緒でアントレの入塾説明会・体験学習に参加しましたが、奈緒は全く興味を示すことはありませんでした。

(アントレを選んだのは、父がネットの情報を見て、面白そうな塾と直感したからです。)

- ・4年生冬休み 小学校の友達がW塾に通っているので、自分も通ってみたいと言い出しましたが、本当に勉強する気があるのかと思い、試しに「ハイクラスドリル」(受験研究社)の算数と国語を冬休みと1月に集中的にやらせてみたところ、ほぼ完遂しました。
- ・4年生2月 他の習い事(算盤、ピアノ、水泳)との関係もあり、すぐには塾に通わず、四谷大塚の通信教育を開始しました。

(アントレ、W塾等で四谷大塚のテキストを使用するので、今後の通塾も考えての選択)半年間、奈緒も頑張り、父もサポートしましたが、受験まで続けるのは難しいと判断。

- ・5年生6月 アントレで体験学習を受けて「授業が楽しいので、アントレに入りたい」と今までにない強い意欲を感じ、夏期講習から練馬校に入塾しました(クラスはB)。

アントレ入塾後

- ・幸いすぐに仲のいい友達もできて、毎回楽しく通うことができました。

夏期のまとめテストでは、Bクラスの成績上位者に入り、その後もまとめテストでは、毎回Bクラスの上位に入っていました。

- ・クラスは、5年生の秋に、社会・理科でSクラスに上がったものの、すぐにBクラスに。(社会は得意でしたが、理科は苦手で、Sクラスをキープしたいと、デカッチョに授業後、質問に行っていたようですが、実力不足でした。)

ほぼ同時期に、国語もSクラスに上がることができ、こちらは6年生終わりまでキープ。

(国語は、四谷大塚の通信教育の時から大の苦手でしたが、ムーミンの授業を受講して、何かを得たようで、得意科目に変わりました。)

志望校と学校見学

志望校は、入塾した頃から、富士見のほぼ一択でした。奈緒の希望としては、

1. 女子校(これは絶対条件)
2. 家から近い(朝が極端に弱いため、通学時間の短い学校)
3. 温水プールがある(水泳が得意で6年生8月までスイミングスクールに通っていました)

実際に学校見学に行ったのは、富士見の他に学習院女子、東洋英和、淑徳与野、普連土、三輪田、十文字、跡見、光塩など。

学校見学で一番見ていたのは、生徒さんの様子、機会があれば直接お話もしました。

いざ受験

淑徳与野中学校

6年生10月になって初めて説明会に参加、奈緒が学校の雰囲気ですっかり気に入り、その場で赤本を購入したほどでした。

1月13日 受験

過去問では、合格点を取ることがあったものの・・・不合格

1800人近くが受験する入試、あくまでもチャレンジ校であり、よい経験になりました。

不合格によるメンタル面でのダメージも残りませんでした。

富士見中学校

四谷大塚の合不合格判定テストでは、4月55%から始まり、11月、12月はともに80%、フンチャンとの面談では「3日間受け続ければ合格の可能性は大きい」と励まされ、過去問の正解率は安定して6割を超えていて、毎回合格最低点もクリアしていましたので、あとは、体調に気を付けて、入試当日を迎えるだけでした。

2月1日午前 受験

得意のはずの国語で痛恨の時間配分ミス。試験時間を50分と勘違いし、解答欄を埋めることができなかったとのこと（富士見の国語と算数は、2019年度までは50分、2020年度からは45分、古い過去問をやった時の感覚が残っていたのかもしれませんが）

夜19時過ぎ、それでも合格しているはずと、家族で合格発表をPC画面で確認しましたが、奈緒の受験番号はありませんでした。

「(模試の合格判定では)80%だったのに・・・もう受験なんてしない」と奈緒は泣き崩れました。

2月2日午前 受験

前日と同じように確認、不合格の画面を見て、奈緒も父も言葉を失いました。

母は冷静で、「フンチャンに電話してみる」と言って、練馬校ではなく、ひばり校に電話。

母、奈緒、父と順番にフンチャンと話し、冷静さを取り戻しました。

父がフンチャンに尋ねたことは

- ・三輪田は合格しているが、〇〇中学も受験するか迷っている、どちらの学校がよいか。
⇒「それは人の好みなので何とも言えませんが、私なら迷わず三輪田です。」
- ・3日もダメなら、奈緒が4日も他の学校を受験したいと言っているが・・・
⇒「やめた方がいいです。明日で一区切りをつけた方がいいです。」

といずれも即答で言い切っていただき、迷いが一気に解消しました。

2月3日午前 受験

不合格 この日はアントレに電話することができず、翌日、練馬校に電話。

奈緒は、笑みを浮かべながらポッキーと話しているように見えたのですが、実際には目から涙がこぼれていました。これまでのことを思い浮かべながら、この時、奈緒なりに中学受験に終止符を打ったのだと思います。

富士見不合格の原因

- ・ 1日1時限目の国語の時間配分ミス、この日はこれがすべてだった気がします。

初日は偏差値的にも一番のチャンス、返す返すも残念でなりません。

- ・ 2日、3日は、合格最低点が例年よりもかなり高くなっていたことが、後日判明。

例年であれば、富士見は60%得点できていれば合格、説明会でも繰り返し60%を目指してくださいと・・・それが、今年の2日目、3日目は算数の合格者の平均点が80点越え、合計点でも70%近くの得点が必要でした。

結果的に、父が「60%得点できれば大丈夫」と言い続けたことが、ミスリードに。

- ・ 11月、12月と続けて、模試での合格パーセンテージがなまじ高かったため、ここで一息入ってしまい、ラストスパートが不十分になってしまいました。

あの時期、満足することなく、一気に入試当日まで駆け抜けていればと悔やまれます。

結論としては、12歳の子の受験、何が起きてもおかしくないことを想定し、もっともっと実力をつけておくべきでした。

進学する三輪田学園中学について

併願校は親子で迷いながらも、最後は、奈緒が「三輪田がいい」と決断しました。

2月1日午後 受験

国語、算数ともによくできたとのこと。

富士見の不合格で意気消沈していた、22時40分、三輪田の合格発表、「合格おめでとう」のPC画面を確認し、家族みんなで安堵しました。

後日、合格最高点を見て、奈緒は「たぶん、その近くまでいっている。」と笑顔でした。

奈緒が自ら選び、実力で勝ち取った合格となりました。

三輪田は、穏やかな感じの生徒さんが多い印象で、定員170名とやや小規模で、説明会や学園祭などの雰囲気から、先生と生徒の信頼関係がしっかり築けている学校だと思います。

目先の偏差値や進学実績を上げることにとらわれず、伝統を守りつつも、時代にあった教育方法を取り入れ、何より生徒一人ひとりを大事にしている姿勢に、個人的には、もっと評価されてもよい学校だと思います。

お隣にある法政大学との高大連携（推薦枠30名など）は、今後の展開が楽しみです。

入試当日は、校長先生自ら、寒い中、校舎入口付近に立ち、受験生、保護者に挨拶し、入試のお手伝いをしている生徒さんもたくさんいて、きびきび動いていて好感を持ちました。保護者の控室として講堂を開放し、ポットで温かい紅茶まで用意して、各時限終了と同時に保護者に問題用紙を配布するなど、保護者への配慮もきちんとしていました。講堂で待ちながら、三輪田なら安心して娘を預けることができるという思いになりました。

アントレの先生方に感謝

フンチャンをはじめ、アントレの先生方には、いろいろお世話になり、特に勉強の本質（「自分で調べ、自分で考える」）を教えていただき、心より感謝申し上げます。

奈緒は、小学校はつまらないと、嫌々登校することもあります。アントレには、先生方、そして切磋琢磨した友人のみなさんのお陰で、毎回楽しく通うことができました。

奈緒は「他の塾だったら、途中でやめていた。」と・・・アントレを選んで本当によかったと思います。

現在、奈緒の弟と妹が通い、フンチャンに算数を教えてもらっています。まだまだ幼いところがある2人ですが、引き続きよろしくお願いします。

そして春

2月1日からの3日間、体力的にも、精神的にも疲れ果て、それでも最後まで諦めることなく、懸命に問題に向かっていった奈緒の姿を思い浮かべると、お疲れ様、よく頑張ったねと褒めてあげたいと思っています。

結果的には残念でしたが、この受験は、決して失敗ではありませんでした。受験を意識し、入塾した時期も遅かった奈緒は、受験生としては未完成のままだったような気がします。今までにない辛い経験もしたけれど、受験までにどのように取り組んできたか、それを今後どのように活かしていくか、真価が問われるのはこれからだと思っています。

次の一步を踏み出すにあたり、奈緒には、次の言葉を贈ることにします。

人間到る処青山あり（じんかん いたるところ せいざんあり）

今の奈緒の立場にあわせて意識すると

これからも、アントレで培った「自分で調べ、自分で考える」を実践していけば、中学校のみならず、世の中どこへ行っても、自分らしく輝くことができる。勉強、部活に励み、多くの友人を作り、充実した学校生活を送って欲しい。

おまけ（プチ情報）

- ・ 淑徳与野は、埼玉県で通学するには遠いイメージですが、練馬区なら住まいの場所によっては、赤羽駅までのバスが運行しており、赤羽駅から淑徳与野の最寄り駅（さいたま都心駅）までは、JR 宇都宮線で12分です。
淑徳与野は、保護者の控室はありませんが、近くにコクーンシティ（大規模ショッピングモール）があり、待ち時間を有効に過ごすことができました。
- ・ 富士見は、学校説明会、四谷大塚の模試等はもちろん、入試当日でも自転車で行くことが可能です。駐輪場も用意されています。
我が家は、直線距離では富士見まで近い（自転車で8分程度）ですが、電車だと乗り換えが必要なこともあり、父が自転車で奈緒を後ろに載せて、連れて行きました。
2月1日は、午前に富士見を受験後、速攻で自宅に戻り、母が作った温かい昼食をとり、リフレッシュした後に、三輪田に向かい、無事に合格できました。
（交通安全には、十分に気を付けてくださいね）
※受験終了後の退室は、受験番号順ですので、午後も受験する場合には、少しでも早めに
出願した方が、余裕をもって、次の受験校に向かうことができます。
- ・ 三輪田は、入学準備説明会の際に、希望者は先生と面談することができ、不安なことなど事前に相談することができます。以前は、入試の際に親子面接を行っていた時期もあり、生徒一人ひとりを大事に思っている表れのように思います。
- ・ 入学金の支払い方法について
多くの中学校で学校説明会、出願等で採用している **mirai-compass** は、使い勝手がよく便利ですが、入学金支払いの際に、クレジットカードを選ぶと手数料が5600円程度かかります。
ペイジー・金融機関 ATM（カード・通帳）を選べば660円ですので、時間に余裕があればおすすめです。銀行の ATM は日曜日でも利用でき、ペイジーは初めてでも簡単でした。
- ・ 学校見学、ちょっとした息抜きに大学を見学することもおすすめです。多くの大学のキャンパスは誰でも自由に入ることができ、無料で見学できるミュージアムなどもあります。
奈緒を父の母校に連れて行ったところ、すっかりテンションが高くなり、大学ロゴマーク入りのグッズを買いまくっていました。
今では、「将来は、〇〇大学の〇〇学部に入って、〇〇になりたい。」と具体的な将来像を
思い描いています。

松下葉月さんのお父様

登場人物：父、母、葉月（文中では分かりやすくするため、父、母、子1という表現をします）

【塾通いの幕開け】

父は塾に通う前は中学受験にはそこまで乗り気ではなかった。父は中学受験をしていない、母も中学受験をしていない。我が家には経験者がいなかったのである。高校も近場の学校を選び、特にチャレンジすることもなかった。

挑戦するのは大学受験だけでいい、そこまでは伸び伸びと生活するほうが大切だ。高校3年からしっかり勉強してそれなりの大学に入ればいい。これは父の考えである。しかしその考えは唐突に崩されることになった。

時は小学4年生の3学期、母が塾を探し始めたのである。

母「○○さんちは○○（御三家）小学校に通ってるんだって、うちもしっかりしなきゃ・・・」

そう、これが開戦の狼煙であった。こうなるともう誰にも止められない。一心不乱に塾の情報を検索している母がいた。来る日も来る日もひたすら調べること数十時間。これは我が家の風物詩である。そして父の意見は当然考慮されることもなく、塾見学がはじまった。

3か所の塾を見学した。1つ目は少し離れた立地の体育会系の大手塾である。そこは子1目線で楽しそうだと言っていたが、通うことも考慮に入れ選択肢から除外した、すまん子1。そして残りの2つはひばりが丘駅近辺にある塾である。その2つの中で子1の視点ではレベル的にアントレのほうがいいということで約2年間お世話になることになった。父はやはり乗り気ではないので塾代は母のお小遣いから捻出することに決定した。

これが受験の幕開けである。父はそこまで関与するつもりは無かったが、結果的には多くの時間を割くことを知る由も無かった。

【停滞期】

子1は受験に対してあまり思い入れがなかった。父も母も公立中学出身だったので具体的にどこが違うのか説明できない。具体的なメリットやイメージを提示することができないのである。そんな家庭環境の中では当然モチベーションが湧くわけでもなく、塾の宿題はやるが自ら復習することはない状況であった。こんな状態で5年生～6年生1学期までの期間を過ごした。偏差値が上がることもなく、圧倒的に勉強時間が不足していたが、我が家はとても平和だった。自主的に勉強することもなく、土日勉強をしない日が多かった。父も母もそこまで焦燥感はない。よく聞くような母親が発狂し、こどもに勉強を強要し、泣き叫ぶこども。そのような地獄絵図は夢のまた夢であった。そんなことは決して訪れないと思っていたのであった。後にそれも覆るような結果になることを知る由もなかった。

【夏を制するものは受験を制す】

受験の天王山、小学6年生の夏休みが訪れた。父も母も仕事があるためアントレの夏期講習にお世話になった。夏期講習の宿題やテストをこなすための家庭学習はしていたようだ。まだまだこの時期も本格的に受験モードになることはなく平常時の雰囲気家庭を包んでいた。家庭では「がんばってるね」と声をかけるくらいで親のメンタルも平静を保っていた。

【本格的な受験勉強のはじまり】

9月になり、そろそろ過去問対策をする時期。ここから父がフル稼働になる。この時期に第一志望を決めた。東京学芸大附属小金井がレベル的にもいいかと思った。しかし家から通うことも考えて東京学芸大附属竹早も選択肢に入れ、両方の過去問を買った。土日で少しずつこなして行くが、親がつきっきりでできない。一緒に問題を解いたり、となりにいる時間が長くなっていった。

子1は竹早の問題のほうが相性がいいといっていた。点を取りやすい。小金井のほうは難しく過去問1周目では3割くらいの得点しか取れない。そのため竹早を第一志望と設定して取り組んでいった。これは後に変更することになったが、役に立たなかったわけではない。とても素直な問題が多く、基礎固めの役にたった。

志望校の選定に関しては、父は国立派であり、母は私立 or 国立といった感じで意見の違いはあった。父はあまり教育には期待しておらず、同じようなレベルの人と同窓になることにメリットがあると感じていたため、国立派。母はいい環境でしっかり面倒を見てもらいたいという考えのため私立が優先だった。後にこのすれ違いは大きかったことに気づくのであった。

【志望先変更】

子1は塾の成績はそこまで悪いわけではない。アントレでの面談で受験先を決定することになったが、竹早のほうが偏差値は高い。高得点が要求されるようだ。ごめん、子1よ、偏差値の都合により相性が悪く感じる小金井との戦いが始まった。時期にして11月頃。既にスタートが遅いけど頑張ろう。さすがにこの時期はつきっきりで面倒を見る、しかし勉強だけをずっと続けることは出来ない。「15分勉強したら15分動画を見る」このような勉強スタイルでだまされだまされ勉強をサポートしていた。

【地獄の12月】

いままでの合不合格判定テストの結果が芳しくなく、合格はほど遠い状態であった。そのため子1に自信をつけさせるために首都模試を受けた。首都模試は合不合格と比べて偏差値が10近く高く出る印象がある。そのためいい偏差値が出て子1の精神衛生上も良くなるかと思った。

しかし現実残酷である。なんと合不合格と同じくらいの偏差値に落ち着いた。合格可能性は30%未満。これにより父と母の精神は取り乱され、世間一般で騒がれている受験直前期の狂気家庭モードに突入することになった。

父は平日は帰りが遅いので土日は子1の面倒を見る。つきっきりで見る。朝早く起きて公共施設で勉強したり、快活クラブに缶詰になる生活がはじまった。母は取り憑かれたように学校案内を見ていた。おそらく通算で50時間以上は見ているのではないかと思う。学校マスターに近づきつつあった。

ちなみにこのあたりから父と母の第一志望がずれはじめていた。母は富士見に入りたい。きれいな校舎で勉強させたいと言っていた。父は「国立でいいんじゃない？そんなに差はないよ」と考えて過去問対策はほぼ学芸大附属に全振りしていた。

とはいえ、受験が近づきつつあるので富士見対策も少しずつ開始、そして1月の埼玉受験の過去問も少しずつはじめていた。ちなみに年末年始は公共施設が閉まっているため、もっぱら快活クラブのお世話になることになる。もう店員さん顔とシフトが大体分かるようになってしまうくらい通い詰めた。

【埼玉戦線異状あり】

いよいよ年が明け、埼玉受験の準備になった。特待が取れそうで校舎がきれい、敷地も広い西武学園文理を受験することにした。幸先のいいスタートになることを願っていた。ちなみに西武学園の過去問は素直な問題が多く、基本的なことを問われるので受験初期に取り組むのにおすすめでした。子2が受験をする際は使おうと思っています。

西武学園の過去問は2～3周しており、算数はほぼ満点、理科や社会も7～8割は取れるくらいになっていたので大丈夫だと思っていました。・・・大丈夫だと思っていました。

運命の1月10日・・・午前も午後も受験し、出来はまあまあとのこと。とりあえず子1をねぎらい初日の受験は終了した。結果は合格。やった、幸先いいスタートを切ることは・・・出来なかった。

そう、合格は合格でも普通の合格、特待は取れなかったのである。ちなみに母は学校に問い合わせをした。父が合格者の中で一定のものが特待が取れると言っても聞かなかった。猪突猛進である。そうして微妙なスタートを切ったのであった。

念のため申し込んでいた西武学園の第2回特待も受験した。子1の印象は難しかったとのこと。あれ？これはまずいのでは？結果は不合格。我が家の埼玉受験はイメージ通りにはいきませんでした。

【朝起きようとしない子1】

親のこのような雰囲気は簡単に伝わります。我が家の雰囲気は段々と悪くなっていきました。父は挽回しようとして週末は子1を早く起こして快活クラブに行こうとするが、起きない。無理やり起こそうとする、たたき起こす。駄々をこめる子1、行きたくないという子1。オワタ、こうなってしまうともうどうしようもない。何とかこっちも引いて勉強時間を確保しようとはしました。あまり勉強できない日もありましたが仕方ありません。うまく誘導することはできませんでした。この時期になると親のメンタルもそろそろ限界が近づきつつあります。イライラしてこどもにあたってしまう。強い口調になることが増えていったのでした。

【玉音放送、そして壬申の乱へ・・・】

いざ2月、東京受験。直前期の過去問の出来は・・・少し前にやったことを忘れていたようで直前期なのに5～6割程度の得点。あれ？これやばいんじゃない？このような状況の中で2月受験に挑みました。2月1日午前の富士見中学、結果は不合格。そして特待が取れる可能性がある午後の十文字、結果は合格だが特待は取れず。我が家はお通夜の様相となりました。子1はシクシクと泣いていた。悲壮感漂うなか、翌日の富士見の受験を申し込みました。父はすばやくクレジットカードを取り出し、ミライコンパスへアクセス・・・お金のことを考えている余裕はなく、課金上等の精神でした。

そして2月2日の夜、翌日の受験に響かないようにしなくてははいけない。

父「結果はあとで見ようね、翌日の試験が本番だから今日のことは気にしない」と言いました。そんな中、父はこっそりと結果を確認し、不合格を確認。内心かなりやばいと思いましたがそれを表に出さないように明るく振舞いました。初日の不合格ではイライラを表に出してしまい子1は泣き出した。今回はそうならないように頑張った。母もこっそり見ていたようで、母から負のオーラと殺気が立ち込めていました。あかん、隠しきれてない。背中に怨霊を背負っているように見えました。それを察知した子1、「落ちたんだ

ね・・・」と悲しそうでした。第一志望前日にして最悪の精神状態になりました。その夜多少の小競り合いがあったことは言うまでもない。

父「ところで壬申の乱はいつのできごと？」

子1「わかんない！」

基礎のはずの壬申の乱もうろ覚えだったことが判明しました。

朕深く中学受験ノ大勢ト家庭ノ現状トニ鑑ミ非常ノ措置ヲ以テ時局ヲ收拾セムト欲シ・・・

脳内で玉音放送が流れてきました。思ったよりも基礎が出来ていないようだ、もうダメだ・・・

そう思いつつも、壬申の乱の年号とか教えてました。もうこれくらいしかできることはない。

【天下分け目の決戦、2月3日】

泣いても笑ってもこれが最後です。2月4日の受験もまだ残されていることなんてこれっぽっちも思いつきませんでした。そのあたりは学校マスター母に任せることにしました。今日ですべてが決まります。今までの結果は芳しくないけど過去問のこなした量も半端ない、学芸大附属小金井対策に全力だったのでいい結果になるかもしれない・・・

朝から重い空気の中、子1はなかなか起きません。出発時間が迫るなかでも起きません。既に父はヒートアップしてます。

父「起きろ！今日で最後だぞ！O!KI!RO!」

もはや半狂乱でした。バーサーカー状態だったので起こすのは母にバトンタッチし、父は平静を保とうとしてました。今日は父が受験の引率をする日です。気を静めなくてははいけません。

なんとか家を出発することに成功したのですが、やはり気になることがありました。

父「ところで壬申の乱はいつ起きた？」

子1「・・・」

さすがに電車の中なので発狂することはない、冷静にいられました。落ち着いて学芸大が好きな正倉院の宝物や平等院、中尊寺などに話題をシフトして凌ぐことができましたが、きっと態度に出ていたに違いありませんがそんなこんなで受験会場に到着、外で待つ人が自然に列になっていたのはさすが国立といったところでしょうか。心はソワソワしたままでしたが、保護者の数をカウントしながら受験倍率を考えたりして平常心を保とうとしていましたが、内心では「あれ？これ倍率2倍以上でしょ。。。落ちたじゃん。」と思ってました。

子1に付き添って過去問を分析したため、ほとんどの問題を覚えてしまった父、来る日も来る日も受験案内を見続けた母・・・そんな日々が走馬灯のように蘇ってきました。そんなことも今日で最後。試験が終わるのをただひたすら待ちました。

いつもは最後のほうに会場から出てくる子1、今日だけは違いました。ほぼ先頭で出てきました。いつもと何かが違う・・・そして帰り道はしばらく無言でした。子1が自分から出来を報告することはありませんでしたが、勇気をふり絞って聞いてみました。

父「どうだった？」

子1「平等院の問題出たよ」

そうか・・・出来たとかではなく、予想していた問題が出たって報告なのね。仕方ない。子1受験お疲れさま。しばらくは遊んで暮らシなよ。

芳しくない報告をもらったものの、受験を乗り切ったのでとりあえずえらい。父「がんばったね。父が小中高で勉強した時間よりも子1が受験で勉強した時間のほうが既に長いよ、小学生なのによいよ。」

褒めました。これくらいしかかけられる言葉はありません。結果は2日後、父は午前は仕事。午後は合格していれば説明会に行くことになるけどきつとそれは無いだろうな・・・そんなことを思いながら我が子の中学受験は終了しました。

【運命の合格発表】

運命の2月5日、仕事でも落ち着きませんでした。心ここにあらず・・・結果は合格でした！急いで仕事を切り上げ、説明会に参加した父でした。頑張ったね、合格の可能性が少ない中でよく合格できたね。

【一難去ってまた一難】

我が家の受験はこれで終わりではありません。なんと子1が第一志望に行かないと言い出したのです。

子1「受験は合格がゴール！合格したからおしまいそのまま公立中学に行く」

父&母「くぁwせdrftgyふじこlp・・・」

これではまずいと思った母が機転を利かせてフンちゃんに面談を申し込みました。さすがに受験案内で鍛えた頭脳は抜かりなかった。フンちゃんから貴重なお話をいただき、最終的に本人次第です。その後数日で決めなければいけません。

期限が迫るなか、父はそこまでゴリ押ししませんでした。押し付けるのはよくない。むしろ反発されるだけだと思い、感情をぐっと押し殺し進路の話はしませんでした。

結果として第一志望に進学することが決定しました。ここでやっと受験は終了・・・ではありません。

どうしても富士見に入りたい母、繰り上げ合格を期待し毎日ホームページを見たり、いろんな塾の繰り上げ合格情報を調べるのでした。

母「検索、検索ウ!!!」

実際こんなこと言っているわけではありませんが、もはやディオにしか見えませんでした。それくらい行かせたかったみたいです。そちらについては残念ながらご縁はありませんでしたとき、おしまい。

【後日談】

東京学芸大学附属小金井中学校は制服の指定がありません。制服を自分で選ぶ形式です。なので気に入ったものを選ぶことができます。子1はそこまで乗り気ではありませんでしたが、選ぶのも楽しかったみたいでお気に入りを選んでいました。ネクタイの結び方を練習したり楽しんでいました。

また、附属高校への進学も可能なので、やる気を維持して受験後も少しではありますが勉強を継続できています。がんばれ子1！

【受験で効果的だった点】

1. 直前期の過去問を中心とした勉強

→過去問の出題分野を中心とした対策。過去問は3周くらいは出来たと思います。出来なかった問題は必ず予習シリーズやコアプラスに戻りました。また、過去問の間違った問題ノートを作成し、予習シリーズでどこを見直せばいいかも記載しました。これは父の作業ですが効率的に見直しを進めることができました。

2. 家以外で勉強する

→たくさん快活クラブに行きました。誘惑もありますが、家でやるよりも勉強の総量を確保することができました。家族がいると気が散ってしまうので、父→子1のサポート、母→家事という分担で挑みました。

3. 同じ過去問、問題集を2冊購入

→1冊は書きこみするもの、1冊は演習のため書き込まないもの。「中学受験漢字1580」とコアプラスはそれぞれ3冊ずつ買いました。

【こうすればよかったと思うこと】

1. 早期からの過去問対策

→受験校を絞る前の段階、小学6年生の4月くらいから過去問中心の勉強にした方がいいかと思いました。具体的には

①過去問を見る

②出来なかった問題の範囲を予習シリーズやコアプラスで勉強

この繰り返しでいいかと思います。これによっていろんな範囲が網羅されていきます。そして受験校の出題傾向に重みづけができるので模試の偏差値より高い学校に合格できる可能性が高まります。富士見は1月から過去問に取り組んだため、間に合いませんでした。

2. 学校見学

→我が家は学校見学はほとんど行きませんでした。こどもにどうしても行きたい学校があったわけではなく、現状の公立小学校の生活が楽しいのでモチベーションを保つことが非常に難しかったです。

3. 教えすぎないこと

→塾に頼りましょう。親がある程度勉強できると、「どこが分からないか分からない」や「問題文に書いてあるまんまじゃん、そのとおりに書けば答え出るじゃん」とついつい言ってしまうがちです。親子関係の悪化につながります。また、中学生以上の解法を教えたくなくなります。理系のお父さんは特に要注意だと思います。連立方程式なら簡単に解ける・・・行列式ならもっとコンパクトになる・・・気持ちはわかりますが脳内に止めておきましょう。

【最後に】

あまり中学受験に熱心ではない親&動機付けの弱い子という組み合わせの我が家でしたが、アントレにお世話になったおかげである程度結果が残せたのではないかと思います。ありがとうございました。そして文中ではひたすら受験案内をひたすら読んでいた母ですが、実際はお弁当づくりや塾のプリントの管理など、多大なサポートをしていたことに感謝します。(決して書かされているわけではありません。)

そして中学受験はあくまでも過程であり、これからも勉強をしていく必要があります。これからも形は変われどサポートしていきたいです。

A・Kくんのお母様

ラーメン、肉うどん、ハヤシライス、親子丼（手を付けず）うなぎ丼・・・
これは2月1日から5日の我が家の受験息子の朝食です。息子は受験した学校から全然合格がもらえず2月3日まで全落ちというとても厳しい状況でした。試験会場に行きたくないと泣くこともありました。あまりにも厳しい5日間でしたし、4日連続の午前・午後受験は親子ともに相当ハードなものでした。

息子は4人兄弟の末っ子で上の兄弟もみな私立中に進みました。その流れで甘えん坊の末っ子の息子も中学受験へと足を踏み出すのは普通の流れでした。小4～小5の夏休み前までは親の言うことも聞いてくれるし、スムーズでしたが小5の夏休み以降は口を出すと嫌がられるのでなるべく口と手を出すのを控えて見守る方向、そして自分で気がついて修正をしていってほしいと思っていました。でも楽しいことが大好きで気持ちが幼い息子にはそれはとても難しいことでした。

この学年はコロナの影響を強く受けました。中学校の文化祭、学校説明会どれもが縮小されオンラインになり、子供がリアルな中学校生活やその学校を知る機会がとても限定的になっていました。息子にとっての志望校とは自分の塾のクラスでいえばこれぐらいの学校、偏差値ではこのあたり、受かる学校でいい、という感じで『どうしてもこの学校に行きたい！』という憧れの志望校を持つことが出来ませんでした。これが彼の受験をとっても難しくしました。

息子は息子なりに受験勉強を頑張っていたとは思いますが彼の中では「小学校の友達みんな毎日遊んでいるし、サッカーもゲームも自由にしている。それなのに何で自分だけ我慢しなくちゃいけないんだ。」と自分だけが我慢をしているという所にばかり執着して受験というものを自分事として捉えることが最後まで出来ませんでした。そんな彼にとっての受験勉強とは『とにかく速く解く』そこに集約していました。そして速く解くためにその過程がどんどん雑になっていきました。私はいつも「丁寧に、確実に。」と話し、その重要さを伝えていましたが息子に響くことはありませんでした。とにかく速く解くという彼の妄信は受験勉強だけでなく小学校生活にも影響がでていました。学校の宿題が雑になり、クラスメートが当たり前に行っていることをやらない。たとえやったとしても乱雑でかたちばかり。そういう息子の態度を見るにつけ、このままでは世の中を舐めた人間になってしまう。この子のためには中学受験をやめてでも当たり前のことをきちんとかなす生活態度を身に付けさせることの方がずっと大切なのではないか、と小6の夏まで中学受験をさせるべきなのか本気で悩み過ぎました。

こどもが勉強をしているのかどうか、というのは親なら子供の目つきを見ればわかります。この子の目つきが変わることがあるのか。それはいったいいつなのか。本人に委ねるしかありませんので潮目が変わるのを待つしかありませんでした。そしてこの子は変わらないかもしれないと思うときが多かったです。

そして、その時が来たのは2月4日の午後受験に向かうときでした。（親としては受験勉強の期間にその時が来てくれればと思っていましたが）受験勉強の期間ではなく受験の連続不合格の最中に突然来たのです。

「俺さあ、フルコンボだぜ〜。」

「あ、間違えた。フルボッコだぜ〜！」

合格がないこの状況においてかなり自虐的な言葉なのに彼の表情も言い方もとても清々しいのです。それまで彼が纏っていた何かが入れ替わったように感じました。

その日の受験結果は見ないでもう寝ると息子が決め、合否のわからないまま受験最終日の2月5日を迎えました。前日と打って変わって朝食もしっかり食べアントレの応援 ZOOM でまた力をもらいました。いい緊張はあるものの、油断すると不安が湧いてきてしまうようでした。電車の中、駅のホーム、受験会場に入る前、息子は今朝の先生方との ZOOM を録画したものを何度も何度も見つめ、先生方の言葉の一つ一つを噛み締めているようでした。そして最後の試験が終了しました。弟のことを心配していた兄も一緒に迎えに来てくれました。息子がいちど食べてみたいと言っていた一蘭でラーメンを食べ替え玉もして、ヨドバシカメラに行き見たかったゲームソフトを見たりしました。自由時間を存分に満喫することに慣れていない息子の目はキョロキョロしていました。兄はそんな弟の後ろにずっと付き添ってくれていました。

息子は最後の最後まで受験というものをやりきってくれましたし、厳しい状態の中でこれだけ走り切れるならこの子はどの中学校に行ってもやっつけていける。親をそういう気持ちにさせてくれるぐらい息子はよく頑張ってくれたと思いました。

「昨日の合否はもう見ない。今日の結果しか見ない。」そして5日夜、成城中学校から合格をいただくことができました。息子と家族はもちろん、アントレの先生方も本当に喜んでくださいました。

受験には合格と不合格があるという事実を知らなかった息子がたくさんの不合格というとてもつらい経験をしました。心が折れそうな場面も何度も何度もありました。号泣してアントレに駆け込み、受験の移動の合間には電話でタケノコから励ましの言葉をもらい、朝の応援 ZOOM で気持ちを引き締める。結果としては合格を頂きましたが、合否にかかわらず『最後まであきらめないでやり抜く。』そして『自分には応援してくれるたくさんの人達がいる。』と感ずることができた今回の貴重な体験は息子の今後の成長に大きなものを与えてくれるだろうと思っています。

親として4回目の中学受験を経験しましたが、最後の中学受験で親も子もこんなに成長させてくれる機会を与えてくださったアントレの先生方には本当に感謝しております。これからもアントレのサポーターとして陰ながら応援させていただきます。8年間どうもありがとうございました。

I・Sさんのお父様、お母様

● アントレについて

アントレに通ったことでの一番の成果は、第一志望校から良い結果が得られただけでなく、自ら目標達成のために主体的に勉強する習慣がつくようになったことのように思います。約2年半、1度も通塾を嫌がることなく、学校よりもアントレが楽しいと言うほどでした（学校も楽しく通っていましたが）。学校の担任の先生から「塾に通っているの？」という質問された際も「塾っていうか、そういうんじゃなくて先生のことをニックネームで呼んだりするところ」と担任の先生を混乱させるような返答をし、いわゆる「塾」とすら認識していないくらい楽しめたことは本当に有難いことでした。

1月下旬の受験間際に国語の過去問をやった際「問題文が面白くて、つい2回読んでしまったから最後まで出来なかった」と言い出し唖然としましたが、翌日の授業前に「問題文が面白くて2回読んで時間が足りなくなっちゃうのはどうしたらよいか」と質問したようで、そんな素っ頓狂な質問をしても良いと思えるくらい質問しやすい雰囲気を作ってもらっているのだなと思います、改めて感謝したいと思います。

● 我が家のスタンス

両親ともに本人に過度な負担をかけ、学ぶことにネガティブになるような受験にはしたくないという共通した想いがありました。本人がやりたくないとなれば途中で断念するというスタンスでした。その上で親として以下を心がけました。

➤ 主役は受験する本人。本人の意向を尊重する。

➤ 「勉強しなさい」と言わない。やるべきことは具体的に伝える。

私自身が小学生のときに思っていたことですが、実は何を勉強するかわかっていないから勉強しないケースが多かったので、必ず「何時からスタートする？」とか「今日は何の勉強しようか？」という声をかけるようにしました。やはり「何すればいいの？」ということもあり、そのときは一緒にやることを相談して決めていました。

➤ 結果にフォーカスしない

これも私が小学生のとき「できていないじゃない！」と言われても、見たままのことと言われてもなあ、と全く響いていなかったのでも無駄なことだと思っていました。そのためなるべく、次どのようにするかに目を向けるようにしました。

➤ 「生兵法は大げがのもと」を肝に銘じ、アントレを活用する

まず父親の中学受験体験は遥か30年以上前であり且つ結果も誇れるものでないため素人であるという自覚を持ちました。家では主に算数・社会を担当していましたが、一緒にやる時や質問をされたときも必ず白板ノートや予習シリーズの解答を父親が読んで理解できたもののみを、その解法に則り教えるようにしました。確信が持てない問題は「パパもよくわからないからアントレで聞いて」としました。これは知ったかぶりした人から教わることほどわかりにくいものはないからです。また勉強法や教材等もインターネットの情報でいくらでもあります、必ずアントレから勧められた方法や教材を最優先に選択しました。

● 入塾後のクラス推移

4年生の2020年6月中旬にCクラスからスタートし、9月頃にBクラス、新5年の春期講習からAクラスになりました。その後、国語のみA→S→A→Sと変遷しました。

入塾後、初めてのまとめテストで洗礼を浴びて、両親で予習に関与することにしました。算数の予習は例題の解答部分を隠して一緒に解くところから始めました。例題・類題がようやく終わり基本問題までやるとほぼ土曜日半日かかるので、これは大変だなと思いましたが、こうやって一緒に勉強できる期間も貴重だなと思直し、習慣化することが

でき6年生前半まで続けることができました。

● 合不合判定テスト

6年生になるまで模試を受けなかったことは結果的に良かったと思います。模試の偏差値に左右することもなく、志望校選定や家庭学習ができたと思います。

4月から計6回受験しましたが、4科目偏差値51~57の幅で推移しました。模試結果の解釈についてはタケノコ先生に尋ねるようにしました。途中苦手な理科で30程度の偏差値を叩き出したときも、「社会は出来ているので、ここから基礎をしっかり積み上げれば理科はまだ間に合います」とのアドバイスをいただき、持ち直しました。

模試の結果については正答率の高い問題を落とさないことに注力し、可否の可能性については入試演習クラスの結果を目安としました。

● 家族のサポート

- ▶ アントレの保護者会、面談で説明された勉強法は必ず取り入れることとしました。
- ▶ 「白板ノートの復習2連勝ルール」は、娘の場合「解答の式」を視覚的に覚えてしまうことも多かったため、両親が問題を別の紙に転記して、それを解きなおすようにしました。
- ▶ 漢字やシリーズ計算の問題も間違えた箇所を集約した問題を仕事の合間にせつせと作成しました。
- ▶ 新6年生になる春休みに角川の「日本の歴史」のマンガを与えたところ大ハマりし、歴史が得意分野となり、社会を得点源とすることができました。このお陰で理科の回みを社会でカバーすることが出来ました。
- ▶ プリント整理は、本人は完全放棄していたので両親で時間をみつければファイリングや、白板ノートに単元のラベルシールを黙々と貼りました。(これは終盤に苦手単元を克服するための勉強に役立ちましたので初めのうちからやっておくと良いと思います)
- ▶ 我が家は共働きですが「温かいお弁当の方がおいしい」との希望があり母親は帰宅後に弁当を作り、小学1年の妹を習い事から回収し、ダッシュで弁当を届けました。(それを見ていた妹はお弁当食べたいからアントレに通いたいと言い出しました)
- ▶ 姉が大好きな妹は、姉がリビングで勉強を始めると自らTVやゲームを自粛し、公文や読書、段ボール工作に黙々と励み、姉の勉強環境作りに大きく貢献しました。

● 志望校と結果

志望校は本人の希望でもあり私たちも賛同した「自由度が高く」「共学」「大学附属」という観点で5年生になるころには、中央大学附属中、法政大学中、明治学院中を志望校とし、最後まで変わることはありませんでした。途中で「みんな女子校受けるみたいだから、女子校も受けた方がいいかな」と言い出し、見学にも行きましたがやはりピンとこないようでした。またお友達の影響か明治大学明治中という話も出てきましたが、「〇〇ちゃんが明明の算数はめちゃ難しいって言っていたから私絶対ムリだからやめる」と早々になくなりました。問題の傾向も違うため、明大明治の対策をすることで第1希望の中大附属の対策が中途半端になることも予想されたため結果的には良い判断だったと思います。

- ▶ 1月10日 西武学園文理中 合格 (1/12も出願したが受験せず)
- ▶ 2月1日 中央大学附属中 合格
- ▶ 2月1日 PM 明治学院中 合格 (2/2も出願したが受験せず)
- ▶ 2月3日 法政大学中 出願のみで受験せず

- 親子共にアントレへの信頼が強かったため、本人もアントレで言われたことをそのまま聞き入れ愚直に進めることができたのが良かったと思います。受験前にアントレ鉛筆を大切に準備し、科目ごとに先生の鉛筆を使うんだと嬉しそうに話し、受験当日、少し緊張していたときも ZOOM 応援を終えると目に力が戻った程でした。第 1 志望校の試験会場から出てきたときに「算数は最近やった白板問題と似たのが出たし、社会もダンディが言ってた小麦の問題が出たし国語も理科も・・・」等と模試を通じても一番手ごたえを感じたようでした。

冒頭にも記載したように、楽しく勉強が出来たことは何よりも収穫です。そのような指導をいただいたアントレの指導員の皆様や共に学んだお友達に感謝申し上げます。現在小学 1 年の次女も受験にチャレンジする際はお世話になりたいと思います。上の子同様、幼く素っ頓狂な質問をするかもしれませんが、その際はぜひお願い致します。

U・Hくんのお母様

■ 中学受験に対して

受験を決めたのは5年生になる直前の冬でした。個性を伸ばせる環境で学び、将来の選択肢を増やしておきたいこと、地域の学校の在籍人数が極端に少ないため、コミュニティを広げておきたいこと、などが理由です。ただ、実は受験に対しては積極的ではなく、小学生にはもっと他にやるべきことがあるのではないか、という気持ちもあったのですが、今では受験をしてよかったと心から思えます。親子一緒に年単位で取り組むという経験は、これから先はそう無いでしょうし、目標に向けて努力することや、様々な感情と向き合った経験は、必ずこの先の財産になると思っています。

■ 入塾

いくつか塾の説明会に行った結果、親子ともアントレ以外の選択肢はありませんでした。入塾のタイミングをご相談したところ、いきなり新5年生のカリキュラムからスタートするよりは、通塾に慣れる目的で4年生の冬期講習から通うことを勧めていただき、算国2教科、Bクラスからスタートしました。

■ 道程

新5年生の2月からは4教科Aクラスに移り、3月から算国Sクラス、夏期講習から理科、社会もSクラスに移りました。少し自覚も出てきて、勉強の時間と遊びの時間を分けてちゃんと勉強しないとね、と言って自分でスケジュールを書きましたが、何とアントレは、遊びの時間に区分されていて驚きました。アントレは楽しいから遊びの時間、という理由でした。

<算数> Sクラス最初の白板は、マルが1つもありませんでした。次の授業は1つ。次第に半分くらいはマルがもらえるようになりました。最初は解けない問題にぶつかると苛立ったりしていましたが、次第に楽しんで問題を解くようになり、一番好きな科目でした。

<国語> やる気がでない時は(ほぼいつもですが)、私も同じ問題を解き、点数を競ったりもしました。最初の頃の記述テストは空欄も多かったです。読むスピードは私からみても早いものの、解答を組み立てる作業に時間がかかるようでした。加えて物語文の心情を答えるような問題には、だいぶズレた回答をしてしまうこともあり、精神的な幼さが影響するのであれば手の打ちようがないのでは？と不安がありました。ところが、授業でしっかりと文章の読み方を教えていただき、次第に書けるようになりました。6年生の春季講習の間は、授業で扱わなかったテキストの問題を全て自宅で解いたことで、次第に自信が持てるようになっていきました。

<理科・社会> 知識を定着させるための学習が難しく、予習で精いっぱいでした。自分なりの方法が見つければ良いのですが、この時期にそれは難しかったです。単元の興味の有無によっては、やる気もまばらで、私と一緒に予習をした時期もありました。手のついていないプリントも転がっていましたが、アントレの休み時間などを利用し、いつの間にか知識をため込んでいたようです。とにかく授業が面白く集中できたこと、精度はともかく、できなかった問題の復習は必ずしていたこと、などが次第に積みあがっていった感じでした。

家での学習時間は少なかったのだと思います。柏原先生からも少ないですね、と言われ、息子との2回の面談でも、もう少し勉強時間を増やそう、と伝えてくださっていました。息子はとにかく何か作ることが好きで、土日もしろんなことをしていました。6年生の春には庭づくりにはまり、植物図鑑や茶庭の書籍を読み込み、毎週のように苗木を買いに行っては植える、という日々がずいぶん続きました。加えて、夏には竹を鉋で割いて竹ひごを作り、

かごを編む、という恐ろしく時間のかかることにも取り組み始めました。

息子には、夢中になっていることはできる限り気の済むまで没頭させるようにしてきました。その時間がないとストレスが溜まり、結果勉強にも身が入りません。ただ、さすがに6年生の夏近くなくても休日でも正味2~3時間しか学習しない状態でしたので、柏原先生に面談をお願いしました。状況をお話したところ、「とても良いことだし、何でも勉強になるから、夏まではこのままで良い」と仰っていただきました。ただし夏期講習が終わったら一気に集中するように、というお話でした。

夏が終わると、本番まで本当に早かったです。あっという間に冬が来て、息子の勉強時間も次第に増えていきましたが、自分のしたいことを我慢して、気持ちをどう切り替えるかはずっと課題でした。タブレットで動画を見ることを封印してみたり、休み時間はタイマーをかけたり、家の周りを走ってみたり、と息子なりに工夫していましたが、喧嘩の種でした。そんな中、1月のZoom自習室はとてありがたかったです。画面越しでも皆さんの頑張っている姿を見ながらの学習は、各段に集中力が上がっていました。

■志望校

コロナ禍で説明会が縮小されており、判断材料は少なかったのですが、教育理念、授業の内容、大学附属校ではないこと、通学に時間がかかりすぎないこと、などがポイントでした。

武蔵中学は不動の第一志望でした。過去問の解説を読んでも面白く、こんな先生方から学べたらどんなに楽しいだろうと思えました。個性を認め合う文化が感じられ、息子の大好きな植物が敷地内に沢山あり、おまけに近い。何より「自調自考」という言葉が決め手です。

他、科学への取り組みが充実していそうな海城中学に惹かれました。説明会での生徒さんたちの様子も好ましく、息子の興味があることが盛り沢山でした。迷ったのがSSHであることから興味を持った小石川中学でした。都立は試験内容が違うため初めは考えていなかったのですが、自分のやりたいことを6年間を通して形にしていくカリキュラムは魅力的で、急に志望度合いがあがり、6年生の後半になってから一旦は受験を決めました。

■受験直前期

柏原先生に言われた通り、1月には前期の武蔵算数演習クラスの問題を全て解き直しました。できなかった問題もすんなり解けたことや、全問やり切ったことが自信になったようです。これまで白板を全問正解した日は無かったのですが、1月に初めて全問正解できたり、武蔵演習クラスの算数のテストは、最後の3回を連続して100点が取れ、横で見ている算数は仕上がったように思いました。

トラブルが起きたのは国語でした。冬季講習が終わった頃から、なぜかできなくなったと自信を無くしてしまい、軽いスランプのように見えました。武蔵演習クラスで扱った過去問を解き直し、前回より少しでも点数が悪いとまた焦るという状態で、国語ばかりを演習しており、私が他の教科の勉強を勧めても聞き入れません。自信がないまま本番を迎えることだけは避けたく、柏原先生にお電話で相談したところ、天野先生と息子が直接話す機会を作ってくださいました。取り組み方を具体的に教えていただき、本当にありがたかったです。最後の受験となった海城中学では、国語がよくできた、と言って出てきました。受験期間中も成長すると聞いていましたが、その通りでした。

もう一つ直前で慌てたことは、入試本番10日前になって、2/3は小石川ではなく海城を受験したいと言い出したことです。都立の適性検査は出来具合が判り難かったこともありますが、実は本気で決め切れていなかったようで、いざ本番となって、息子なりにもう一度考えたようです。海城の出願期限は2日後に迫っており、またもや柏原先生にお電話させていた

できました。試験内容ではなく、本人が通いたいかどうかで決めるなら今からの変更も有りでしょう、と仰って、授業後の22時近い時間にもかかわらず、息子と直接電話で話し意志を確認してくださいました。おかげですっきりした気持ちで海城の受験を決めることができました。本当に先生には感謝しかありません。

■受験当日

<1/10 栄東中学 A 日程：東大クラス合格>

一番初めの受験でした。親としても当日の準備に緊張しました。受験票の印刷や持ち物、当日の朝食、持たせる飲み物、など細かなことが気になるものです。珍しく車での送迎が認められていましたので、コロナの感染者数が増えていたこともあり、車で向かうことにしました。朝食はこれまでアントレに通うときに持たせていたお弁当と同じものがないとの息子のリクエストで、朝からお弁当を作り、車中で食べました。

<1/12 栄東中学東大特待：3年特待合格>

この日を受験するかは悩みました。本番前の練習として、もう一回受けるべきなのか、柏原先生にご相談したところ、もし、他に合格が無かった時に通う気があるかないかで決めるのが良い、と言われ、確かに通学したい学校を受験する、というのが本来でした。結果は予想以上で、3年特待で合格をいただき、2月に向けてのはずみがつきました。

<2/1 武蔵中学：合格（進学先）>

やはりこの日が一番緊張していました。柏原先生との面談時に書いていただいたメッセージカード2枚と、アントレの先生方の寄せ書きシールをお守りにしてバッグに入れ、武蔵演習クラスで花マルをもらった算数の問題を1問、最後に解いて家を出ました。

到着後、言葉数も少ないまま、あっけなく校舎に入っていました。試験終了後開口一番、「できなかった、だめかも知れない。」ここから、合格発表までの時間は本当に長かったです。どうして緊張をといて送り出すことができなかったのか、とか、もっとこうしておけば良かった、とか、2年間を振り返った後悔ばかりが押し寄せてきましたが、アントレの武蔵演習クラスでの合格率が一番信頼できる、という先生の言葉を信じて待つのみでした。後になって回答速報を確認してみると、ちゃんと出来ていたのですが、ちょっとした不安や引っ掛かりをととても大きく感じていたようです。

<2/1 午後 巣鴨中学(算数選抜)：合格>

武蔵の受験後で、気持ちが保てるかどうか心配でしたが、終わって出てきた時には「1問だけ不安だけど、たぶん全部できた。合格できると思う」と言いました。おまけに先生も生徒も親切だったし、すごく気に入ったとのこと。合格していたら明日2/2は受験しないで休み、2/3に備える、という気持ちになってしまいました。もし残念な結果だったら翌日は城北、合格だったら本郷を受験する計画でした。柏原先生に相談しようということでお電話したところ、予定通り受けたほうが良い、明日本郷に行ったら本郷も良くなるかもしれない。合格して2校並べてから決めたほうが良い、とのこと、確かに、仰る通りです。だいぶ疲れて休みたくなっている気持ちもありましたが、夜10時に合格を確認し、翌日は本郷を受験することにしました。易きに流れそうになったのを引き留めていただきました。

<2/2 本郷中学：合格>

校庭で受付の列に並んでいる時に、「本郷の問題ってどんなのだっけ？」と言い出すまさかの事態にかなり焦りました。スマホで過去問を検索して見せましたが、ここでもまた一気に不安が押し寄せました。本当に、本番は何が起こるかわからないと実感しました。

<2/3 海城中学:合格>

最後の受験日であり、武蔵の合否発表の日です。息子が朝食を食べながら、「全員受かるといいね」とつぶやいたのを聞き、ここまで取り組んできて本当に良かったと思いました。

10日前に受験を決めたので準備には時間がかけられませんでした。この最後の日に初めて、算数は時間配分に気をつける、国語はこういうふうにする、などと気をつけることを自分から私に話し、「頑張ってくるね」と言って校舎に入っていました。

その姿を見て、私も初めて、今日はきっと大丈夫、合格できると思いました。翌日、合格を確認して息子の受験は終了しました。

■終わりに

コロナ禍での受験は気を使うことも多かったですが、テレワーク環境が一気に整い、平日もほぼ両親のどちらかが在宅勤務をしている環境ができたことは幸運でした。この状況がなければ、受験は難しかったかも知れません。お弁当を持たせてアントレに送り出すことができたことは、とても大きいことでした。半年ほど、父親が毎日出勤せざるを得なかった時期があり、この時は冷蔵庫に入れておいたお弁当を、息子が温めて持って行っていました。一度温かいまま蓋をしたので開かなくなったことがあります。天野先生がアントレカードを隙間に差し込んで開けてくださったとのこと、アントレはカードも万能でした。

私が会社に出勤する週に3日程は、息子が就寝してからの帰宅だったため、出勤前に今日やることを教科別書き出し、一言添えた手紙を書いて置いておきました。

息子は終わったことをチェックして、私に一言書いておくのが習慣となり、帰宅後、息子が書いた今日一日を読むのが楽しみでした。そして終盤は、私がスケジュールを書くのではなく、息子が自分で決めて書くようになっていました。

過ぎてみればあっという間の2年間でした。本当にアントレの皆様にはお世話になりました。息子は先生方が大好きなのに、緊張するので、質問に行くこともほとんどなかったようです。ただ、困った時には必ず応えていただけるという絶対的な信頼と安心感がありました。これは息子の学習面だけでなく、親としての気持ちを決めていく中でも、大変にありがたいことでした。

受験会場では、小さな子ども達が親御さんと離れて次々と校舎に入っていきます。この光景は一生忘れられないものとなりました。これから先、息子がしっかりと自分の道を歩いて行くことを願うばかりです。ここまで連れて来てくださった柏原先生はじめアントレの皆様に、心より感謝申し上げます。これからの益々のご発展をお祈りしております。ありがとうございました。

U・Hくんのお父様

中学受験を無事に終え、おかげさまで息子は第一志望校に合格することが出来ました。これもひとえにアントレの先生方の情熱溢れるご指導によるものと心より御礼申し上げます。

漠然としか考えていなかった中学受験に向け息子がアントレに入ったのは小4の冬でした。それまでは大手塾の全国模試を受けてみたことはあっても、受験に向けての勉強をしたことがなく、まだ具体的に考えることができていませんでした。2020年ちょうどコロナが流行り出したことも影響したと思います。よりどころが無いまま塾探しを始めた頃、近くにアントレという評判が良い進学塾があるということを知り、入塾の話を行いました。

ニックネームで先生を呼ぶというユニークな授業運営と、個人情報盛りだくさんの印刷物“受験体験記”を手渡され、胸を熱くしその場で入塾をお願いしたことを昨日のこのように覚えております。

短いようで長かったアントレでの2年間。中学受験がこんなにも大変なことだとは知りませんでした。息子の場合は、初めはテストの出来にムラも多く、結果が良ければ勉強しなくなる、という悪いサイクルに嵌っていたこともあります。怒ったこともありました。

親もブレるもので、勉強ばかりしている息子の姿を見ると、こんなことをさせてよいのかと中学受験に対する気持ちが萎えたこともありました。それでも息子が取組んでいる姿が、時間の経過と共に中学受験への覚悟を決めさせてくれたのかもしれない。

正直、一人っ子でおっとりした息子がここまでやるとは思っていませんでした。試験直前は大人にも勝るとも劣らない勉強っぷり、気迫でした。

私も随分と先生方のニックネームを覚えました。フンちゃん、カッシー、タケノコ、ダンディー、プーさん、モモタロー、ピーちゃん、ムーミン、そしてスケルトンにポッキー。恐らく息子はアントレで一生忘れることのない恩師に出会えたのだと思います。

本当にお世話になりました。ありがとうございました。

U・Tくんのお母様

1月に入ってからの、あの緊張と不安の日々はただただ長く感じられ、でも終わってしまえば、本当にあつという間の1カ月でした。今日も息子は、「ただいまー」と帰って来るや否やランドセルを玄関に投げ、「いってきまーす」と元気に友達と遊びに出かけて行きました。そんな平和な日常が戻ってきたことに、今はほっとしています。

ずっと参考にさせていただいていた受験体験記、我が家のことが少しでもアントレの皆様のお役に立てれば幸いです。

<入塾前 3年生>

いくつかの文化祭に出かけ、そこで親子共に武蔵が気に入り、最終的に武蔵を目指せたらという思いで塾を探しました。ネットで検索していく中で柏原先生のブログを見つけ、こういう塾に通わせたいと思うようになり、大手塾のように毎月細かいクラス分けもなく、小規模でアットホーム、武蔵に強いということで入塾を決めました。

<4年生>

Aクラスでスタートしました。はじめどう進めていけば良いかわからず、毎日これはいつやろう、あれは今日やらなければならないかなと親も子も手探り状態でした。しばらくして塾の流れがだいたいわかった頃、一週間単位で“何曜日に何をやる”という表を息子と作りしました。その表を見て、「今日はこれが終わったから、あとは好きなことをしていて大丈夫」などとわかるようになりました。毎日の課題を可視化したことで、自分の勉強を自分で管理しやすくなりました。このやり方で、半期ごとに一週間単位の表を6年生までずっと作っていました。課題をやっていないければ、アントレで恥ずかしい思いをしたり、解けずに悔しい思いもする、課題が終わっていれば、○やハンコがたくさんもらえる、チームが勝ったりする、そういうことを学びながらアントレの授業の進め方が息子のやる気を引き出してくれていました。

親としては、算数の予習時の○付けとわからないところはないか確認、国語の直しはみるようにしていました。理社は本人にまかせ、やっているかだけ声をかけるようにしました。

<5年生>

Sクラスでスタートしました。やるべきことがぐっと増え、今まで確保できていた自由時間が少なくなっていく、息子の苛立ちがつのっていくのが見てとれました。

そういう中で、初めて参加した夏期講習、毎日毎日通う講習になんとかついていったものの、講習が終わって間もなく後期の授業が始まった時、息子のやる気は一気に落ちてしまいました。「夏こんなに頑張ったのに、また後期がはじまる。もう疲れた。勉強したくない」燃え尽き症候群のようになってしまいました。夏、頑張りすぎてしまったのです。頑張らせすぎてしまいました。親としてどうしたらよいかかわからず、柏原先生に初めて相談に行きました。先生に伝えると、6年生の夏までのんびりしていても武蔵に間に合うから大丈夫ですよと仰ってくださいました。その時は正直半信半疑でしたが、そう仰ってくださいましたことで心の余裕ができました。気分転換させたいので1、2カ月休ませようか迷っていると伝えると、1、2カ月丸々休んでしまうと、6年になって履修していない範囲が出てきたときに、焦りやとまどいにつながるので、ただ授業にでるだけで良いので通ったほうが良いですよと言われました。帰って息子にそのことを伝え、課題を必要最小限に減らし、やらないことを決め、息抜きを入れながらオーバーワークにならないよう注意して見守るように努めました。

5年生は内容が本当に盛り沢山で、全部やろうとすると負担が大きすぎることに、また受験は長期戦であることを実感した一年でした。

<6年生>

Sクラスでスタートしました。通常授業に加え、武蔵算数を受講し、今まで以上に時間がなくなっていました。

この頃になると算数の難易度が上がり、私がわからないところを教えてあげることもできなくなり、息子が答えと違う解き方をしていると、それで合っているのか判断できなくなりました。そのため個別をお願いし、主に算数をみていただきました。個別の住田先生には最後までお世話になりました。問題の本質まで深く掘り下げて教えて下さり、息子にとって少し上のお兄さんと勉強する個別の時間は、とても楽しく充実した時間だったようです。6年生になると、4月と7月に合不合テストを受けます。それまでアントレ内の立ち位置しかわからないままでしたので、正直どんな結果が出るのか不安でした。スピード勝負の答えのみの算数は苦手ミスが出たものの、4月1回目：69.0、7月2回目：71.9と予想をはるかに上回る成績に心底びっくりしました。判定は、武蔵80%、筑駒30~60%でした。アントレにこのままついていけば、十分武蔵はねらえるのではないかと思った瞬間でした。

夏休みに入る前に、ずっと続けてきた空手とピアノをお休みすることにしました。

勉強一本でむかえた夏期講習、他の科目は安定していましたが算数が大変なことになりました。5年生くらいからケアレスミスが目立つようになり、注意していましたがなくなり、とうとう夏期講習で爆発しました。最終テストでは初の最下位57点をたたき出し、家で大泣き。やっと本人がミス対策を徹底的にすることを決意しました。

- ・旅人算で、「兄が5分休み～」と書いてあったら必ず見落とす
- ・「どれも必ず1個は使うものとして～」という「0はなし」という条件はまず見ていない
- ・小さい正方形があれば、どんな時も1cm四方だと勝手に設定
- ・平面図形に円ができれば、周の長さを聞かれていても面積を答える などなど

あげたらきりがないうまででした。

我が家ではミス対策として、

- ・見落としそうな条件には読みながら○をつける
- ・○をつけたことは、余白に整理して書いておく
- ・読み終えて整理したところまで” ”をつける
- ・答えを書く前に、条件整理した内容とあっているか確認する

はじめは時間がかかり息子はとても嫌がりましたが、慌てて解いて不正解では意味がないことを言い続けました。そして少しずつ短時間でできるようになり、ここまでやってやっとミスが格段に減っていきました。

秋以降、志望校対策は武蔵と筑駒に絞りました。通常授業に加え過去問対策とかなり忙しい毎日となりました。各科目の点数と年度を表にまとめながら、少しずつ進めていきました。

<入試本番>

- 1月11日：栄東A日程 東大クラス1年特待合格
- 1月12日：栄東東大特待I（4教科型）東大クラス3年特待合格
- 2月1日：武蔵中 合格
- 2月2日：本郷中 合格
- 2月3日：筑駒中 不合格

1月は2日連続で受験することで、2月に備えました。栄東中での経験は2月に生かせ、またここで合格をもらえたことで、大きな自信につながりました。

武蔵中では、算数の自分の解答に自信が持てず不安になっていた上、なんと国語でサピックスの武蔵模試と同じ問題が出るという奇跡がおこりました。しかし息子は解き直しをしておらず、点差を大きくつけられたと肩を落としていました。結果合格でしたので良かったので

すが、もしたしたら落ちたかもと親子共に不安な3日間を過ごしました。
本郷中は、元氣なく向かいましたが合格をその日中にもらえ、自信を取り戻しました。
筑駒中は全力でのぞめました。本人は受かったと思ったようでしたが残念。数日落ち込んで
いましたが、今は武蔵での新しい生活を楽しみにしています。
喜びと悔しさの両方とも味わった中学受験。きっとこの経験は息子の今後の人生のプラスと
なることと信じています。

<振り返り>

振り返ってみると、アントレについていくのに精一杯の3年間でした。でも、どの教科にお
いてもアントレについていくだけで（そもそもそれが大変なのですが、）最高レベルの問題
が解けるようになりました。それくらいどの教科も質が高く、内容が濃い授業です。アント
レを信じて、安心してついて行ってください。

アントレの先生方にはここまで息子を導いてくださったこと、本当に感謝の気持ちでいっぱ
いです。そして一緒に切磋琢磨したお友達の皆さん、お友達がいてくれたからこそ息子もこ
こまで頑張ることができました。本当にありがとうございました。

ますますのアントレのご発展をお祈り申し上げます。

E・Yさんのお母様

受験体験記を書くにあたり、私が伝えられることは何だろう・・・と考えましたが、私ほど低レベルなことで悩んだ親はいないだろうと思います。これから受験を迎える皆さんにも様々な悩みが出てくるとは思いますが、娘のエピソードを見て「うちの方がまだマシだわ」とご両親の励ましになってくれればと思います。お子さんが読んだ場合は絶対にマネしないでください（笑）

※先生のお名前は親しみを込めてニックネームで書かせていただきました。

敬称略とさせていただきますがご了承ください。

【娘の生態】

- ・いい意味でも悪い意味でもマイペース
- ・勉強机に向かっている時間は長いですが、集中して勉強している時間はとっても短い
- ・鋼メンタルで緊張知らず！！
メンタルはデカッチョに鍛えられたと言っています（謎）
- ・すねると機嫌を直すまでに1～1.5時間はかかる
- ・競争が好き♪
アントレのチーム戦やドン！は娘の性格にハマリ、「今日はドンで1位獲った！」
「チーム戦勝ったよ！！」と毎回嬉しそうに報告してくれました^^
- ・自他ともに認める歴女（歴史の知識はマニアック）
- ・本が大好き！速読にも自信あり！！（でも国語の成績は…）
- ・ここぞという場面に強い！！
ピアノを習っていましたが、発表会で過去1番の演奏ができるなど、本番の強さは持っていると思います。この本番の強さは入試でも発揮してくれました^^

【悩んだこと】

◎とにかく頑固◎

変なこだわりがあり、「テキストが汚れるのはイヤ！」とあって重要箇所にマーカーで線を引いたりする作業は絶対にしませんでした。国語の読解でも、読みながらしるしをつけたりはしませんでした。これが原因なのか国語の成績が伸びることは最後までありませんでした。

国語に関して言えば、予習の音読は一度も声に出して読んだことはなく、復習の解答用紙への解き直しもやらなかったのも、ほとんど提出できていません。ムーミンにも相談させていただき、復習でやる問題を絞ってもいいからと言っていたのですが、それでも変わりませんでした。

算数も先生のアドバイスを聞かず、6年生になったら4科のまとめを進めていくように言われましたが、「4科のまとめの問題はつまんない！」と言ってまともに取り組もうとしませんでした。結局4科のまとめの代わりに4年～6年の白板問題をやっていました。

カッシーがTwitterで「最後は素直な子が伸びる！」とあっていましたが、素直に先生のアドバイスを聞き、食らいついてやり切ろうとする子がうらやましかったです。

らっきょに4科のまとめをやらぬことを相談しに行ったときに、冗談まじりに「娘さんには問題を解かせていただいているという『謙虚』と『感謝』の気持ちが足りないですねえ」と言われたことがありましたが、この2つのキーワードは事あるごとに「あっ！また『謙虚』と『感謝』がなくなっているよ！」と家でも使わせてもらいました（笑）ヒトの性格はそう簡単に変わるものではないと思うので、この先も娘の人生のキーワードになりそうです^^;

◎極度の面倒くさがり◎

せっかく宿題やチーム戦でハンコをもらっても、ハンコ台帳に書くのが面倒くさいと言って書かず、ノートが欲しいときだけつじつまを合わせるようにハンコを書き込んでいました。(娘に代わって謝ります。ごめんなさい…)

また、予習・復習の漏れがないようにToDoリストを作っていましたが、終わっても消し込みをしないので完了・未完了事項を確認できませんでした。

面倒くさがりで一番困ったのは、算数の白板問題で自分がマルをもらおうと解説を書いてこなかったことです。ノートについては、問題文の写し間違いがあったり、途中までしか書いていなかったりしたことも悩みの種でした。「次にアントレに行ったときに先生に聞いてきて！」と言っても質問に行かず…仕方なく毎回私が白板ノートを確認し、娘が書いた式や解説欄を見ながら「もしかしてこういう問題だった？」と聞いてパソコンで再作成したり、解説がない問題については授業を再現してもらって、私が解説を書き加えたりしていました。

パソコンで再作成した白板問題は、まとめテスト前の復習や6年生になってからの基礎固めとして何度も使用しました。また、ズルして答えを見ることができないのもよかったのですが、「ちゃんと授業中に書かないと自分が困る」という経験をさせることはできず、何より私の負担が大きかったので、娘のような問題がある方以外にはお勧めしません。

◎時間の使い方が下手◎

気圧の変化による頭痛持ちで、朝起きたときに「頭痛い…」「だるい…」という日があり、朝のうちに漢字練習や計算問題などをやる予定を立てても思うように進みませんでした。

体調に関しては仕方ない部分もあるとは思いますが、朝できなかつた分を塾がない日や土日にやろうとしないので、手つかずのものが溜まる一方で、学校を欠席した日になんとか穴埋めをしている状態でした。

集中力のなさも問題で、「このプリントは〇分でやろうね！」と声掛けしてもタイマーをかけず…しぶしぶタイマーをセットしたとしても、その時間内に何とか終わらせようとするのではなく、ダラダラとやるが多かったです。

◎サボり癖◎

私の不在時に学校のタブレットでマンガやYouTubeを見ていたりしたのは本当に悩まされました。テレビのリモコンやゲーム機は隠し、家のPCやタブレットはパスワードロックして使えない状態にしていたのですが、学校のタブレットについては宿題で使用することもあるので、対策することができませんでした。

6年の冬期講習直前、らっきょと受験校決定の面談をしているときも、「他の子より過去問の進み具合が遅いし、かなりまずい状況です」と言われている裏でマンガを読んでいたのが、怒りを超えて情けない気持ちでいっぱいになりました。その日の夜、娘に面談の内容を伝え、まずい状況だということも理解してもらえたはずなのですが、翌日も4時間もマンガを読んでいて…このときは本当に受験するのをやめた方がいいのではないかと思います。

何度注意してもやめる気配はなく、最終的には学校の先生に「帰宅後はタブレットを没収することにしたので、家ではタブレット使用の宿題はできません」とお伝えしました。

【志望校の最終決定】

上記面談のときまで、第1志望としていたのは《中央大学附属中学校》です。中大附属

は図書館の充実度と学校や生徒達の雰囲気アントレに似ているという理由で気に入っていた学校でした。でも、校則がほとんどなく自律が求められる学校でもありました。

6年生の12月という直前期であっても自己統制することができずマンガやゲームから離れられない娘が中大附属に入った場合にどうなってしまうのか、不安しか感じられなくなり、過去問の結果を見ても合格最低点を越えることができていなかったため、受験スケジュールを変更することにしました。

当初の受験スケジュール

2月1日	午前	中央大学附属
	午後	山脇学園（算数1科）
2月2日	午前	國學院久我山（CC）
	午後	山脇学園（2科）
2月3日	午前	明治大学附属 中野八王子
2月4日	午前	中央大学附属

⇒ 変更後

2月1日	午前	明治大学附属 中野八王子
2月2日	午前	國學院久我山（CC）
	午後	山脇学園（2科）
2月3日	午前	明治大学附属 中野八王子
2月4日	午前	（明八か山脇が◎なら） 中央大学附属
2月4日	午前	（明八も山脇も×なら） 山脇学園（4科）

中大附属を受験校から外してしまおうかとも思いましたが、外すことによって完全に戦意喪失してしまったらどうしようという心配もあったので、明大中野八王子か山脇学園の合格を勝ち取ったら、2月4日の中大附属に挑戦できるということで話がまとまりました。

【入試直前の状況と対応】

1月はコロナの感染予防と今までの遅れを取り戻すため、完全に学校をお休みしました。1月受験校で合格をいただき、「2月校もこの勢いで獲るぞー！」と気持ちを高めて、『理科1日1単元攻略&算数の白板問題攻略（特に速さと図形）』を目標に進めていくことにしました。体を動かす時間を作ったりもして、メリハリある過ごし方ができたかなと思うのですが、相変わらず私の不在時は2時間近くマンガを読んでいることもありました。

1月26日、もう2月入試まであと5日しかないというときに、通過算の問題を解いたら、普段間違えないような時速から秒速への変換を間違えていて、それを指摘しただけで泣き出してしまいました。あまり緊張や不安を表に出すタイプではないので気付かなかったのですが、娘なりに不安を溜め込んでいたのかもと思い、ちょっと買い物に連れ出してリフレッシュさせることにしました。家に帰って間違えた問題を見たら、「あれ？何でこんなところで間違えたんだろ？めっちゃ簡単じゃん！」と言ったので、ホッと一安心したのを覚えています。直前期、親の最大の仕事はメンタルケアだなと思いました。不安を溜め込んだまま本番を迎えていたらと考えると今でもゾッとします。

ひとヤマを越えて、いままでさんざんサボったけれど今度こそラストスパートだ！と思った1月27日、またしても4時間YouTubeを見ていたことが発覚しました。これはショックが本当に大きかったです。

『うちの子は最後の数日ですら歯を食いしばって頑張ることができないのか…』

もし真剣に受験に向き合うことがないまま合格してしまったら、この先の人生もテキトーにやれば何とかかなると思ってしてしまうかもしれない…

2月校を全落ちした方が「もっと頑張るべきだった」と気付く機会になるかも…』と本当に思い悩みました。

アントレの最終授業の日だったのですが、授業前にらっきょに電話して相談させてもらいました。過去にも同じような塾生がいたようで、その子の保護者は合格校をけて公立

に進学させたそうです。話したことで少し冷静になって再度考えられるようになりましたが、娘の場合は頭痛による遅刻・欠席が多い、提出物の期限を守らないなど、内申点に不安があって中学受験を選択したという経緯があるため、公立に進学させるという選択肢はないと思いました。とはいってもさすがに今のままではまずい！と思い、娘がアントレから帰ってきてから、なぜ頑張れずにサボってしまうのか聞き出しました。娘の答えは…「勉強に飽きちゃった」と…

1月校で合格をもらい、入試演習クラスでも合格点を取れるようになり、自信がついたのはよかったです。更に上を目指すことができずに満足してしまっていたようでした。

結局この日は、志望校へ進学した後の楽しみだったり、将来のビジョンだったり、もう一度前を向けるように話をし、「どんな結果になっても後悔しないように最後の数日を過ごさない！」と釘を刺してあとは任せることにしました。

【入試結果】

1月10日 午前 西武学園文理(一般) 合格(特待A)
午後 西武学園文理(特待) 合格(特待C)

過去問でも毎回合格最低点は超えていたので、特待C(入学金免除)か特待A(入学金&1年分の授業料免除)を目指して受験しましたが、両方とも特待合格をいただきました。しかも一般試験の方は算数100点!!理科も60点満点中57点!!アントレのまとめテストや合不合格判定模試でもこんな高得点は取ったことがなかったので、娘の本番の強さに本当に驚かされました。

2月1日 明治大学付属中野八王子 合格(進学)

過去問での勝率は五分五分でした。でも本番はどの科目もそれなりに自信をもって答えられたようですし、理科も前日に見ていた問題がそのまま出題されたので、かなりラッキーでした。娘の感触からも大丈夫だろうと思いつつも、自信あったのにダメだったときに何て声かけすればよいかなども考えてしまい、合格発表は内心ドキドキでした。無事に合格してくれて本当に安心しました。

2月4日 中央大学附属 不合格

中附に進学させることに不安を感じたこともありましたが、不思議と入試本番を迎えると応援する気持ちの方が上回っていました。過去問では一度も合格最低点を超えることができていなかったのも、厳しいことは分かっていました。ただ、中附の社会は時事問題が多めに出题されるため、過去問での社会の点数が参考にならないというのもあり、望みを捨ててはいませんでした。最後の2・3か月で算数と理科の伸びを感じていたため、直前期に手を抜かずに頑張っていれば奇跡が起きたのではないかという想いはぬぐえませんが、これも娘が自分で招いたことなので…

娘いわく、過去問を解いていて一番楽しかったのは中附だそうです。入試本番でも楽しんで解けたようなので、晴れ晴れとした表情で「受験することができてよかった！」と言ってくれたときは私も救われた気がしました。

【超おすすめ!!オンライン自習室 ヤルツキヤ (旧:Herazika)】

このオンライン自習室は1コマ30分で曜日毎に参加する時間枠を設定することができます。参加すると少人数のグループが作られ、お互いの姿を映し合って一緒に勉強するのですが、映像にはボカシがかかるため、個人を特定されることはありません。

一番おすすめの機能は1コマ3分に圧縮された映像が保護者にメールで届くことです。この映像のおかげで私の勤務中にサボっていたことを見抜くことができました。

アントレでも直前期はオンライン自習室を利用することができますが、カメラをオンに

するルールを作った方がいいのではないかと思います。頑張っているお友達の様子を見ることで励まされたり、娘のようなサボり防止にもなったりすると思うので、より効果的になるのではないかと思います。

【アントレのコロナ対応】

4年生の授業の初めはコロナウイルスによる緊急事態宣言でオンライン授業でした。

他塾でもオンライン授業にはしていたようですが、ある大手塾は何校舎かの合同授業で生徒が200人近くいて、とても質問できるような雰囲気ではなかったと聞いています。

そんな中、アントレは休講にすることなく動画配信授業を行い、さらに他塾より早い段階で普段の授業のメンバーでのオンライン授業に切り替えてくださりました。理社の投票問題などオンラインならではの楽しみもあり、このままオンライン授業でもいいかも！と思うほどで、対応の速さと工夫には驚くことばかりでした。

国語の授業の後にラクダと本の話をするのも楽しかったようです^^

カッシーがYouTubeにアップしているナスビの授業動画も、勉強に飽きたときなどに休憩がてら見てエネルギーをもらっていたようです（笑）

6年生の冬期講習直前に私がコロナに罹患し、順々に家族にもうつってしまったので、冬期講習の前半は参加できなくなってしまいました。でも、アントレではコロナによる欠席に関しては当日中に授業プリントと授業動画を撮って送ってくださるので、家で授業を受けることができ、遅れをとることなく冬期講習後半の授業に参加することができました。連日何時間も授業を行ったあとで疲れもあったと思いますが、個別対応していただけて本当に助かりました。ありがとうございました！！

【最後に・・・】

3年間を振り返ってみても、これだけサボっていたのによく合格できたなと思います。でも、入試直前、最後の最後で勉強に飽きたと言い出したのも、ある程度自信がついた表れと捉えると、3年間の娘の努力は認めてあげなければいけないなと思っています。実際、基本レベルの問題であれば難なく答えられていましたし、4教科全ての単元において穴を作らないレベルまで持っていけたことはすごいことだと思います。

3年間努力し続けられたのはアントレの授業形態が娘に合っていたからだと思います。予習も復習も先生方に言われていたことの半分程度しかやっていたかもしれませんが、毎回の授業のチーム戦で負けないようにと準備はしていました。また、アントレに行くことをイヤがったことは1度もなかったので、先生方に叱咤激励され、お友達に支えてもらいながら、アントレを存分に楽しんでいたのでと思います。1月後半は入試を迎える不安よりアントレを卒業することになる寂しさの方が上回っていたようでした。

らっきよとの面談では毎回娘への愚痴にも近い悩みを聞いてくださり、本当に感謝しています。中学受験は多くの知識を得られるのはもちろんですが、毎回の授業の予習・復習や過去問等、たくさんやらなければいけないことがあるため、タスクの優先順位付けや時間の使い方など、今後の学生生活や社会人でも必要な要領の良さも得られる機会だと思っています。また、一つの目標に向かって全力で頑張るという経験もヒトとして成長させてくれるものだと思います。娘にもこのような経験を通して成長して欲しいと願っていましたが、残念ながらまだその時機ではなかったようです…幸い娘の進学先となった学校は大学付属で、大学受験を気にすることなく自分が興味・関心を持てるものを追求することができる環境なので、今度こそ自分磨きに時間をかけ、アントレの先生方にも成長した姿を見せに行けたらいいなと思います。

最後の最後まで心配をおかけしてしまいましたが、見放さずにご指導いただき本当にありがとうございました！！

K・Cさんのお母様

娘の中学受験は、アントレで学べたからこそ、過程も含めてよい受験になったと思っています。アントレへの感謝の気持ちを込めて、わたし自身も何度も読んで参考にさせていただいた体験記を書いてみたいと思います。お子様やご家庭ごとに、いろいろな考え方があると思いますが、少しでもお役に立てる部分があれば嬉しいです。

【アントレ入塾まで】

＜公文→新4年生で大手塾に入塾→約半年後に転塾＞

お友だちに誘われ3年生の7月から公文に通い始めました。ほめられることでやる気が倍増し、結構早いペースで進んでいたように思います。約半年と短い間でしたが、公文でついたある程度の計算力は、受験にも役立つ部分があったのかもしれないと思っています。

その後、新4年生から姉が通っていた大手塾に入塾しましたが、ほぼ同時にコロナ禍が始まりました。学校も休校となり、社会全体がこれまでに経験したことのない閉塞感・不安感に包まれました。夫婦ともに在宅ワークのできない職場だったため、子どもたちが不安な中、日中を一緒に過ごすことができない罪悪感や様々な葛藤もあり、だいぶ鬱々とした日々でした。また、当時通っていた塾に対しても漠然とした不安を感じていました。そんな時に偶然アントレを知る機会があり、コロナ禍における真摯で迅速な対応、指導員の先生方と子どもたちとの距離感や楽しそうな雰囲気、卒業後にもつながりがある様子などにとっても魅力を感じました。しかし、量をこなす学習でそれなりに成果も出ていたのと、電車での通塾に迷いもあったため、積極的に転塾を考えるには至りませんでした。

休校期間も終わり少しずつ日常が戻りつつあった頃、塾の宿題をしながら本人が何気なく言った「あーこのままだと勉強がきらいになっちゃうかもしれないな」ということばに、ハッとしました。そしてまさにそれが、不安の一因だったことに気づきました。できることならなるべく楽しく、親子ともに疲弊しない受験にしたい、受験後にもつながる学びの姿勢を身につけたいと改めて思い、アントレの体験授業を申し込みました。算数の授業を体験後、本人も迷うことなく通いたい！と熱望したため、4年生の夏に転塾しました。

【クラス】 4年生 → Aクラス 5年生 → Sクラス 6年生 → Sクラス

算数 大大大好き 社会 大好き 国語 まあまあ好き 理科 分野により好き～苦手

【4年生】

- * 教科ごとに1週間のスケジュールを計画（具体的な内容も含め本人と相談しました）
 - * 予習→復習→まとめテスト対策のサイクルを確立（算/理の予習は一緒にやりました）
 - * プリントやテキストが整理しやすい環境づくり（教科ごとの棚・ファイル・ラベル）
 - * 保護者会に参加（特に大事なことはメモを取り、夫とも共有するようにしました）
- また5年生の土台づくりを意識して、歴史漫画にさらっと目を通すようにしていました。

＜白板の復習を優先＞

算数の復習は白板のみ。復習のしやすさを考慮し、1問ずつA5サイズのルーズリーフに書き写し（表に問題・裏に解答と本人が間違えたポイントなど）、単元ごとにラベルをつけてファイルしていました。また、翌日は間違えた問題のみ → 次の授業までに全問 → まとめテスト前にはさらにもう一度というように、繰り返し復習しました。

白板の書き写しは、6年生の最後の授業まで続けました。季節講習で算数が1日に2コマある日など、時には気の遠くなる思いもしましたが、とても復習しやすいとの本人の声に後押しされ、何とか続けていました。どんな問題を解いているのかがわかり（こんなに難しいことをやっているのかと感心・尊敬）、また季節講習の予習の際にも単元別に準備しやすくやってよかったと思っています。

【5年生】

通塾日とやることが増え、新たなサイクルに慣れるまでは試行錯誤を繰り返しました。

＜睡眠は大事＞

やることは急に増えましたが、睡眠時間を削ると途端に集中力が低下してしまう傾向があったので、一番重要な時間と考えていた授業中の集中力を保つためにも、睡眠時間をしっかり確保し、残りの時間で何かやりくりするようにしました（最後まで基本的に夜10時には寝るようにしていました）。

＜朝の勉強を習慣化＞

朝起きてから朝食までの30分～1時間程度を勉強時間にして主に予シリ計算・漢こと・理社の毎日プリントなどをしていました（入試直前まで続けました）。

＜白板は方針を確認＞

白板の復習において自分で再度解いてみる前に、各問題のポイントを一緒に確認する時間（本人が説明しわたしは聞くだけ、1問1分程度）を追加し、軸となる考え方を整理しました。自分の中で完結するのではなく、人に説明できるという点を重視しました。

＜次につなげる意識を可視化＞

まとめテストの際には、毎回事前に全体・教科ごとの目標を自分で具体的に決めて、担任の柏原先生にも見ていただけるよう、宿題として提出する応用演習のノートに書きました。テスト後はそれぞれの目標に対し、自分なりに反省と評価をしていました。また、既習単元の複合問題であるまとめテスト大問1は、白板同様A5サイズのルーズリーフに書き写し、テスト前には以前のものもあわせて対策して、全問正解を目標としました。

【6年生 前期】

教科により新規の単元がなくなり、予習の負担が減りました。5年生のときと同様、通常授業を最優先するために、睡眠時間を8～9時間は確保するようにしていました。また、授業内のテストは、できる限り準備をして臨むようにしました。

火曜日に練馬校での武蔵算数が始まり、面談でご相談後、参加することにしました。予習も復習もいらず、いつもとは違う場所・違うメンバーでじっくりと問題に向き合う時間は、とても刺激になったようです。〇×に関わらず、授業自体を楽しんで参加していました。

4月からは四谷の合判や他塾の模試への参加も始まり、志望校について考え始めました。それまでの学校見学やアントレの先輩方が書いた受験体験記を読む中で、本人は女子学院・桜蔭・浦和明の星・吉祥女子・香蘭女学校・恵泉女学園などの女子校が、親の中ではそれらに加えて都立大泉・渋渋などの共学校も説明会や学校見学などを通じて、よさそうだなと感じていました。学校見学は夫婦で分担して、親だけでもできるだけ多くの学校に行ってみるようにしていました。実際に行くと印象が変わることもあり（予約は大変でしたが）、たくさん学校を訪問できたことは、とてもよかったです。この頃はまだ、具体的に絞り込むことはせず、まずはどの学校の受験にも必要な基礎力を高めようと思っていました。

【6年生 夏期】 <本気で参加して得たもの>

夏休み前の本人と柏原先生との面談で、夏期白板の正答率目標は83%と伺いました。目標に向かって準備し、毎回驚くほどの意気込みと緊張感で、またそれを楽しんで参加していました。結果は全5期を通して78%と目標達成には至りませんでした。ひとつひとつの問題を丁寧に（できそうな問題を確実に正解する）・見直しの徹底（見落としや勘違いは割とある）・スピードアップ（見直し時間を確保するため）・緊張の中でも力を出せることなど、解法以外にもいくつもの『大切な気づき』があったようです。

【6年生 後期】 <気持ちの作り方の練習>

算数で毎週（全16回）の4科のまとめテストがスタートしました。12点満点を目標に、これまたすごい意気込みと緊張感で臨んでいました。前夜から緊張してしまうほどの様子に若干戸惑いながらも、目標を達成できてもできなくても、この経験はきっと役に立つはず、と心から応援していました。実際の入試では、やはり多少緊張したものの、夏期白板や4科のまとめテストの時ほどの緊張ではないな一と感じて、リラックスにつながったそうです。本当に貴重な経験でした。

【志望校対策】 <土曜演習としての個別開始>

学校見学の印象や校風などの理由から、女子学院と浦和明の星を志望校として意識するようになりましたが、この年度のアントレでは秋からの土曜演習に対応クラスがなく、①他塾の学校別講座（NN・SSなど）に参加、あるいは②個別で過去問対策になると伺いました。本人は他塾での講座にはまったく興味がなく、あっさり②を選択。親としては同じ学校を目指す人たちと同じ動き（①）をした方がいいのかなと迷う気持ちもありましたが、最終的には、アントレですべて完結したいという本人の意思を尊重することにしました。

アントレ出身の女子学院卒業生の先生を紹介していただき、9月から週1回・土曜日の個別が始まりました。主に過去の土曜演習 JG・豊島岡クラスの問題（算・理）を見ていただきました。勉強以外にも、学校生活や班（クラブ）活動、アントレでの思い出など、先生とお話をしていく中で、女子学院への思いを募らせていったようです。指導も的確で報告書もわかりやすく、とても頼りになる存在でした。何回か代講をしていただいた先生も同様で、アントレの個別は最高最強だと実感しました。

<6年秋にもいろいろ見学>

6年秋以降は一般的には何かと忙しくなりますが、週末の学校別講座を受講しないことで比較的時間の調整ができたため、明の星・渋渋・富士見・女子学院の文化祭、筑波大附属の運動会などに参加、また模試の会場として、豊島岡・渋渋・吉祥女子に行くことができました。コロナ禍もあって、訪れる機会がなかった学校にも行くことができた結果、それまで考えていなかった筑波大附属も志望校のひとつとして検討するようになりました。この時期に実際に本人が訪問できたことは、志望校を具体的にしていく上でとても大きかったです。

【模試】 学校別講座を受講しなかったため、なるべくたくさん受けるようにしました。

6年前期 四谷合判×2 SAPIX オープン×1 NN オープン×2

6年後期 四谷合判×3 SAPIX オープン×4 NN オープン×4

SAPIX オープン学校別（JG×2 渋渋 豊島岡）

通常授業を最優先と考えていたので、すべての模試をきちんと復習することは時間的に難しく、NN オープン・JG 以外の SAPIX 学校別模試は、指標として受けるのみ（一部復習）、それ以外は復習時間をしっかり確保するなど、優先順位を意識しました。

【直前期】 <あっという間に過ぎた11月～12月～1月>

この頃から『受験が終わったらやりたいことリスト』を作り、桜の付箋にひとつずつ記し自室のホワイトボードに貼って時々眺めていました（徐々に増えて、最終的には36項目ありました）。模試の結果はほぼ毎回同様で、4科でみれば概ねA～B判定になるものの、理科と国語に課題あり（要対策）という感じでした。

<理科> 知識の穴がたくさんあったため、11月の模試後からそれまで後回しにしていたコアプラス・プリントに集中して取り組みました。最後の模試以降は、女子学院の過去問の理科(2周目)を1年分ずつ毎日解きました。また、終盤の土曜演習(女子上位校クラス)に理科のみで参加させていただいたりもしました。

<国語> 根拠なく何となくの感覚で解いてしまうところがあったのか、模試ではなかなか安定しませんでした。11月下旬以降、天野先生と清水先生に解き方の確認をしていただき、少しずつ自信をもって解けるようになっていきました。冬期講習後からは、毎日大問を1題ずつ(主に浦和明の星・豊島岡の過去問から論説文・説明文のみを使用しました)、必ず朝に解くようにして入試当日まで続けました。また、埼玉入試で漢字をけっこう忘れていたことがわかり、塾で以前使っていた『出る順』を2週間でざっと見直しました。

【1月以降】

NN模試を毎回受けていたため、後期の平日の対策講座などにお誘いをいただき、検討はしましたが、通常授業を優先したかったこと、本人がまったく興味を持たなかったことから、結局受講しませんでした。直前期のそっくり模試についても、直前期には過去問も終わり他にやるものがなくなると言われたことや、同じ学校を目指す多くの人たちが解く問題に触れないことへの不安から、ぎりぎりまで悩みました。しかし、拘束時間が長いことやその回数ごとに出るという合格/不合格の判定がどちらだとしてもプラスにはならない(むしろマイナスかもしれない)と感じたこと、受講するといただけるとい問題集などが大量過ぎてかえって負担になりそうだったこと、1月前半は埼玉入試の対策に集中したかったことなどから、最終的には参加しないことにしました。柏原先生との面談でもご相談し、そっくりといっても本物の過去問とはまた違うということや、メンタルへの影響、効率についてなどのご助言をいただき、大変参考になりました。

実際、娘の場合は参加しなくて正解だったと思っています。直前期にやるものがなくなるということもなく、通常授業の復習や過去問をさらに進めたり(教科により2-3周目も)、夏期白板を繰り返したりしていました。前日・前々日には、事前に学校で直接購入していた過去問(原本)を使い、本番通りの時間で演習し(すべての科目が2~3周目なので最高点となり)自信をつけました。

生活リズムを崩すこともなく、親子ともに安定した状態で過ごすことができていると思います。

【入試結果と過去問】

- 1月10日 * 栄東A →合格(東大スライド) ・過去問2年分
- 1月12日 * 栄東(東大算数1科) →合格(3年特待) ・過去問1年分(合格基準-70)
- 1月14日 * 浦和明の星 →合格 ・過去問4科で10回分+算数のみ6回分
本人も親も実際に行きたい/行かせたい学校であり、また結果により2月の予定が変わることも考慮して、優先的に取り組みました。
- 2月1日 * 女子学院中学 →合格 ・過去問 演習で11回分+家庭で1冊(10年分)+α
理科はすべての回を×2~3 算数は間違えた問題のみ×2~3 国・社は×1
7割を目標にしました だいたい-50~+10くらいで推移(時には-90)
- 2月2日 * 渋谷教育学園渋谷中学 →合格 ・過去問5回分(おもに1月の埼玉入試後)
- 2月3日 * 筑波大附属中学 →合格 ・過去問3回分(おもに1月の埼玉入試後)

1月校の結果に応じて、吉祥女子・豊島岡女子・都立大泉、午後受験として山脇学園・富士見・香蘭女学校・恵泉女学園などの受験も想定していました。

女子学院の試験直後は、あまり手応えを感じられなかったとかなり落ち込んでいました。急遽塾に電話して話を聞いていただいたり、デユースのホテルの部屋で好きな映画を見たり少し寝たり、と翌日に向けた準備は諦めゆっくり過ごすことで、気力と体力の回復に努めました。翌朝の Zoom 応援でも気にかけていただき、おかげさまで 2 月 2 日も元気に試験会場へ向かうことができました。2 月 3 日は、女子学院の合格は既にいただいていたが、筑波大附属についても進学候補として考えていたため、予定通り受験しました。

【過去問の進め方】 <基本的に保護者会でのおすすめ通り>

6 年 GW に 1 回、夏休み中に 1-2 回、9 月以降第 1 志望 10 回分、第 2・3 志望 5 回分 + α 夏休み中に秋からの計画を大まかにたて、その後は約 1 か月ごとに見直し・修正していきました。模試や学校行事・学校見学などの予定が追加されていくことも考慮し、予め予備日を多めにとっておき、そこで調整するようにしていました。また、復習の精度をみるためにおすすめされていた『同じものを数週間後に再度チャレンジ』も 10 月にやってみました。

<実際に受験した学校以外に取り組んだ過去問>

・豊島岡女子 8 回分（入試演習分含む） ・吉祥女子 4 科で 4 回分

毎朝 1 題ずつやっていた国語の題材に加えて、同年 1 月の関西・埼玉入試から数校の国語の問題文（四谷のサイトからダウンロードしました）にも目を通すようにしました。

【振り返り】

すべての入試を振り返ったとき、本人は 1 月の栄東算数 1 科入試をきっかけに自信がついたとのことでした。点数や順位の開示もあり、A 日程とともに受験してよかったです。また浦和明の星の合格は、大変心強くありがたい大きな支えとなりました。

12 月から埼玉入試まではあつという間に過ぎていきましたが、そこから 2 月までの約 2 週間は、とても長く感じられました。家族の誰ひとりも体調を崩すことなく、とにかく当日無事に試験が受けられますように、と毎日祈るような気持ちで過ごしていました。本人は、残り少ないアントレ生活を思い、時折しんみりしながらも、その日やることを計画通りに黙々とやっていました。そして通塾最終日の帰宅後には、楽しかったなあ…とこれまでを思い出し、涙を流していました。

2 月 1 日の朝は、入試本番までたどり着きチャレンジできること自体に、感謝の気持ちでいっぱいでした。

<Zoom 応援>

コロナ前の各塾総出の応援も（姉の受験の際に）経験しましたが、短時間でも先生方と、全員が直接言葉を交わすことのできる Zoom 応援は、とてもよかったです。試験の直前に、大好きな先生方と接する時間を持てたことは、大きな力になったようでした。

<当日朝の声掛け>

「これまでの過程は 100 点満点、結果はおまけみたいなもの」「楽しんでおいで」という主旨の声掛けをしました。（これを書く際に本人に聞いてみたら、びっくりするほどまったく覚えていませんでした…そんなものかもしれません。）

実際、結果には運の要素もおおいに関係してくると思うので、結果以上に過程が大切だということは、事あるごとに伝えるようにしていました。

<お気に入りの朝食>

11 月の保護者会で伺って以来、その後の模試と試験当日の朝は必ず、天野先生おすすめの白菜鍋（アレンジ ver.）としていました。朝食に鍋という発想はなかったので、教えて

いただいてよかったです。娘はもともと鍋好きで、この朝食メニューはとてもお気に入りとなり、連日続いても飽きないようでした。

<その他 やってみたこと>

入試当日の持ち物に、お菓子と一緒に R1 飲料を入れて、受験したすべての学校で、休み時間に必ず飲んでいました（願掛けもかねて、お決まりの所作としていました）。

【わたしの思うアントレのおすすめポイント】

- **経験豊かな指導員の先生方** 卒業生とのつながりも多く、中学入試の結果だけでなく、その後の経過もたくさんご存知である先生方に、3年間（4年間）継続していただけます。経験に基づくご助言の数々は、本当に貴重です。
- **子どもの成長を見守る雰囲気** 大人の常識を押し付けることなく、子どもを個人として尊重し、成長の過程を見守ってくださる温かい雰囲気があります。
- **算数の育て方** 白板問題の内容や構成、別解を含めた解説など、単なるスパイラルに留まらない、考え抜かれたカリキュラムだと思っています。
- **明るく楽しく退屈させない授業** チーム戦、早押し、ヨイドン、ハナマル、ハンコ制度、ポイント制チャレンジなど、子どもが楽しく学べる工夫がいっぱいあります。
- **学びの姿勢** 予め準備して臨む習慣は、受験後にもつながっていくと思います。

塾にとっては、ともすれば不利益となり得るような内容にも、アントレでは折に触れて言及されていました。きちんと伝えてくださることに誠意と理念を感じました。本当にこれでいいのかなど不安になったり、対応がドライだなと感じたりする場面もありましたが、そんな時は面談を申し込み、都度消化するようにしていました（疑問や不安はため込まず、必要に応じて親も自ら動くことが大切だと思いました）。

楽しく無理なく学ぶことができるアントレのような塾は、なかなかないように思います。中学受験を考えたとき、もし通塾圏内にお住まいならぜひ一度体験授業に参加してみることをおすすめします。

【最後に】

村上先生がおっしゃっていた『たかが中学受験』という深いことばを受験期間中に何度も思い出していました。直前期には特に不安や焦りを感じることもありましたが、いつもそのことばに救われ、大事なことを見失わないように、と心の道標にしていました。

娘はアントレが大大大好きで、学校行事のあとなど疲れている時でも、いつも楽しそうに通っていました。アントレでのたくさんの出会いや過ごした日々は、娘の人生を豊かに彩る財産であり、かけがいのない大切な宝物となりました。受験を終えた今、小学校のお友だちと放課後に遊んだり、録画していたドラマをまとめて見たり、目覚ましをかけずに自然に目が覚めるまで寝てみたり、好きな本や漫画をじっくり読んだり…etc. 最後までやりきったという達成感と解放感に包まれながら、やりたいことリストの数々を遂行し、思う存分満喫しています。

これからも感謝の気持ちを忘れずに、アントレで培った自ら考えて行動する姿勢を軸に、自分のやりたいことを見つけて、充実した学校生活を送ってほしいと思っています。

学びの環境を作り、親も子も支え導いてくださった指導員の先生方、頼もしい個別の先生方、折々遊びに来てくださった卒業生の方々、共に過ごした個性的で魅力あふれるお友だちのみなさん、本当にありがとうございました。

K・Kくんのお父様

1. はじめに

なかなか勉強を始めない。やっと問題に取り組み始めたと思ったらすぐに筆が止まり「もう勉強なんてしない」「受験やめる」——。我が家の毎日は6年生の夏過ぎまで、ほぼこの繰り返しでした。やきもきする両親。そんな両親を尻目に自分を貫いた息子の中学受験を振り返りたいと思います。

2. どういう勉強をしていたか

アントレに入塾したのは4年生の終わり。授業中に白板問題を解くなど生徒に考えさせる授業をしていると知人から聞き、勉強に対する受け身の姿勢から脱却してほしいと考えたのがきっかけでした。

入塾はしたものの、なかなか勉強のリズムがつかめず宿題も算数は終わらせられるものの他の科目では取り組みずに残ってしまうこともありました。またよく言えばマイペース、悪く言えば気分屋な面がある息子は勉強を始めるスイッチがなかなか入りづらかったです。本人なりに勉強していると思っていてもなかなか成績が上がらないことへのイライラや不安感が背景にあったのかもしれませんが。

ただ、そういう息子にもきちんと向き合ってもらい、アントレの授業や宿題で算数の基礎をしっかりと勉強できたのは息子本人にとって良かったのではないかと思います。

そして小6になりました。受験生の学年になったからといって急激に何かが変わることはありません。初めての四谷大塚の合不合。直後の保護者会での「基本的に今の成績がずっと続く。夏や秋になったからといって偏差値が急に上がることはない」という村上先生の言葉通り成績は一進一退が続きました。

ようやく周囲から見てもやる気が見えるようになってきたのは6年生の秋以降でした。何校かの過去問を解くようになって、実感がわいてきたのだと思います。この時期は家では過去問のほか、算国は「四まと」、理社は「コアプラス」と授業で使ったプリントを中心に復習していました。そして計算と漢字を毎日1ページずつ必ず解くことにしていました。

11月の首都模試で本人史上最高の得点を取ることができ、結果が出始めたことが自信につながっていったのではないのでしょうか。土曜日の入試演習でも実名で成績が載ることが増えました。そして冬休み以降は志望校の過去問を繰り返し解くのと同時に頻出分野の復習をし、本番に臨みました。

3. 志望校をどう選んだか

まず親の反省点として、志望校選びの前提となる中学校見学で出遅れたという点が挙げられます。コロナ下で5年生のときに見学会や説明会に参加しづらかったこともありますが、勉強をつづけた先に広がる景色を子供になかなか見せられず、子供のモチベーションを上げられませんでした。

入塾したころに親子とも漠然と思い描いていた志望校が、6年生のはじめごろには日々の勉強の進捗や模試の結果を見るとかなりハードルが高いという現実を突きつけられました。

4月から6月ごろにかけては各中学校が1つの会場に集まって各校別に学校紹介する合同説明会に参加しました。それぞれの学校のブースで話を聞き、そのなかから親子で気になった学校を絞り込みました。

その後、各学校の説明会に参加するわけですが、学校紹介を聞いたりパンフレットを見たりするだけでなく個別にしっかり質問することが大事だと痛感しました。我が家の場合は部活が志望校選びの壁になりました。ある学校は入りたい部活が前年から休部になっていたり、別の学校では高校生と一緒に学校から遠いグラウンドに毎日通って練習

することがわかったりしたために受験をあきらめました。

こういった部活の活動事情は個別に聞いて初めて分かったということも多かっただけに、見学会や説明会では質問の機会を逃さないようにしてもらえればと思います。

志望校選びで最終的に重視したのは部活と通学のしやすさ、そして授業見学会などで感じた学校の雰囲気でした。

4. 最後に

いつになったら勉強するのか、宿題は全部終わるのか——。そんな心配を胸に秘めつつ、いかに勉強の方向に息子の気持ちを持っていけるか。中学受験への道は親にとって、毎日考えさせられることの連続でした。

本当に中学受験させて良かったのか。こう悩むこともありましたが、その悩みへの答えは2月1日に出ました。

1日の午前入試、結果は不合格でした。本人はひどく落ち込み、ショックを受けていました。しかし2時間ほど経った後、息子は「明日もう一回頑張る」と言って前を向きました。

厳しいときでも自分で気持ちの切り替えができるようになっていました。後日「せっかくこれまで頑張ってきたのを無駄にしたくなかった」とその時の気持ちを話しました。このような姿を見て、中学受験のプロセスは息子の成長を促した貴重な経験だったのだと改めて感じました。

最後になりましたが、アントレの諸先生方には本当に最後までお世話になりました。あらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。

K・Kくんのお父様

アントレの先生方、3年間お世話になり、大変ありがとうございました。長男と同じ学校に進学することができ、本人も楽しみにしている様子です。3年間を振り返り、主に家庭での様子を中心に体験記を記させていただきます。

【入塾】新4年生からアントレでお世話になりました。体験授業では解けない問題が悔しかったようで、泣きながら出てきたことが懐かしいです。入塾後はBクラスからスタートし、授業で分からないところがあると、村上先生に何い何回か涙していたこともあったようですが、少しずつ慣れて、友達との行き帰りも楽しく通塾できるようになりました。

【普段の生活、習い事との両立】朝食前に勉強時間を取れるようにトライしましたが、起きるのが難しく、6年生12月以降に朝型に切り替えました。読書・漫画が大好きで、隙間時間があると何か読んでいました。習い事は1年から土日はサッカーに通い、6年夏まで継続し、8月から受験終了までは休部し、受験後から再開しています。水泳は3年まで、英会話は4年まで続けましたが、平日の放課後は、友達と公園で遊ぶことが好きで、6年の夏以降は外遊びの時間を少しずつ減らし、11月以降は30分以内で集中していきました。ゲームはあまりやらなかったため、漫画の時間は決めて、テレビは主に録画で早送りで見てました。

【志望校】4～5年は文化祭や学校見学の制限が多かったため、オンラインや学校紹介冊子から学校探しをし、本人の希望は「家から近い、温水プール、校庭が広い、卓球部有」で明確には定まっていませんでした。6年に城北、成城、城北埼玉の文化祭を巡り、その中では城北の雰囲気が入り、「お兄と同じ学校に行きたい」と長男の事が大好きな本人の中で第1希望が定まり、両親としても長男が楽しく通学している学校でもあり、応援するのみとなりました。6年のサンタさんへの手紙には「城北に合格させてください！」と神頼みでしたが、強い想いを持つようになりました。

【家庭学習：4年～6年前半】4年は算数の予習を一緒に並走しましたが、5年からは本人なりの解き方もあったため、時間管理やプリント整理は本人に任せ、白板復習の際に解き方を説明してもらいようにしました。5年からはAクラスで、5年後半以降は複数の解き方を考える楽しみもできたようで、「算数好き」と言うようになり好きな教科となってきました。6年から前半は武蔵算数にも友達と通い楽しかったようです。説明してもらった内容を聞いても合っているかの判断はつきませんでした。嬉しそうに自信をもって説明できることが増えてきました。国語は記述のコツも徐々につかめ、6年になると「記述得意」と自信が出てきました。

【家庭学習：6年後半～受験】模試は合判のみを受け、算数は前半部分をしっかりとれるように意識して、模試当日夜のオンライン解説を聞き、結果が出たら正解率が4～5割を超える問題で取れてなかったところは4科全体的に見直しするようにしました。偏差値も意識し始め、4科50前後の推移で、城北の合格可能性は20～30%を推移し、合判の合格可能性は気にしなくて大丈夫と話はするものの、自信をなくすこともありました。最後の合判が一番良く、それでも合格可能性は45%でしたが、「上がる」手ごたえを実感できたことが嬉しかったようです。入試演習は男子上位校クラスで頑張ると決意して、最初のうちは合格者に名前が載りませんが、徐々に合格者に名前が載り、自信も出てきました。

【過去問対策】

城北の過去問は長男の時に活用した16年分と直近2年分を主に8月以降に対策しました。夏休みからは算数の計算、小問題をやり始め、解ける問題を経験したり、塾がない日は、自

分なりに予定を立てて勉強していたため、任せていました。本人に任せ過ぎたため、苦手な分野（算数：旅人・図形，理科：電気，社会：歴史）は避けていたことが12月に分かり、過去問から抜粋して繰り返しました。

・最新4年：12月から再度4科（第1回，第2回）は全て1回ずつ実施し，国・算は合格者平均近くで安定し，理・社は受験者平均以下の回も何回かあったため，合格者平均以上を目標に2~3回繰り返しました。

・残り14年：算は速さ，図形のみ（最後の方の正答率低めの問題以外），理・社は2年分を全て，1月は過去の12年分で社・歴史，理・電気・実験を繰り返しました。本人は2/1第1回で合格して，2/2からは小学校で友達と遊びたい思いが強く，「第2回の昔の過去問はちょっとムズイしやなくていい？」と何度か聞かれましたが，第1回の対策にもなるという点で，第2回も万遍なく確認しました。1月の中旬は，理・社で受験者平均以下だった回が2~3回あり，大泣きして机を叩き，10分ぐらい泣きわめいてました。解答用紙もビリビリに破って悔しがり，間違えた箇所の確認のため，解答用紙をつなぎ合わせて，見直せば解ける問題のみ（各プラス5点程度）を一緒に解説も読みながら，ノートに整理したり，コアプラや夏季講習テキストを見直しました。この時は落ち着かせることに必死で，算数をやったら気持ちが悪くなるようでした。

城北埼玉と成城の過去問は12月に2回分解いて，合格者平均は超えていたため城北過去問に専念しました。

【受験，1・2月】小学校は1月休むこととし，妻は体調管理やワクチン接種の予定も調整してくれました。受験校は通学意思のある3校（城北，成城，城北埼玉）に絞り，城北埼玉では，1/10，1/11とも4科受験予定としました。最初の受験日1/10朝は先生達からオンライン応援を頂き，校門で向かう時は少し緊張の面持ちで手を振って向かっていきました。まあまあかなという出来だったようで，23時の発表は自分で確認したいと発表まで起きて，無事合格で特待でもあったため，親子で喜び，翌日に備えすぐに就寝しました。1/11は朝のオンラインで合格報告し，この日も夜の発表まで待ち，特待合格でした。残りの2月までは，長男の時の清水先生からのアドバイスを思い出し，気が緩まないように，苦手分野（特に理・電気，社・歴史の古い年代）を過去問で抽出して注力しました。この時点でも問題をよく読まずに失点する箇所が数か所みられたため（何千年も前の歴史は大事なの？など本人の興味が薄い分野は問題文を流し読みする傾向有），「興味に関わらず問題文をよく読む」を繰り返しました。

最後の入試演習1/28では，補欠だったこともあり，2/1までの時間管理を再度確認しました。残りの時間で苦手分野をどこまで克服できるかと，本人の意識が変わり，1/29，1/30の2日間はこれまで見たことのない本気モードで集中してました。1/30に予定を完了でき，1/31は苦手な年表トレーニングを復習し，翌日の流れを再度確認して，ゆっくり過ごしました。2/1の朝はオンライン応援で，「問題よく読んでね」とアドバイスも頂き，先生からも同じこと言われたねと笑いながら学校に向かい，この日は振り向かずに向かって行きました。試験が終了し，第一声は「算数の速さでムズイのがあった。他はまあまあかな」と，帰ってきました。2/1の午後は，問題直しはせず，2/2も見据えつつゆっくり過ごしました。合格発表の19時近くに家族全員でiPadの周りに集まり，本人が結果確認したいということで入力し，ピンクの背景が出てきて，「合格」でした。すぐにアントレの先生，祖母，サッカー監督にも本人から電話で結果報告しました。本人の有言実行で，2/1で無事合格を頂き受験終了しました。

- ・1/10，城北埼玉（4科）：合格（特待）
- ・1/11，城北埼玉（4科）：合格（特待）
- ・2/1，城北：合格（2/2，2/4も同時出願済み，受験せず）
- ・2/3，2/5成城：城北の結果で受験予定（出願せず）

【受験後，振り返り】

2/2 から小学校に行き，1 か月ぶりの学校楽しかったと，帰宅後もすぐに友達と遊び，週末はサッカーの生活に戻りました。新入生招集日では，制服採寸よりも学食に興味深々でメニューや営業時間をすぐに覚えてました。妹の新4年算数を教えてもくれて，兄としても頼もしく成長したなと感じています。入塾体験では線分図で泣いていた時が懐かしく，アントレで大きく成長し，辛い想いもあったと思いますが，本当に最後まで良く頑張りました。アントレの先生方，長男に続き3年間お世話になり，本当にありがとうございました。妹も引き続きお世話になります。一緒に過ごしたお友達にも感謝致します。

K・Sくんのお母様

アントレ 25 期生のみなさん、指導員の先生方、個別の長澤先生
息子と共に過ごしてくださり、ありがとうございました。

お役にたてることはないかもしれませんが親子の3年間の成長と葛藤を書かせていただきます。

<入塾まで>

通っていた幼児教室で首都圏の中学受験や高校受験の現状を耳にして、中学受験において調べるようになったのが、

3年生の時。

息子とも話をする中で、塾ってどんなところなのだろうという思いからお知り合いにご紹介いただき、大手塾に夏期講習から入塾しました。

通いながら思ったことは、次第に増える宿題量や課題の量についていなかったということ。

また、中・下位クラスになると講習やテスト解説がアルバイトや大学生になると

いろいろ私の中で不安と疑問が募り、

4年に進級する時期にアントレの説明会に参加し、母はアットホーム感をフンちゃんのトークに感動！

このころ父の転勤で単身赴任となり、完全ワンオペ。往復1時間の車の往復で弟をつれて週何度か通うのは難しいと判断

息子にも説明し、「一度体験会に行ってみない？」と誘ったところ。息子はあまりいい反応ではなく、渋々参加したものの

(きっとここで楽しかった！アントレに行くと言ってくれと予想していた。)

息子は「大手塾のままでいい」と。

4年の授業がスタートし、説得すること2週間、アントレに行くことを決心してくれました。

<4～5年まで>

算国のみでBクラスからのスタート。大手塾との授業スタイルからの切り替え、アントレの白板方式に慣れるのに半年くらい

かかりました。授業中お友達とおしゃべりしたり、解くのをあきらめてしまったりとフンちゃんから面談で教えていただき母は青ざめた。

白板で少しでも○が多くもらえると自信が上がるかもしれないと週末の予習を丁寧にやったり、学習習慣の確立を目標にしながら試行錯誤やってきました。

4年後期により理社を追加、勉強はともかくとして、アントレに行くのが楽しいと通塾に前向きになってきたなと感じました。

私も予習にまだまだ時間がかかりながらも、アントレは宿題やテストに向けた課題が大手塾より明確で受験素人な親なりにも「これされやれば」と前向きになれました。あのときの転塾は間違っていなかったとご縁に感謝するばかりです。

5年の春季講習からAクラスへ。喜んだのは東の間、算数の難度が上がったこともあり、白板で○がつくようになるまで苦戦を強いられました。理社の暗記もしかり。息子がAクラスで少しでも自信もてるようにと、いつも低空飛行の理社のチェックテストに向けての暗記を母と一緒に「ピンポン」の効果音でクイズっぽくしたり、繰り返し説き、満点が取れたことがありました。そんなときプーさんが「小谷だってやればできるんだよ！」と声をかけてくれたことがとてもうれしかったと言っていました。

5年後期、算数の予習に母は太刀打ちできず、土日の単身赴任先から戻ってくる父とバトンタッチ、ただ親子はどうしても感情的になりやすく、ケンカが多発。「もう自分でやる」と

言い、Youtube 解説動画を探し、母が理解しているか確認しながら予習するスタイルを取り入れました。

また、モチベーションの維持と家庭学習の達成感を味わえるように、ホワイトボードに今日やることリストを書き終わったら消していく方法、ふせんの一つ一つ学習内容を書き、終わったら外していく方法、息子が飽きないように色々試しました。

<学校見学と志望校>

5年の夏くらいから、色々な学校に見学に行き始めました。(埼玉1校、埼玉フェス1回、東京フェス3回、東京8校)

たくさんの学校が集まるイベントなども父母で携帯を握りしめ、時間予約との戦いに必死でした。まだまだコロナ禍だったため、学校に出かけても生徒の姿はなく、校舎ばかりをながめ、息子に「どうだった」と聞いても「よかった～(建物が)」と自分事にならない感じ。文化祭の授業の様子が見られる説明会となるとこれまた争奪戦！若い息子も生徒の様子を見ると具体的なイメージができるようでした。

母は忘れっぽいのでTwitterで説明会予約開始日を教えてくれる方がいたり、LINEの「リマインくん」というリマインダー機能でアラームをかけて予約にむけて準備しました。

<6年>

相変わらず救われていたことは塾に行くのを楽しんでいたこと。

クラスメイトとふざけたり、(度が過ぎていることが多々・・・)ケンカしたりしながら友達と遊ぶこと、ゲームも彼の中では少ないというストレスを発散していて先生方にはご迷惑をかけっぱなしでした。

少しずつ学校のストレスからか反抗的な態度をとるようになり、衝突も増えてきました。

母はそのストレスで少々抜毛症気味、白髪も各段に目立つように。授業日の解き直しはやるものの、その後の反復には強く拒否するようになり頭をかかえることもしばしば・・・。

夏期講習に入るまでにある程度基礎固めしたかったが、「わかった」つもりになっている息子に「できる」はちがうよと何度となく諭してもダメでした。

その結果を夏期講習のテストで思い知らされることに。学校の授業をこなすがなくなった夏休みは息子にとってアントレに集中する絶好のチャンス。

母もテストの結果を心の中で一喜一憂するも「点数は気にしなくてもいいけど、この間違いは宝だよ。次解けるようになるために解き直ししよう」と自分に言い聞かすように息子に伝え、解き直しと白板復習、理社暗記に時間を使いました。

9月から算数の個別指導をお願いすることにしました(長澤先生=まっふぁー) 過去問に本格的に取り組む時期に重なり、体調を崩し自宅で過ごす日が増えました。

そんな中でもアントレと個別にはいくことができました。

「アントレは自分を出せる気がするから」という息子の言葉は本音だなと思います。

体調面で、過度な負担や多い処理は求められず、受験もこのまま継続するかどうかを息子と何度も話し合いました。最終的には「受験をして環境を変えたい」と継続を自分決めました。今まで反抗してきたのも、学校のストレスの他、息子の気持ちに寄り添うことを後回しにしてしまったのもあったのかも家庭、学習内容も一緒にもしくは息子が決める。一度決めた内容を急に増やしたり、変えたりしないことを試験まで気を付けて過ごしました。

<過去問対策から試験本番へ>

・日大豊山 8年分(第1回と第3回) 立地・設備が気に入った

↓合格最低点取れたら

- ・明大中野 8年分(第1回と第2回)水球部に憧れ、チャレンジ校
- ・獨協 5年分(第1回と第2回と第3回)12月中旬、アントレから薦めていただき対策を始める
- ・成城 5年分(第1回)文化祭が楽しかった。早弁O.K.など男子校らしさが気にいった。10月以降も体調が良くなってきたところで、解き直しも受け入れてやるようになりました。これに合わせてコアプラス理社、チェックテスト反復、計算、語句、白板、四まとをムラがありながらも進める毎日でした。ケアレスミス(算数)対策に一番苦戦しました。試験本番を想定して問題用紙のどこで計算するか、数字を大きく書く、時間配分を意識して一行問題などの前半をいかにミスをなくすかなど時間をかけました。

(埼玉受験)

1/10 AM 城北埼玉 ×
PM 城北埼玉 特待 ×

朝から緊張していた。zoom 応援もやめとく。とってつなげず。

スクールバスにアントレ生を見つけ緊張もほぐれたが初戦×はダメージが大きかったです

1/12 AM 城北埼玉 ○

やはりこの日も緊張、zoom 応援もやらず。社会が前日やっていたところが出た！
と気持ちも上がり合格

(東京受験)

2/1 AM 獨協 ×
PM 獨協 ×

初戦かなり緊張していて、母から「フンちゃんと話そうよ」と zoom をつなげて
やっと笑顔で会場にむかえました。試験後「5回も見直した」と自信ありだったが×

2/2 AM 獨協 ×
PM 京華 ○ (特別選抜クラス)

結果を翌朝確認。京華の合格で3日の試験のモチベーションアップにつながる

2/3 AM 成城 ×
PM 日大豊山 ×

*1日の結果で京華を増やすことは想定していたが、日大豊山は急遽決めた。
長期戦になることも想定して
レベル関係なく、「いってもいいな」
と思える学校を足を運んで探しておく
ことは大事だなと痛感。

2/4 AM 明大中野 ×

2/5 AM 成城 ×

(受験を終えて)

最後はかなり長い戦いになり、一生分のポジティブな声かけと励ましをしました。息子は5

日間連続で戦ったことを結果はともあれ敬意を表したいです。
試験の朝、毎日励まし続けてくれた先生方のメッセージ、試験後の夜にアントレに行ってタケノコと過去問を解き直して自信をつけて頂いたこと、試験最終日の夜、フンちゃんと進学先を決めるにあたりいろいろな話をしたこと。どれをとっても息子の人生の糧になると思うと、あのときアントレに入塾して本当によかったと感謝してもしきれません。
アントレの益々のご発展をお祈りしております。
ありがとうございました。

S・Kさんのお母様

【きっかけ】

小4になって学童に入れなくなることが分かっていたので、平日の夕方や長期休みの居場所確保の為に塾に通わせようかなと、軽い気持ちで中学受験に足を踏み入れました。娘の友人たちも、中学受験する！という子が多く、本人も中学受験に興味を持ちだしました。練馬駅周辺の塾を何校か見学しましたが、大人しい娘に大手塾は刺激が強すぎしっくりこず。そんな時ピアノの先生から、アントレが良いと保護者からよく聞くよ！と教えてもらい体験したところ、教育方針・雰囲気共に我が家にはフィットし、アントレに通うことにしました。

それまでの習い事は・・・

公文→小4の夏まで（トロフィーもらう為）

スイミング→小5の秋まで

バレエ→小6の7月まで

ピアノ→受験2週間前だけ休みました。6年になってからは練習をほとんどせず、気分転換に通っていました。

【4年・5年】

4年は、いきなり始まる難しい問題、慣れない予習と、親も子も大変でしたが、とても楽しそうに通っていました。5年の途中から算数がSクラスに上がりましたが、やはりなかなかついていけずAクラスに戻ることに。本人はショックだったようで、一時期塾へ行けなくなりました。何度か休んでも心は回復せず、泣く娘を無理やり引っ張って行き、ムーミンのお世話になることもありました。一時はどうなることかと気を病みましたが、娘も不安の種を潰せたようで、壁を乗り越え、通塾できるようになりました。

【6年】

5年の途中から私の仕事が忙しくなり、勉強進捗管理やチェックなどあまりできなくなり、復習した？予習した？など声掛けするだけで中身をちゃんと確認できていなかった為、シリーズ計算はやっていないところだらけ、毎日プリントも手を付けていないものが沢山。予習は各教科やっているが、復習は算数と社会に力を入れ、苦手な理科は手付かず、国語はほとんどやっていませんでした。こちらから声掛けしないとやらない、声掛けすればその日はやるけれどまたやらなくなるの繰り返し。反抗期も相まって、衝突が増えるようになりました。そんな中、夏休み前の合不合で大コケ。これが良い薬になったのか？夏休みは少し気合を入れて頑張っていました。圧倒的に復習が足りていませんでした。特に算数の白板復習はもっともっとやるべきだったなど。

9月以降、日曜は第一志望の富士見の過去問を中心に、その他大妻中野、共立女子、中大付属等視野に入れていた過去問にトライしました。

【志望校の決定】

娘の希望は3点、女子校もしくは大学付属。宗教校ではないこと。伝統校ではないこと。

娘の偏差値・通学距離を考えるとぐっと範囲が狭まりました。

◆第一志望：富士見（過去問は5年間分を2周）

自宅から近い点、校舎がきれいである点、また学校見学や説明会等での先生方の対応の良さ、教育方針、生徒たちの雰囲気、すべてにおいて好感が持てたため第一志望に。

◆第二志望：大妻中野（過去問は直近3年分を1回）

こちら、家から近くバスで通えて校舎がきれいな点で、第二志望に。

◆第三志望：三輪田（過去問は直近2年分を1回）

12月の面談時、合格を確実に取れそうな学校でおすすめを聞いたところ、紹介していただき。都内で1時間以内の通学時間、娘の希望にも当てはまった為、お守り校として置きこ

み、1月の娘の出来具合を見て受けるかどうか判断する事に。(結果受験しました)

◆チャレンジ校：中大付属 (過去間は直近3年分を1回)

自由な校風、なんでも生徒たちで決めるという自主性を育む教育方針に魅力を感じ、チャレンジ校としました。小学校の先生にも提出書類を記載いただきましたが、結果受けませんでした。

【受験校および結果】

◆1月校

・1/10 AM 星野学園進学 合格

・1/10 PM 星野学園理数 不合格 (進学ヘスライド合格)

本人も親も両方受かると思い挑みました。午前中は自信ないけど、午後はまあまあできた。実際蓋を開けてみると、午前合格、午後の理数は不合格 (進学コースヘスライド合格)。発表を見て、かなりショックだったようで、へらへらと笑っていた娘。思い切り泣ければスッキリして気持ちを切り替えられたらと思うけど、なかなか気持ちを切り替えられず。夜は勉強を少し減らし、気持ちを引き出すために、少し話し合いの時間を設け、声をかけ続けたところぼろぼろと涙が。この悔しい気持ちを忘れずにあと2週間頑張ろうと。この時の不合格は良い薬になったような気がします。

◆2月1日

AM 富士見中学 不合格

試験後、出口で待っていると、すごく暗い表情、死んだ魚のような眼をして出てきたので、瞬時にこれは駄目だったんだなと悟り、当日午後と翌日の試験に向けて励ましに徹しました。19時の合格発表を祈る気持ちで確認しましたが、不合格。翌日以降は偏差値も上がる為、かなり厳しい戦いになるなど、覚悟を決めた瞬間でした。

PM 三輪田中学 合格

こちらは直前に受けることを決めた為、過去問も直近2年分しかできておらず若干不安でした。試験後、暗い表情で出てきたので心配でしたが、富士見よりは解けたかなと。22時の発表を待たずに布団に入りましたが、本人なかなか眠れない様子でした。私が22時の発表を見て、合格を確認できたので、本人に声掛けしたところ、ほっとした表情に。安心して眠りにつけた様でした。

◆2月2日

AM 富士見中学 不合格→のちに繰り上げ合格!

この日も陰しい表情で出てきました。算数はできたけど、国語が難しかったと。偏差値がぐっと上がる2日目、この日も合格発表を祈る気持ちで合格発表を待ちましたがダメでした。

PM 大妻中野中学 合格

富士見よりはすらすら解けたという本人の感想通り、無事合格がもらえ、一安心。あとは翌日の富士見にかけるのみ。

◆2/3

AM 富士見中学 不合格

最後の力を振り絞って挑みました。今までよりは手ごたえがあったようですが、この日も願いは叶わず。

富士見の合格がもらえたなら、2/4の中大付属をチャレンジする予定でしたが、本人の力尽きたようでこれにて受験終了することに。

2日目に合格をもらった大妻中野へ進学することにしました。

★2/6

夕方、見慣れない番号から電話が。まさかと思い出ると、富士見からで、繰り上げ合格ですと!!!娘にも電話にて伝えるも、えっ?ほんと?と、信じられない様子でした。娘にも希望を聞くと、富士見に行く!とのこと。親も子も、大どんでん返しに大興奮でした。

【最後に】

同じ学校からアントレに通う子はおらず、心細いのに関わらず、毎日何時間も机に向かい勉強したこと、また3日間、計5回の試験をこなした事、本当に本当によく頑張ったと思います。また試験当日は、同行した親を振り返ることなく、すたすたと進んでいく娘が、とてもたくましく見えました。そして、繰り上げ合格の連絡に、今までの努力は無駄ではなかった！と親のほう励まされました。

最後になりますが、保護者の皆様、塾の送迎、お弁当作り、勉強と精神面のフォローと、本当にお疲れ様でした。アントレの前で待つ皆さんを戦友のように思っておりました。

また感情表現をあまりしない娘を、最後までフォローしてくださり、先生方には本当に感謝しております。アントレでなかったら、中学受験乗り越えられなかったなとしみじみと感じています。アントレの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

T・Yくんのお母様

【入塾】

息子がアントレにお世話になることに決めましたのは5年生の11月でした。3年生から他塾に入塾し、受験勉強を開始いたしました。5年生になった頃より成績が思うようにと、転塾などは思いもつかず、親子共々モヤモヤしたものを抱えつつも、せっかくここまで続けてきたという思いかず、そのまま夏期講習を受講しました。しかし、夏期講習が終了すると、息子は塾に行きたくないと言い出し、私と夫が考えている以上に息子には受験勉強を続けていることがストレスになっていることに気付き、最終的に夫が中学受験を辞めることを息子に勧め、息子も納得し、退塾いたしました。退塾後、それまでの勉強生活に疲れ切っていた息子は、学校から帰るとゲームばかりの生活をするのができ、ストレスから解放されたように思えました。しかし、私の中ではせっかく3年生から受験勉強をしていたのにもったいないな、という気持ちがあり、アントレに通っている女の子をもつ友達にアントレのことを聞いて、彼女からまず体験授業を受けてみたら、と勧められていました。そして、息子が前の塾を退塾して1週間経過したころ、どうもゲーム三昧の生活にも飽きてきたのかなという姿を見て、「アントレっていう塾をお母さんの友達から聞いたのだけど体験授業行ってみない？」と息子に提案してみたところ、「行きたい！」という答えが返ってきまして即日、アントレに電話をしてすぐに体験授業を受けることにしました。初めて体験授業に行く日は緊張していた息子ですが、同じ小学校の友達を見つけ声をかけてもらい、嬉しそうに教室に入っていき息子を見てホッとして帰ってまいりました。授業方式も先生方と生徒の関係も前の塾とは全く違い、息子は1週間の体験授業が本当に楽しかったようで、体験授業最後の日に村上先生からお電話いただいたときにはすでに入塾する気持ち満々で、アントレにお世話になることを決めました。

【アントレ入塾後5年生】

前の塾が予習型ではなかったので予習型の授業方式に慣れるのは少し苦労しました。土日に授業もテストもない分、楽に思えたのですが、予習は初め、夫が算数、私がお他の科目を担当し、少しでも早くアントレに慣れるよう手伝いました。もともと算数と国語につまずき（中学受験では致命傷ですが）転塾した息子なので白板問題はなかなか〇がもらえない上に、前の塾ではまだやっていたなかった単元がすでに四谷のテキストでは終わっていたというハンデもあり、追いつくのは大変でした。ただ息子は根性で追いつこうと頑張り、消極的な性格で質問などできるタイプではなかったのですが、清水先生に質問に行き、須藤先生の記述の授業も今までになく真剣に受けて帰って来ました。永田先生には物理の単元が苦手だったので質問し、荒武先生の社会の話は楽しいと申ししていました。そのような息子の姿をみて、アントレにしがみつくと覚悟だと親の私は感じておりました。

【6年生】

各教科の先生方にも慣れてきて、充実した冬期講習を受けられた結果、清水先生より6年生からSクラスで頑張ってみたら？と勧めていただきSクラスに入れていただいたものの、予想通り白板問題では〇がなかなかもらえないスタートを切りました。しかし、柏原先生が最初の授業後に「最初は悲惨な正答数でもしかたない、夏期講習までに結果を出せばよい」と励ましてくださったことで、息子はへこたれず、腐らず頑張る気持ちになれたようです。国語に関しては、私が天野先生に相談させていただき、その時の息子の実力に合った問題集や過去問をやって週1回、授業前に見ていただくことができ苦手な国語の克服につとめました。

【志望校選び】

長くキツイ夏期講習も明るく楽しい仲間たちと大好きな先生方に支えられ、なんとか乗り切ることができました。毎日毎日アントレに行くことが楽しくて仕方なかったようで、家に帰ってきてもアントレの話ばかりしていました。

後期が始まり、いよいよ志望校選び。尊敬する柏原先生の母校にあこがれ、どうしようか迷うこともあったようですが、元々は、かわいがってもらっている叔父の母校である早稲田高等学院に入りたいという理由で中学受験にチャレンジした経緯もあり、結局、初心貫徹で早稲田高等学院中部を第一志望にしました。

【受験を終えて】

第一志望に合格することができ、親としては息子の苦勞が報われたとホッといたしました。が、それもすべて、息子の頑張りよりも息子にとってアントレが本当に合っていて、先生方、仲間たちが大好きで、通塾が楽しくてたまらなかったことの結果だと思っております。

そして苦手であった算数を得意とまではいかなくとも息子なりに実力をつけることができたのは個別授業でお世話になった古内先生のおかげも大いにあったと思っております。古内先生は息子にとって不安なことを遠慮なく話せるお兄さんのような存在で、2月1日の朝のzoom 応援もしてくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。

アントレの先生方、古内先生、本当にありがとうございました。

アントレの今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

H・Aさんのお母様

【入塾のきっかけ】

11歳上の次兄がアントレでお世話になり、進学した中高でとても充実した学生時代を送ることができたので、娘にも中学受験の選択肢を与えようと思いました。体験授業に行かせるのと、「楽しかったのやってみたい」となり、そのまま入塾させました。次兄は先生をあだ名で呼んだり、真剣勝負で白板に取り組んだり最後まで悲壮感なく楽しい受験期を過ごすことができました。その経験があったので塾選びは迷いませんでした。次兄は今でも「アントレは楽しかった！今でも遊びに行きたいと思う」と言っています。

【学習について】

クラスはBからスタートし、その後は国語がSになったりしましたが大体Aクラスでした。つつい一人て予習をやらせていると、5年の後半から算数が低迷し、まとめテストの基本問題もボロボロに。清水先生に相談して、夏期講習でスタート予定の4まと算数を6年5月の連休に前倒しで解かせることにしました。6年後期になると、臨時に設定された算数A'クラス(AとBの間)に参加して基本問題を学び直し、過去問の解き直し対策のために個別に入りました。個別では解説を読んでも分からない問題を丁寧に教えてもらい助かりました。私は不得意な部分を解決できる資料を探したりしました。すると徐々に算数に自信が出て、受験に向かう雰囲気になりました。12月に入ると自分から「隠して」とゲームを差し出してきました。父親は、一緒に学校の選定を考えたり、帰宅しているときや帰宅時間が重なった際の塾の送り迎えをしてくれました。また一緒にアニメを見たり、美味しいものを買ってきてくれたりと終始良い雰囲気作りに貢献してくれました。

【志望校の選択】

<中央大学附属中学>・・・共学で男女の仲間を作りたい、いじめが少なそう、自由な校風、受験勉強以外のことも頑張りたい、という本人の希望に合致していました。大学の看板学部である法学部が4月から茗荷谷駅0分に移転することも魅力で第一志望にしました。

<学習院女子中等科>・・・すばらしい環境と美しい施設や優しい在校生の方々を娘が気に入り希望校に加えしました。外部受験が比較的多いのも魅力。最後まで第一志望にするか迷いました。

<富士見中学>・・・建替えて校舎がきれい。アクセスが素晴らしい。学校の面倒見も良くて出口(進学先)が良い。その後、色々な女子校を考えましたが、富士見中学と比べると、「アクセスの良い富士見が良いね」となり、受験校に加えしました。

<星野学園中学>・・・1月の受験校。共学でアットホームな雰囲気だし、帰宅時はスクールバスから降りると電車の始発に乗って所沢まで座って帰れることも魅力でした。

【志望校対策】

<中央大学附属中学>・・・過去問6年2回分、国語8年2回分。国語の読解がとにかく長い。熟読タイプの娘は国語が得意科目でしたが、ここでは足を引っ張りました。清水先生に「初めは点が取れなくて良いので、とにかく早く解く練習をする。点数は徐々に上がってきます」というアドバイスを頂きました。しかし中附より長い問題の学校が見つからない。仕方なく中附の過去問を遡って解き(短めの年は制限時間を短くして)、同じく長めの中央大学附属横浜中学の問題を短い時間で解く練習をしました。国語の点が徐々に上がり、合格最低点に届いたのは12月とギリギリでした。そして本番2日前に、あることに気づきました。娘は時間切れになった国語の問題の解答を(最後の10問くらい)いつも全て「ウ」にしていました。ふと見ると、答えの選択肢にウがあるのは1問だけ!「せめて選択肢にある記号を書こうね」と約束しました。

<学習院女子中等科>・・・過去問2年2回分。中央大学附属中学と真反対のじっくり記述の国語。あまりにも中附の国語が取れないので、2月1日はこちらにしようか迷いました(結局初志貫徹で一番行きたい中附を1日に受けることにしました)。算数は途中式にも点を与え、コンパスと三角定規を使った図形を書かせるなど、思考力をじっくり見るタイプの問題です。娘のタイプに合っているのか合っていないのか微妙なままでした。

<富士見中学>・・・過去問3年1回分

<星野学園中学>・・・進学→過去問1年1回分、理数→過去問2年1回分

【受験結果】

1 / 11 星野学園午前進学→よくできた→○ 午後理数→よくできた→○

私は講堂ではなく食堂で待機しました。待機中にテーブルでもう一度2月校の入試要項を熟読し、到着経路や入学金の支払いまで細かく計画を立てました。お恥ずかしいことに、このとき始めて学習院女子中学に面接があることに気づき、帰って面接用の服をネットで購入しました。

2 / 1 中央大学附属中学→算数はバッチリ、国語は思ったより短かった→○

2 / 2 富士見中学→全教科よくできた→○

2 / 3 学習院女子中等科→理系ができなかった→×

中附に合格したので受験を悩みましたが、きれいな施設への憧れがまだあったので、受験してすっきりしようとなりました。落ちたことで、気持ちが晴れたようです。午後の面接について書いておきます。父親が出張中だったので代りに私が行きました。質問は親子で半々くらい聞かれました。娘には「習い事で学んだこと」「どの科目ができたか」「どの科目が好きか、なぜか」「小学校で頑張ったこと、その内容の説明」。母には「中学受験を決意した経緯」「中学受験を通じて娘にどのような変化があったか」「娘の性格について」など。私の方が緊張し、落ち着いて受け答える娘を尊敬してしまいました。アントレでの練習ありがとうございました！

【反省点】

・学校見学が少なかった。心変わりや状況の変化に備えて、チャレンジ校や併願校など時間がとれるのであれば色々見学しておくことをおすすめします。我が家は、6年冬から成績が上がり始めた時や、過去問のタイプが合わないのではと不安に感じたときなど選択肢の少なさを反省しました。でも結果にはとても満足しています。

【役立ったこと】

<娘にとって>

・資料の整理。全ての白板ノートの背表紙に色分けテープを貼り内容を記入して整理してあったので、必要なときにすぐに引っ張り出せた。

・四科のまとめ算数。

<母にとって>

・シリーズ計算6年下(日々の計算と一行問題)。あまり見たことがありませんでしたが、計算ミスの多さを心配し、11月中旬から間違えた問題を毎日チェックしました。私では分からない問題も沢山ありましたが、小学生ならではの文章の勘違いや理解不足を見つけることができました。私の脳トレにもなりました。

・自分の人生での失敗経験。大きな失敗も色々ありましたが、それが今の素晴らしい縁につながっているのを実感しているので、結果はどうあれ子どもの将来にとって一番ぴったりの学校に入るはずだと信じていられました。

【最後に】

コロナ禍でも夜道を一緒に歩いたり、悩んだり、子どもと沢山の時間を共有し、私たち家族にとってかけがえのない思い出を作ることができました。娘は受験を通じてコツコツと自分の道を進むたくましさを養ったと思います。

共に合格を目指して学んだお友達、最後まで塾に行くのを嫌がらなかったのは皆さんのおかげです。ありがとうございました。長い目での視点をくださるFunちゃん、いつもの的確なアドバイスを下さった清水先生（兄でも大変お世話になりました）、進化を続ける先生方、個別で教える頼もしいアントレ卒業生、その絶妙なバランスに助けられた3年間でした。皆様に心より感謝いたします。アントレの階段から意気揚々と楽しそうに出てくる塾生のはつらつとした笑顔が脳裏に焼き付いています。

F・Yくんのお母様

【受験のきっかけ】

いろいろとこだわりの強い、個性的な、でもそれがいい味になっている息子。その個性が潰されることなくのびのびと成長して欲しいと思い、中学受験を考えるようになりました。

【5年生】

勉強に関しては下手に口出しをすると怒られるので、基本的には本人任せでした。算数は好きなので予習もある程度しているようでしたが、他の教科は当日行く間際になって焦ってとりあえず体裁を整える程度のことも多かったように思います。親のしたことはプリント整理や生活習慣の乱れを叱ること。ゲームやYouTubeを見て夜更かしする時もあり、「塾で眠くなって、(授業を聞かずに)椅子を温めてくれるだけとかやめてよ。」と注意しました。家ではそんな様子なのに、テストではまずまずの成績をとることもあり、きっと塾では集中して先生の話の聞いているに違いないと信じて見守りました。

【6年生】

総合的な内容になり、今までコツコツと復習や暗記をしてこなかったことが成績にも反映するようになりました。特に暗記が必要な社会は平均を下回るようになり、早めの補強が必要でした。しかし何度言っても社会には気持ちが向かず、6月半ばに個別授業を開始しました。夏も終わる頃、急に歴史漫画の現代史の分野が面白いと言って繰り返し読み始めました。これはチャンスと他の時代も読んでみるよう勧め、それ以降受験まで歴史漫画を読んでいる姿をよく見かけました。歴史の背景も分かって良かったようです。

秋からは入試演習も始まり、個別も含めると週に5日アントレに通う日々でした。過去問も徐々に始めなくてはなりませんでしたが、本人は、「過去問に逃げてはだめだ。」と言い、あくまで授業をメインにしたスタンスでした。でかっちょ先生との面談でも、武蔵中学以外の志望校はそれほど過去問対策が必要な学校ではないと言われたので、武蔵中学以外は問題形式やボリュームを見るためにとりあえず数回分だけ解きました。

【直前期】

コロナとインフルエンザの同時流行も懸念されていたため、1月からは学校を休みました。塾のない日には過去問を進め、最終的には武蔵中学10年分、芝中学4回分、城北中学4回分、成城中学1回分、巣鴨中学算数選抜1回分、栄東中学2回分解きました。他の勉強は本人に任せましたが、社会の夏期講習テキストを1周したり、入試演習でもらった算数のプリントをすべて解きなおしたりしていました。入試1週間前になり残りの時間をどう使うか本人に聞くと、「もう過去問はやらない。最後の悪あがきをする。」と言うので、本人が必要だと思う勉強を悔いの残らないようにしてもらうことにしました。ここまでくると、親としては体調を崩さないように、そして本人が納得して受験を終えられるようにという思いでした。入試まであと3日となったところで、夏期講習の白板問題を全て解き直しはじめ、夏よりも進化している実感を得たようです。

【志望校選び】

中学受験関連の本を読む中で、武蔵中学の教育方針や校風を知り、個性的な息子にぴったりだとまず私が惚れてしまいました。その後、息子と一緒に説明会や校内散歩などに行き、息子も自由な校風や川の流れる自然豊かな環境などがとても気に入り、武蔵中学が第一志望となりました。武蔵中学熱望といった様子で、四谷大塚の合不合格判定テストの合格可能性は総じて30%程度と成績が届いていなくても、気持ちが揺らぐことは全くありませんでした。目標校はできたものの、息子は武蔵中学熱望のあまり、他の学校を考えられない様子でした。

通いたいと思える学校を増やすため、似たような校風の学校はないものかと調べ、芝中学の説明会に息子を連れて行きました。とても暖かく話も面白い先生方、男子の成長の過程をおおらかに見守ってくれる感じで、息子も私もとても好印象でした。少し遠いので一度は選択肢から外れたのですが、最終的には本人が、「武蔵が駄目だったら芝に行きたい。」と言い、第二志望になりました。

その他も家から通える範囲の学校の説明会に数校参加しましたが、武蔵中学以外の学校に浮気？したくない息子は、「俺は（説明会に）行くなんて聞いてない。」とぶつぶつ。文化祭に連れて行っても1時間もせずに帰る・・・という状況でした。せっかく来たんだからちゃんと見てよと思いましたが、意外にも志望校を決める際には、「この学校はあまり惹かれないんだよね。」と話すなど、本人なりに感じる部分があったようです。

親のした工夫としては、合不合判定テストの会場をなるべく受験予定の学校を選択しました。毎回あちこち行きましたが、何度か学校に足を運んでいることが、本番では少し安心感につながったかなと思います。

【入試】

1/10 栄東中学校 A 日程 ⇒ 東大クラス1年間特待合格

とても風が強く寒い日だったからか、学校へ向かう途中でお腹が痛くなりカイロで温めました。こだわりがあり、暖かい格好をするように何度言っても聞きません。逆にいつもと違う服を着て調子が狂うのも困ると思い、あきらめ気味でした。「これを教訓に、本番では暖かい格好にしたら？例えば長ズボンにするとか…」と言ったその時、私たちの横を半ズボンの男の子が颯爽と通り過ぎて行き、あまりのタイミングに二人で笑ってしまいました。初戦の緊張もすっかり解け、お腹の痛みも無事おさまり、気持ちも楽に受験出来たようです。

2/1 午前 武蔵中学校 ⇒ 合格

いつもと変わらない様子で起きてきましたが、やはり緊張しているのか朝食はコーンスープのみ。栄東中学での教訓も生かされることなく、いつも通りの寒そうな格好にカイロを2個持参して出発しました。試験終了後の最初の一言は、「終わった・・・」でした。算数の間違いに気がついて書き直している途中で時間が終わってしまった、社会も試験終了後に、こう書けば良かったんだと思う問題があった、と。「きっと部分点もらえるよ。大丈夫だよ。」と励ますも、本人はどよーんと沈んだまま午後の試験へ。

2/1 午後 巣鴨中学校 算数選抜 ⇒ 合格

ギムナシオン（体育館）で昼食・待機ができるとのことで、夫の運転する車で直行しました。車の中でおにぎりやパンを食べているうちに到着。早く到着したので、ギムナシオンで入室時間までのんびり待ちました。試験中に、校長先生や入試担当の先生などから話がありました。「午後、せっかく巣鴨に試験を受けにきてくれたのだから、少しでも楽しい気持ちを持って帰って欲しい。良ければ帰りにグータッチしましょう。」と。今回は自信ありそうな様子で出てきた息子。先生とグータッチをして帰りました。

2/2 城北中学校 ⇒ 合格

前日は気持ちが沈んだまま、夕飯も食べずお風呂も入らずに18時には布団をかぶって寝てしまった息子。朝どんな様子かと心配していたら、たくさん睡眠をとってすっきりといった様子で起きてきました。巣鴨中学の合格を伝えると嬉しそうな様子。2/1のうちに合格をもらえたことは精神面でよかったと思います。前日の夜アントレに、巣鴨中学の合格と武蔵中学受験後のがっくりした様子を伝えていたので、ZOOM応援では、「もやもやしていると思うけれど、いつもの冷静さでやれば大丈夫。」と励ましてもらい出発しました。試験後合流するとまざまざの手ごたえのよう。ただ夕方になり急に結果

が心配になってきたのか、「なんか胸がいっぱいで入らない。」と夕食はほとんど食べず。20時の発表までドキドキしましたが、無事合格をいただくことができました。

2/3 (成城中学校 受験せず)

城北中学に合格をいただいたので成城中学は受験せず、9時の武蔵中学の結果を待ちました。自分自身で結果を確認したいとのことで、自分のタイミングで、心の準備をしてからクリックするように言いました。結果が残念だった場合は、第2志望の2/4の芝中学の受験申し込みをする予定でした。武蔵中学受験後の息子ががっかりした様子から、今日はまた気合を入れ直して勉強かなと思っていましたが、「おー！」と喜びの声が。驚いたことに武蔵中学の合格をいただくことができ、これをもって息子の中学受験は終了となりました。

【受験を振り返って】

息子はいよいよ受験が近づいてきた頃、「もう早く終わって欲しすぎて、結果とかどうでもよくなっちゃった。」と言ったことがありました。一瞬言葉に詰まり、「でも結果が駄目だったら、やっぱり悔しいと思うけどな。今はやる時だよ。」と返しました。この時期に結果がどうでもいいという気持ちは駄目でしょと思ったのですが、でも少しして、言葉の裏にある不安や逃げ出したい気持ちに気づきました。自分の中で様々な感情と戦っていたのだと思います。息子はそんな言葉を漏らしつつも、気持ちを抑えて逃げることなく、自分でやると決めた事を最後まで続けました。中学受験で得たとても大切な経験と学びだったと思います。いつエンジンがかかるのかとやきもきした時期もありましたが、最後の最後には、成長とたくましさを感じられる立派な受験生になったと思います。

【最後に】

4年生の秋ごろに入塾してから2年と少し。初めのうちは、放課後に小学生が21時まで勉強なんて中学受験は大変ねと思いましたが、息子はアントレが大好きでいつも楽しそうに通っていました。小学校には行きたくないと言うことがあっても、アントレに行きたくないと言ったことは一度もありませんでした。今は急に塾がなくなって、「なんか暇だな。」と言っています。「アントレ楽しかった？」と聞くと、「うん、楽しかった！」と即答でした。息子がこんなに楽しく中学受験生活を送れたのは、アントレの先生方、個別でお世話になった島田先生、そして一緒に学んでくれたクラスメイトのおかげです。本当にありがとうございました。

Y・Yくんのお母様

3年間の中学受験は予想以上に盛りだくさん過ぎて、いくらでも書ける気がするのですが、頭を整頓して、息子に並走した時間を綴ってみたいと思います。

【息子について】

のんびり、マイペースな性格です。現状維持の平和主義者と言えば聞こえがいいですが、裏を返すとチャレンジ精神があまりなく、自己肯定力が低め。偏差値帯はボリュームゾーン。好きなことは読書（活字中毒かと思う程ずっと本を読んでいる）、生物に関すること全般。

【入塾】

3つ上の兄の都立受験のため息子の通塾を考えたのは2月と遅く、すぐにコロナで一斉休校となってしまうました。近くの塾はどれもピンとこず、友人の口コミで聞いたアントレに問い合わせることに。

が、アントレも当時は配信型授業が始まったばかり。体験授業が受けられるはずもなく、せめて授業の雰囲気だけでも知りたいと思い、授業動画を送っていただくことにしました。

そこで目にしたのは、ナス・・・茄子?! もとい、茄子に扮したカッシー!

初めて見た授業で着ぐるみを着た先生が出てきて（でも説明早い、難しい!）、あっけにとられる息子。でも「塾ってなんか難しそう」という先入観が吹っ飛んだようです。

今思うと、『先の見えない状況下での、新年度始まってすぐの慣れない動画授業…、せめて子供には楽しく授業を受けてほしい』、そんなアントレの先生方の優しさと配慮が感じられ、体験を受けるまでもなく、この塾にしよう!と息子と決めたものです。

休校明けに体験授業を受けようと決め、それまで算数だけは遅れをとるまいと予習シリーズを取り寄せて、自宅学習をしていました。入塾は6月でした。

【4年】

白板問題を短時間で書き写すことに苦戦し、持ち帰ったノートは毎回判読不能。（復習したいのに復習できない!）プーサンのノートチェックがありがたかったです。じっくり考えるアントレの授業のおかげで「わかる、解ける＝算数楽しい!」となり、上のクラスに行きたいと欲が出てきました。

【5年】

この学年の間に時間の使い方を上手くすべきでした。

先にやるべきことを終わらせて余った時間を好きにすればいいものを、やりたくない気持ちと葛藤しながら勉強しているせいで、定着率も悪く終わらないので、結果ダラダラやり続けるという状況から抜け出せませんでした。これは引き続き本人の課題だと思います。

特に後期からは算数の難易度が上がって予習復習の量が増え、加えて社会や漢字の暗記物が積み重なり、今まで通りの勉強法では一週間が回らなくなってきました。中でも社会の崩壊ぶりは酷く、苦手だからやりたくない→確認テストができない→益々嫌になる…の負のループ。（今本人に聞くと「〇〇の毎日プリントは毎日プリントじゃなかったね」←過去の自分に言ってやってほしいです、本当に。）

仕方なく低迷している社会のウェイトを増やすと今度は算数が崩れてくる有様。途方に暮れてフンチャンに相談すると「とにかく算数を」とのこと。算数の時間を増やすと、まとめテストの成績は安定してきましたが、問題の社会は苦肉の策で、毎日プリントを赤セルで隠して答える形に打ち直して取り組ませていました。（これが6年後期に大きな負債となって返ってきます。）

【志望校選択】

好きなものと嫌いなものの差が大きいことから、バランス型ではない→男子校向き、大学は自分の意志で選んでほしい→付属ではない学校、と方向性を決め、5年生の夏の間は何校か見学に行きました。が、秋までピンとくる学校がなくフンチャンに相談したところ、「桐朋はどうですか?」とお勧めされ、行ってみることに。タイミングよく自由研究の展示会が開催され、息子はそこで2時間以上、研究作品を読むことに没頭していました。研究内容の多様さやそのレベルの高さに圧倒されたようです。桐朋を出るときに「ここの学校目指したい。」—はじめて息子から出た志望校、そして最後まで揺らぐことはなかったです。その後、穏やかな校風が息子と合い、且つ生徒の対応の好感度が高い成城を第二志望、本好きの息子が気に入るであろう、図書館の蔵書数の多い獨協を第三志望としました。翌年の文化祭では上記の学校すべてに訪問することができ、本人も納得して志望校を決めていました。特に桐朋は生物部の中に本人の好きな鳥類班があり、一目惚れ!

コロナのため、実際の文化祭を見られた機会は1度きりでしたが、ようやく見られた文化祭だけにインパクトも相当なようで、最後までそれがモチベーションとなって気持ちを支えてくれたような気がします。

今年も予約が取りづらい状況が続くかもしれませんが、満席になった学校でもイベントの前日、前々日などにキャンセルで空きが出ていたりするので、確認をお勧めします。

【6年生】

5年生の終わるところから、息子の方から志望校に合わせるためにクラスアップを望むようになりました。子供の成績を柵に上げて…、と先生方には思われていたかもしれません。とりあえずお試しでAクラスに入れてもらい、結局最後までそのままでした。

算数・・・レベルが格段に上がり白板問題で○が殆どもらえず、家での勉強時間の大半を算数に充てていました。さらに夏期講習でも算数に苦しみ、3年間通して一番大変な時期だったと本人談。後期はA2クラスを希望しポッキーにお世話になりました。

また後半は個別指導をお願いし、本人の苦手分野や間違えやすいパターンを細かく分析していただけたことは非常に有益でした。家で見るのは難しいため、毎回いただく指導報告書のアドバイスはとても参考になりましたし、本人の学力が過去問に対してどこまで達しているのかも客観的に見ていただけて、本当によかったです。

土曜演習や過去問を解くようになると、ミス(計算ミス、転記ミス、問題文の読み違いなど)が目立ち点数が伸び悩んだことから、最後まで自分で修正ができるように訓練しました。

国語・・・読書好きなので、問題文を読むのが楽しくて仕方なかったそうです。ただ解けるかは別。選択肢は2つまでは絞り切れるが最後で外す事がよくあり、ラクダのアドバイス(わからないものには△をつける等)に沿って丁寧に見直す事を徹底させました。

社会・・・最も苦手で足を引っ張る教科でした。解答用紙は「ウケねらってるの?」と言いたくなるような珍回答の続出。特に漢字が怪しく、後期は授業のテストと演習クラスの復習をメインに、コアプラで定着させました。歴史は漫画も活用していました。

理科・・・後期のまとめテストと冬期講習のプリントがとてもよく、弱点の見直しと補強にかなり役に立ちました。物理分野が苦手でしたが主人が理屈を説明すると意外とすんなり理解でき、自信にもつながりました。

【過去問対策】

9月のタケノコとの面談で、『今の状態では成城を固めないと、2校とも×になる可能性もある。覚悟があれば桐朋で突っ走るのもいいが、成城も同じくらい志望度が高ければ、まずはそちらを優先しては。』とのことで、その考えに全く同意だったので、志望度合いよりも合格角度の高さを優先して成城：桐朋=3:1くらいで取り組みました。

◇成城 6年分×2周

『近年少しずつ難易度が上がっている』とフンチャンの見解。社会の地理分野の問題が特徴的です。ダンディにお願いすると10年分の過去問をいただけます。2周目を解くころには、ほぼ合格点を上回るようになっていましたが、本番の一発できちんと点数が取れるかが最後まで不安でした。算数がカギでした。

◇桐朋 算数、理科、国語は4年分×1~2周。社会は2年分×1周

桐朋の過去問対策の時間を十分確保できなかったので、算数と理科は大問1問ずつに分解し貼り付けた桐朋ノートを作りました。この方法だと15分程度の時間でも問題に触れることができます。国語は記述の添削をラクダにお願いしました。蛍光ペンを使った要素の分解はとて分かりやすかったそうです。桐朋の記述が書けるようになると、選択肢問題が「簡単に解けるようになってきた」と。確かにこの対策のおかげで直前に選択肢メインの成城の国語を外すことは少なくなっていました。学校説明会の時に申し出ると実際の過去問をいただけます。

◇獨協 午後問題を1年分。理社を2回。

合格点は上回っていましたが、午後受験に関しては算数の難易度は高めです。12月中旬に入試問題説明会が開催され（昨年動画配信）、解答する際の注意点などを教えてください。出題に関してはそこまで突っ込んだ説明はなかったです。

年末に再度息子と日程の話をする。「桐朋は行きたいけど難しいのは分かってるし、ちゃんと成城で○をもらって安心してから受けたい」とのことだったので、1日成城、2日桐朋とし、2日までに合格がなければ獨協と成城を交互に5日まで受け続けるプランで行くことにしました。（2日の桐朋が難しいのは織り込み済み、本人も承知の上で）

最終的に成城に対しては国語と理科は何が出てもいけると言えるくらいにはなり、算数は凡ミスしなければ大丈夫、社会は分からなくなったらダンディとモモの顔を思い出して！と言って送り出しました。（社会は授業中のこぼれ話がよく出ていたそうです）

途中低迷していた土曜演習の成績も1月に入ると上向きで、「この流れで行ってくれば」と祈るような気持でした。

【入試】

◇1月 城北埼玉→補欠合格

まさかの補欠で親の方が真っ青。原因はおそらく子供が受験を自分事としてとらえていなかったこと。合否の伝え方を悩みタケノコに相談した結果、「○をもらえてよかったね」ではなく敢えて厳しめに、「力はあるのに気持ちの面で負けている。本番に向けて真剣に向き合わない」と2月も苦しくなるから気持ちを入れ替えること。」という伝え方にしました。

◇2月1日 午前 成城→合格

終了後、合流するや否や「絶対に受かっている！」。子供のできた程アテにならないものはありません。午後の獨協をパスして帰ろうという息子を説得し、午後受験へ。しかし結果的には子供の感覚は正しかったです。

◇2月1日 午後 獨協→不合格

まさかの不合格。（午前の結果と逆じゃなくてよかったという安堵感と、力抜いたなという怒り半分）1月校と一緒に気持ちが向かないと合格しない、というのを思い知らされました。

受験が自分事になっているか、が息子の受験においてはキーファクターだったように思います。

◇2月2日 桐朋→不合格

親としてはご褒美のチャレンジ校、でも本人にとっては本命校。1月は半分くらいを桐朋の過去問に費やしました。感覚的には「今までで一番解けた」そうですが、結果を知って「やっぱりね…」といった感じでした。あとで問題用紙を確認すると、とても丁寧な字で書かれており、息子の本気度が伝わってきました。

長期戦も想定していたものの、始まってみれば最短での受験終了でした。個人的には獨協のリベンジをして○で終わってほしかったのですが、本人の中では2日の桐朋終了と共に受験も終了したようです。早速国立の本屋で生物の本を買い、むさぼり読む姿に日常が戻ってきたことを感じました。

【おまけ】

1月31日の夕方から自宅トイレの水もれ、息子の歯がぬけ、当日はzoom応援を受けたあと、息子が受験票を落とす、家では合格祈願のだるまが落ちる…と見事なオチルフラグが立ちまくっていました。見事なフラグの連続に却って笑えて来てしまい、悪いものを全て出し切ったと信じることに。(でも結果を見るまでは怖くて仕方なかった…)

何があっても気にしないのが一番です。信じるのは、これだけやった！と思える子供本人。試験会場に入る受験生の後ろ姿は、みんな本当にたくましかったです。

【受験を終えて】

「受験勉強を通して、一つのことをやり抜く大切さ、達成感を知ってほしい。またそこから自己肯定感を少しでも上げてあげたい」—これが、私たち両親の受験の目的でした。1月半ばまでネガティブワードを吐いていた息子ですが、最後の最後は根性を見せ、自分が行きたい学校からきちんと合格をもらってきたことで目的は達せられたなと思います。憧れの桐朋に届かなかったのは実はとても悔しいのですが、それも貴重な経験、成長の糧になってくれればと思います。

合格後、久しぶりに訪れたアントレに、息子と二人で「あ、やっぱこの雰囲気いいよね、好きだなあ」とほっこり。受験塾なのにこんな優しい雰囲気にあふれている塾はそうそうありません。アントレを選んだことがこの受験の最大の正解でした！悩んだ時には、すぐにアントレに相談。嫌な顔一つせず、適格な助言を下された先生方には感謝してもしきれません。アントレでなかったら、結果や息子の勉強に対する気持ちはもっと違うものになっていたかもしれせん。

アントレの先生方、個別の古内先生、上原先生、拙い息子を導いていただき本当にありがとうございました。これからもアントレの益々の発展をお祈り申し上げます。